鳥取県教育文化財団調査報告書29

鳥取市

東桂見遺跡

鳥取市

布勢鶴指奥墳墓群

布勢総合運動公園公園整備工事のうち
埋蔵文化財調査委託事業

1992

財団法人　鳥取県教育文化財団

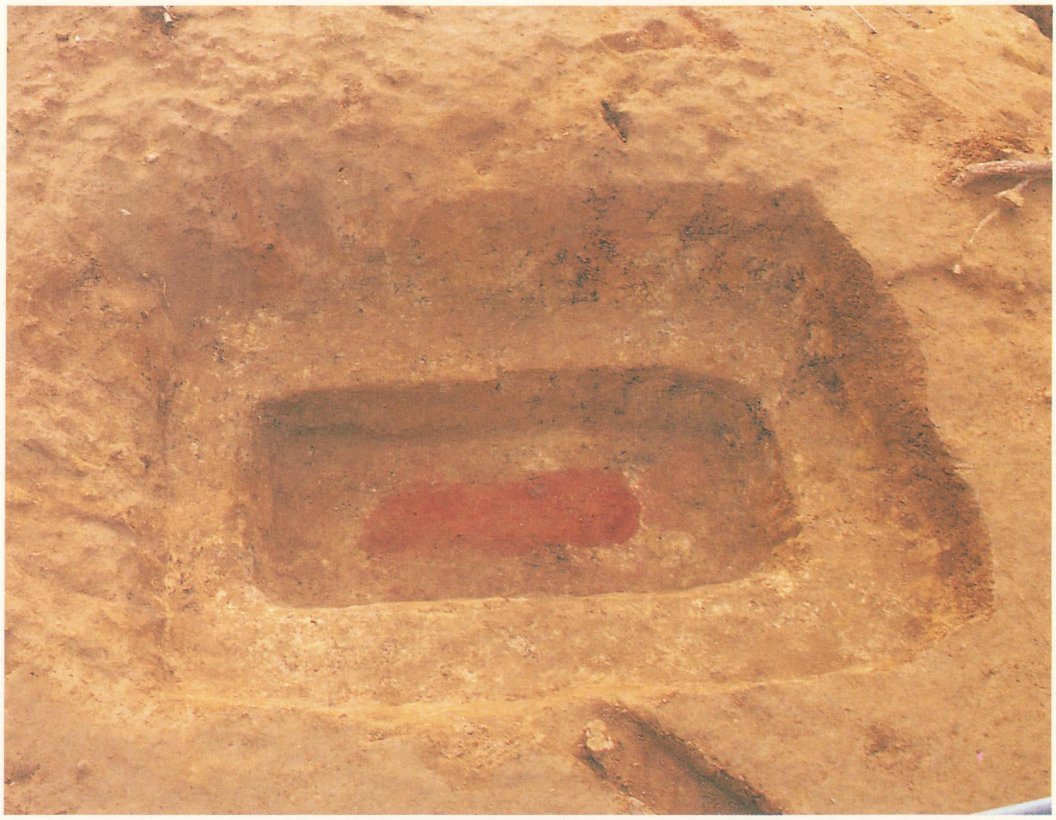
東桂見遺跡報告書正誤表

		誤り	正
例言	1行目	桂見字白田(うんだ)	桂見字白田(うすだ)
P 1	10行目	土師器、須恵器で石鏃	土師器、須恵器や石鏃
P 3	5行目	12月30日	11月30日
P 7	下から3行目	河原町(かわばらちょう)	河原町(かわはらちょう)
P 8	上から4行目	中国山地に	中国山地を
P11	19行目	西桂見遺跡〈8〉あり	西桂見遺跡〈8〉があり
P12	11行目	条、理、郷、坪	条、里、郷、坪
P119	1行目	追加	【SX-03】
P120	6行目	平面、低面	平面、底面
P169	下から5行目	第1～3層	第10～12層
P169	下から4行目	第6層	第14層
P169	下から3行目	第15層	第29層
P171	6行目	最大で2.4mを計るが	最大で2.4mを測るが
P171	9行目	入り口の幅は4.17mを計る。	入り口の幅は4.17mを測る。
P171	下から6行目	短軸4.4mを計る。	短軸4.4mを測る。
P174	6行目	短軸0.8mを計り、	短軸0.8mを測り、
P174	15行目	短軸1.36mを計る。	短軸1.36mを測る。
P176	6行目	短軸3.34mを計り、	短軸3.3mを測り、
P183	14行	鉄釘F1	鉄釘F2
P236		写真A	SD-01土層写真
P238	表27　No.7	寧元宝	熙寧元宝
P101～102		追加	㊸明黄橙褐色土(小礫・花崗岩礫多混。しまり良し) ㊹黄灰褐色土(モサモサして、しまりが悪い) ㊺暗黄橙灰色土(花崗岩礫混、しまりが良くない。) ㊻暗茶灰褐色土(やや粘性をもつ。大変しまりが良い。) ㊼暗黄灰褐色土(花崗岩礫混。やや粘性をもつ。大変しまりが良い。) ㊽暗黄灰褐色土(小礫混)＝流土 ㊾淡黄灰褐色土＝流土 ㊿暗褐灰色土＝流土 (61)暗灰褐色土＝流土 (62)暗黄橙茶褐色土(花崗岩礫混)＝流土 (63)明橙褐色土(粘性をもつ) (64)暗黄赤灰褐色土(やや粘性をもつ)＝流土 (65)淡黄橙灰褐色土(やや粘性をもつ)＝流土 (66)暗黄灰色粘質土＝地山 (67)赤褐灰色粘質土＝地山 (68)風化花崗岩＝地山

東桂見遺跡
布勢鶴指奥墳墓群

1992

財団法人　鳥取県教育文化財団



布勢第１墳丘墓　第１主体部

序　　文

「湖山長者」の伝説で知られる湖山池周辺は、数多くの遺跡が存在する遺跡の宝庫でもあります。

平成７年のインターハイが開催される布勢総合運動公園の整備事業にともなって、当財団が鳥取県より委託を受け東桂見遺跡と布勢鶴指奥墳墓群の発掘調査を実施しました。

この発掘調査によって弥生時代の墳丘墓をはじめとする多くの貴重な遺構を調査し、弥生時代と中世の葬制など、郷土の歴史を解明する上で多大の成果を納めることができました。

本書は、この発掘調査の結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためまとめたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるとともに、教育及び学術研究のために広く活用いただければ幸甚と存じます。

最後に、調査に際しましては、都市計画課、鳥取土木事務所、布勢総合運動公園管理センター、桂見地区の皆様の御理解と御協力を頂くとともに、奈良国立文化財研究所や鳥取大学など関係各機関各位の御指導御助言を賜りました。心から感謝申し上げます。

平成４年３月

財団法人鳥取県教育文化財団
理事長　西　尾　邑　次

例　　言

1．本書は、鳥取県鳥取市桂見字臼田、布勢字鶴指奥に所在する、東桂見遺跡と、布勢鶴指奥墳墓群の発掘調査報告書である。

2．この調査は、9－6－15布勢総合運動公園整備事業に伴う発掘調査で、1991年度に(財)鳥取県教育文化財団東部埋蔵文化財調査事務所が実施した。

3．調査における測量は、国土座標第Ⅴ系を用いX＝－55662.836、Y＝－13900.000と、X＝－55894.664、Y＝－13986.398の2点をもとに、遺跡測量システム「ＳＩＴＥ」でおこなった。

4．本書に掲載した実測図・図版写真は、調査に参加した全員の協力によって作成したものである。

5．本書に執筆編集は、調査参加者はじめ、多方面の方々の指導と支援を受けて中村徹、西浦日出夫、小谷修一を中心に行った。

6．布勢鶴指奥墳墓群出土赤色顔料の分析については、奈良国立文化財研究所村上隆氏、人骨については鳥取大学医学部井上晃孝助教授、また東桂見遺跡出土の木製品の^{14}C年代測定を京都産業大学山田治教授に、材質鑑定は、鳥取県工業試験場佐藤公彦研究員の御教示を受けた。なお、赤色顔料の分析、人骨鑑定、^{14}C年代測定については玉稿をいただき本書に載せることができた。各先生方に厚くお礼を申し上げたい。

7．本書に用いた方位は、真北を示し、レベルは海抜標高である。

8．図版中の遺物番号は、本文中の実測遺物番号に対応する。

9．出土遺物、図面等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的には鳥取市に移管する予定である。

10．発掘調査、整理作業中、下記の方々に御指導、御助言をいただいた。

赤木三郎、久保穰二朗、黒崎　直、坂本敬司、塩見邦彦、豊島吉則、中野知照
錦織　勤、平川　誠、松本岩雄、渡辺貞幸（五十音順、敬称略）

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿図目次
挿表目次
図版目次
第1章　調査経緯
第1節　調査に至る経緯 …… 1
第2節　発掘調査の経過 …… 3
第3節　調査体制 …… 6
第2章　位置と環境
第1節　地理的環境 …… 7
第2節　歴史的環境 …… 9
第3章　東桂見遺跡
第1節　調査の概要 …… 13
第2節　出土遺物 …… 37
第3節　鳥取県、東桂見遺跡におけるプラント・オパール分析 …… 80
第4節　東桂見遺跡の液体シンチレーション^{14}C年代測定について …… 91
第5節　東桂見遺跡のまとめ …… 95
第4章　布勢鶴指奥墳墓群
第1節　調査の概要 …… 97
第2節　弥生時代の遺構・遺物 …… 97
第3節　古墳時代の調査 …… 177
第4節　中世墓の調査 …… 178
第5節　考　　察
第1項　墳丘墓及び木棺墓群について …… 280
第2項　中世墓について …… 286
第3項　布勢鶴指奥1号墳丘墓第1主体部出土の赤色顔料の分析 …… 290
第4項　布勢鶴指奥墳墓群からの出土人骨と獣骨 …… 292
第5項　おわりに …… 313
布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表 …… 314

挿　図　目　次

挿図 1　布勢総合運動公園内の遺跡分布図 …… 2
挿図 2　調査区 …… 3
挿図 3　鳥取県地形図 …… 7
挿図 4　鳥取市西北部主要遺跡分布図 ……10
挿図 5　東桂見遺跡全体図 ……13
挿図 6　1区土層図 ……15
挿図 7　1区弥生面遺物・遺構検出状況図 ……16
挿図 8　1区古墳面遺物・遺構検出状況図 ……17
挿図 9　1区中世面遺物・遺構検出状況図 ……18
挿図 10　2区全体図 ……19
挿図 11　2区東壁土層図 ……20
挿図 12　SD-08 遺構図 ……21
挿図 13　SD-08 土層断面図 ……21
挿図 14　4区土層図(1) ……22
挿図 15　4区土層図(2) ……23
挿図 16　SD-05 土層断面図 ……24
挿図 17　SD-06 土層断面図 ……24
挿図 18　SD-07 土層断面図 ……24
挿図 19　弥生時代粘土面地形測量図…25・26
挿図 20　古墳時代粘土面地形測量図…25・26
挿図 21　古墳時代木製品出土状況図…27・28
挿図 22　杭列 ……29
挿図 23　板列 ……29
挿図 24　筌出土状況図 ……30
挿図 25　5区土層図 ……32
挿図 26　5区遺物・遺構検出状況図……33
挿図 27　7区西壁土層図 ……34
挿図 28　7区平面図 ……35
挿図 29　7区北壁土層図 ……36
挿図 30　東桂見遺跡出土古銭拓本 ……37
挿図 31　東桂見遺跡出土遺物(1) ……38
挿図 32　東桂見遺跡出土遺物(2) ……39
挿図 33　1区古墳時代木製品(1) ……50
挿図 34　1区古墳時代木製品(2) ……51
挿図 35　1区古墳時代木製品(3) ……52
挿図 36　1区古墳時代木製品(4) ……53
挿図 37　1区古墳時代木製品(5) ……54
挿図 38　1区弥生時代木製品(1) ……55
挿図 39　1区弥生時代木製品(2) ……56
挿図 40　2区古墳時代・弥生時代木製品 …56
挿図 41　4区古墳時代木製品(1) ……57
挿図 42　4区古墳時代木製品(2) ……58
挿図 43　4区古墳時代木製品(3) ……59
挿図 44　4区古墳時代木製品(4) ……60
挿図 45　4区古墳時代木製品(5) ……61
挿図 46　4区古墳時代木製品(6) ……62
挿図 47　4区古墳時代木製品(7) ……63
挿図 48　4区古墳時代木製品(8) ……64
挿図 49　4区古墳時代木製品(9) ……65
挿図 50　4区古墳時代木製品(10) ……66
挿図 51　4区SD-05砂中出土木製品(1) ……67
挿図 52　4区SD-05砂中出土木製品(2) ……68
挿図 53　4区SD-05砂中出土木製品(3) ……69
挿図 54　4区SD-07砂中出土木製品 ……70
挿図 55　4区弥生時代木製品 ……70
挿図 56　5区古墳時代木製品 ……71
挿図 57　5区弥生時代木製品 ……72
挿図 58　7区古墳時代木製品(1) ……73

挿図 59　7区古墳時代木製品(2) ……74
挿図 60　7区古墳時代木製品(3) ……75
挿図 61　7区古墳時代木製品(4) ……76
挿図 62　7区古墳時代木製品(5) ……77
挿図 63　7区弥生時代木製品(1) ……78
挿図 64　7区弥生時代木製品(2) ……79
挿図 65　中世層出土木製品 ……79
挿図 66　土層断面図と分析試料の採取箇所 ……84
挿図 67　イネのプラント・オパールの検出状況 ……87
挿図 68　おもな植物の推定生産量と変遷(1) ……88
挿図 69　おもな植物の推定生産量と変遷(2) ……89
挿図 70　おもな植物の推定生産量と変遷(3) ……90
挿図 71　布勢鶴指奥墳墓群全体図 ……97
挿図 72　墳丘墓盛土検出面地形測量図 ……99
挿図 73　墳丘墓遺構図 ……100
挿図 74　墳丘長軸・短軸土層断面図 ……101・102
挿図 75　第1主体部遺構図 ……104
挿図 76　第1主体部遺物出土状況図 ……105
挿図 77　第2主体部遺構図 ……106
挿図 78　第1主体部供献土器(1) ……107
挿図 79　第1主体部供献土器(2) ……108
挿図 80　墳丘墓東西斜面出土土器 ……109
挿図 81　墳丘墓周辺埋葬施設群 ……110
挿図 82　墳丘墓南側テラス・南東斜面埋葬施設群遺構図 ……111・112
挿図 83　SX-01 遺構図 ……114
挿図 84　SX-02 遺構図 ……115
挿図 85　SX-47 遺構図 ……117
挿図 86　SX-48 遺構図 ……117
挿図 87　SX-03 遺構図 ……118
挿図 88　SX-03 出土土器実測図 ……119
挿図 89　SX-05 出土土器実測図 ……120
挿図 90　SX-05・06 遺構図 ……121・122
挿図 91　SX-06 出土遺物実測図 ……123
挿図 92　SX-04・07・11・13・14・15・49 遺構図 ……127
挿図 93　SX-04・07・11・13・14・15・49 出土土器実測図 ……129
挿図 94　SX-12・16・17 遺構図 ……131・132
挿図 95　SX-12・16・17 出土土器実測図 ……133
挿図 96　石列周辺の埋葬施設群遺構図 ……135・136
挿図 97　SX-08 遺構図 ……137
挿図 98　SX-09 遺構図 ……138
挿図 99　SX-10・19・42 遺構図 ……139
挿図100　SX-18・21 遺構図 ……141
挿図101　石列周辺出土土器実測図 ……142
挿図102　SX-35・37 遺構図 ……143
挿図103　SX-35 出土土器実測図 ……144
挿図104　SX-51 遺構図 ……145
挿図105　SX-23・24 遺構図 ……146
挿図106　SX-22・38・39・45 遺構図 ……149・150
挿図107　SX-20・27 遺構図 ……151
挿図108　SX-20 出土土器実測図 ……152
挿図109　SX-36・44 遺構図 ……153
挿図110　SX-40 遺構図 ……154
挿図111　SX-46 遺構図 ……154

挿図112　墳丘墓南東斜面埋葬施設群出土土器実測図 ……155
挿図113　墳丘墓南東斜面埋葬施設群遺構図……156
挿図114　SX-25・26・28 遺構図 ……157
挿図115　SX-29 遺構図 ……159
挿図116　SX-30・41 遺構図 ……160
挿図117　SX-31・32・33 遺構図 ……161
挿図118　SX-34 遺構図 ……163
挿図119　SX-43 遺構図 ……163
挿図120　SX-50 遺構図 ……164
挿図121　SX群出土土器実測図 ……165
挿図122　弥生1号土壙出土土器実測図 …166
挿図123　弥生1号土壙 遺構図……166
挿図124　SD-01 土層図 ……169
挿図125　SD-01 遺構図 ……170
挿図126　SD-01 遺物実測図 ……171
挿図127　SD-02 平面図 ……172
挿図128　SD-02 土層図 ……173
挿図129　SD-02 遺物実測図 ……174
挿図130　弥生土壙 2 ・ 3 遺構図……175
挿図131　弥生土壙 4 遺構図……176
挿図132　石棺墓遺構図(1) ……177
挿図133　石棺墓遺構図(2) ……177
挿図134　石棺墓出土遺物実測図……177
挿図135　中世墓配置図 ……179・180
挿図136　SK-01 実測図 ……181
挿図137　SK-01 出土鉄釘……181
挿図138　SK-02 実測図 ……182
挿図139　SK-02 出土銅銭……182
挿図140　SK-03 実測図 ……183
挿図141　SK-03 出土鉄釘……183
挿図142　SK-06 実測図 ……184
挿図143　SK-06 出土銅銭……185
挿図144　SK-06 出土土器……185
挿図145　SK-06 出土鉄釘……185
挿図146　SK-07 実測図 ……186
挿図147　SK-07 出土銅銭……187
挿図148　SK-10 実測図 ……188
挿図149　SK-10 出土銅銭……188
挿図150　SK-10 出土土器……189
挿図151　SK-10 出土鉄釘……189
挿図152　SK-11 実測図 ……190
挿図153　SK-11 出土銅銭……191
挿図154　SK-11 出土土器……191
挿図155　SK-12 出土土器……191
挿図156　SK-12 実測図 ……192
挿図157　SK-13 実測図・出土鉄釘 ……193
挿図158　SK-13 出土銅銭……194
挿図159　SK-19 実測図 ……194
挿図160　SK-19 出土鉄釘……195
挿図161　SK-20 実測図 ……195
挿図162　SK-20 出土土器……196
挿図163　SK-20 出土鉄釘……196
挿図164　SK-23 実測図 ……197
挿図165　SK-23 出土鉄釘……198
挿図166　SK-23 出土銅銭……198
挿図167　SK-26 実測図 ……199
挿図168　SK-28 実測図 ……200
挿図169　SK-28 出土五輪……200
挿図170　SK-32 実測図 ……201
挿図171　SK-32 出土銅銭・鉄釘 ……202
挿図172　SK-32 出土土器……202
挿図173　SK-33 実測図 ……203
挿図174　SK-34 実測図 ……204
挿図175　SK-35 実測図 ……205

挿図176　SK-37 出土鉄製品 ……206
挿図177　SK-37 実測図 ……206
挿図178　SK-38 実測図 ……207
挿図179　SK-38 出土銅銭 ……208
挿図180　SK-39 実測図 ……209
挿図181　SK-39 出土鉄釘・竹製品 ……209
挿図182　SK-39 出土銅銭 ……210
挿図183　SK-41 実測図 ……211
挿図184　SK-42 実測図 ……212
挿図185　SK-42 出土銅銭 ……212
挿図186　SK-43 実測図 ……214
挿図187　SK-48 実測図 ……215
挿図188　SK-48 出土鉄釘 ……216
挿図189　SK-50 出土鉄釘 ……216
挿図190　SK-50 実測図 ……217
挿図191　SK-50 出土銅銭 ……217
挿図192　SK-51 実測図 ……218
挿図193　SK-51 出土銅銭 ……219
挿図194　SK-52 実測図 ……220
挿図195　SK-53 実測図 ……221
挿図196　SK-53 出土土器 ……221
挿図197　SK-55 実測図 ……222
挿図198　SK-56 実測図 ……223
挿図199　SK-56 出土鉄釘 ……224
挿図200　SK-68 実測図 ……224
挿図201　SK-68 出土土器 ……225
挿図202　SK-71 実測図 ……225
挿図203　SK-72 実測図 ……226
挿図204　SK-74 実測図 ……227
挿図205　SK-74 出土銅銭 ……227
挿図206　SK-75 実測図 ……228
挿図207　SK-76 実測図 ……229
挿図208　SK-77 実測図 ……230
挿図209　SK-80 出土鉄釘 ……231
挿図210　SK-80 実測図 ……231
挿図211　SK-81 出土土器 ……232
挿図212　SK-81 実測図 ……232
挿図213　SK-81 出土鉄釘 ……232
挿図214　SK-82 実測図 ……233
挿図215　SK-84 実測図 ……234
挿図216　SK-85 実測図 ……235
挿図217　SK-85 出土鉄釘 ……235
挿図218　SK-86 出土銅銭 ……236
挿図219　SK-04 出土土器 ……237
挿図220　SK-04 銅製金具 ……237
挿図221　SK-04 実測図 ……237
挿図222　SK-04 出土銅銭 ……237
挿図223　SK-05 実測図 ……238
挿図224　SK-05 出土鉄釘 ……238
挿図225　SK-05 出土銅銭 ……239
挿図226　SK-08 出土土器 ……240
挿図227　SK-08 実測図 ……240
挿図228　SK-09 実測図 ……240
挿図229　SK-14 実測図 ……241
挿図230　SK-14 出土鉄釘 ……241
挿図231　SK-14 出土銅銭 ……242
挿図232　SK-15 実測図 ……244
挿図233　SK-15 出土銅銭 ……244
挿図234　SK-16 実測図 ……245
挿図235　SK-16 出土鉄釘 ……245
挿図236　SK-17 実測図 ……246
挿図237　SK-17 出土鉄釘 ……246
挿図238　SK-18 実測図 ……247
挿図239　SK-18 出土銅銭 ……247
挿図240　SK-21 実測図 ……248
挿図241　SK-27 出土土器 ……249

挿図242　SK-27 出土銅銭……249
挿図243　SK-27 実測図 ……249
挿図244　SK-29 実測図 ……250
挿図245　SK-30 実測図 ……251
挿図246　SK-31 実測図 ……252
挿図247　SK-31 出土銅銭……252
挿図248　SK-36 出土鉄釘……253
挿図249　SK-36 実測図 ……253
挿図250　SK-40 実測図 ……254
挿図251　SK-40 出土土器……254
挿図252　SK-46 実測図 ……255
挿図253　SK-54 実測図 ……255
挿図254　SK-57 実測図 ……256
挿図255　SK-57 出土鉄釘……256
挿図256　SK-58 出土鉄釘……257
挿図257　SK-58 出土銅銭……257
挿図258　SK-58 実測図 ……257
挿図259　SK-59 実測図 ……258
挿図260　SK-59 出土土器……258
挿図261　SK-59 出土鉄釘……258
挿図262　SK-60 出土鉄釘……259
挿図263　SK-60 実測図 ……259
挿図264　SK-61 出土銅銭……260
挿図265　SK-61 実測図 ……260
挿図266　SK-61 出土鉄釘……260
挿図267　SK-62 実測図 ……261
挿図268　SK-63 実測図 ……262
挿図269　SK-63 出土銅銭……262
挿図270　SK-63 出土鉄釘……262
挿図271　SK-64 実測図 ……263
挿図272　SK-65 出土鉄釘……264
挿図273　SK-65 出土銅銭……264
挿図274　SK-65 実測図 ……264
挿図275　SK-67 出土銅銭……265
挿図276　SK-67 実測図 ……265
挿図277　SK-69 実測図 ……266
挿図278　SK-70 実測図 ……266
挿図279　SK-70 出土鉄釘・鉄製品 ……267
挿図280　SK-70 出土銅銭……267
挿図281　SK-73 実測図 ……267
挿図282　SK-22 実測図 ……268
挿図283　SK-24 実測図 ……268
挿図284　SK-24 近辺出土土器 ……269
挿図285　SK-25 実測図 ……269
挿図286　SK-45 実測図 ……270
挿図287　SK-47 実測図 ……271
挿図288　SK-49 実測図 ……272
挿図289　SK-66 実測図 ……273
挿図290　SK-78 実測図 ……273
挿図291　SK-79 実測図 ……274
挿図292　SK-44 実測図 ……274
挿図293　五輪搭実測図 ……275
挿図294　西斜面表採銅銭 ……275

挿　表　目　次

表１　木製品一覧表(1)……44
表２　木製品一覧表(2)……45
表３　木製品一覧表(3)……46
表４　木製品一覧表(4)……47
表５　木製品一覧表(5)……48
表６　木製品一覧表(6)……49
表７　プラント・オパール分析結果(1)……85
表８　プラント・オパール分析結果(2)……86
表９　東桂見遺跡から検出されたプラント・オパールの顕微鏡写真……90
表10　ＳＸ群一覧表……167
表11　鳥取県内銅鏃出土地一覧表……168
表12　SK-02 出土銅銭一覧表……183
表13　SK-06 出土銅銭一覧表……185
表14　SK-07 出土銅銭一覧表……187
表15　SK-10 出土銅銭一覧表……189
表16　SK-11 出土銅銭一覧表……190
表17　SK-13 出土銅銭一覧表……193
表18　SK-23 出土銅銭一覧表……198
表19　SK-32 出土銅銭一覧表……202
表20　SK-38 出土銅銭一覧表……208
表21　SK-39 出土銅銭一覧表……210
表22　SK-42 出土銅銭一覧表……213
表23　SK-50 出土銅銭一覧表……218
表24　SK-51 出土銅銭一覧表……219
表25　SK-74 出土銅銭一覧表……228
表26　SK-86 出土銅銭一覧表……236
表27　SK-04 出土銅銭一覧表……238
表28　SK-05 出土銅銭一覧表……239
表29　SK-14 出土銅銭一覧表……243
表30　SK-15 出土銅銭一覧表……244
表31　SK-18 出土銅銭一覧表……247
表32　SK-27 出土銅銭一覧表……249
表33　SK-31 出土銅銭一覧表……252
表34　SK-58 出土銅銭一覧表……257
表35　SK-61 出土銅銭一覧表……260
表36　SK-63 出土銅銭一覧表……263
表37　SK-65 出土銅銭一覧表……264
表38　SK-67 出土銅銭一覧表……265
表39　SK-70 出土銅銭一覧表……267
表40　西斜面表採遺物出土銅銭一覧表……275
表41　中世墓一覧表(1)……276
表42　中世墓一覧表(2)……277
表43　中世墓一覧表(3)……278
表44　中世墓一覧表(4)……279
表45　鳥取市布勢・鶴指奥墳墓群からの出土人骨と獣骨一覧……311
表46　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(1)……314
表47　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(2)……315
表48　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(3)……316
表49　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(4)……317
表50　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(5)……318
表51　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(6)……319
表52　布勢鶴指奥墳墓群出土土器観察表(7)……320

図　版　目　次

図版 1　調査前全景(東より)
図版 2　調査前全景(北より)
図版 3　東桂見遺跡1区弥生溝(東より)
　　1区同溝土層図(南より)
図版 4　1区古墳時代溝と木製品出土状況(東より)・同(南より)
図版 5　1区古墳時代溝と杭列(北より)・1区古墳時代杭列(東より)
図版 6　1区木製品出土状況(東より)
図版 7　1区中世溝・同土層(東より)
図版 8　1区古銭・土鈴・漆器・箸・こうがい出土状況
　　2区全景(南より)
図版 9　4区東壁土層(西より)
図版 10　4区木製品出土状況
図版 11　古墳時代溝(南より)
　　同(東より)
図版 12　4区古墳時代溝 SD-05 (東より)
　　4区古墳時代溝 SD-05 と杭列(東より)
図版 13　4区古墳時代溝 SD-05 土層(東より)・SD-06 土層(西より)
図版 14　4区古墳時代杭列(南より)
　　同(東より)
図版 15　4区古墳時代杭列(南より)
　　同(東より)
図版 16　4区杭列(南より)・同(北より)
図版 17　4区古墳時代杭列(西より)
図版 18　4区木製品出土状況
図版 19　4区木製品出土状況
図版 20　4区木製品出土状況
図版 21　4区土師器・田下駄・柱・梯子出土状況
図版 22　4区足跡
図版 23　5区全景(東より)・同(南より)
図版 24　5区南壁北壁土層・5区木製品出土状況
図版 25　5区田下駄出土状況
図版 26　5区田下駄・鋤出土状況
図版 27　7区全景(東より)・同(西より)
図版 28　7区北壁・溝状遺構土層・杭列・田下駄出土状況
図版 29　7区木製品出土状況
図版 30　7区木製品・田下駄・土師器出土状況
図版 31　東桂見遺跡出土土器
図版 32　土製品・笄・古銭
図版 33　1区古墳時代出土木製品(1)
図版 34　1区古墳時代出土木製品(2)
図版 35　1区古墳時代出土木製品(3)
図版 36　1区古墳時代出土木製品(4)
図版 37　1区弥生時代出土木製品(1)
図版 38　1区弥生時代(2)・2区出土木製品
図版 39　4区古墳時代出土木製品(1)
図版 40　4区古墳時代出土木製品(2)
図版 41　4区古墳時代出土木製品(3)
図版 42　4区古墳時代出土木製品(4)
図版 43　4区古墳時代出土木製品(5)
図版 44　4区古墳時代出土木製品(6)
図版 45　4区古墳時代出土木製品(7)
図版 46　4区古墳時代出土木製品(8)
図版 47　4区 SD-05 出土木製品(1)

図版 48　4区 SD-05 出土木製品(2)
図版 49　4区 SD-05・07・弥生時代出土木製品
図版 50　4区弥生時代
5区古墳時代出土木製品
図版 51　5区弥生時代出土木製品
図版 52　7区古墳時代出土木製品(1)
図版 53　7区古墳時代出土木製品(2)
図版 54　7区古墳時代出土木製品(3)
図版 55　7区古墳時代出土木製品(4)
図版 56　7区弥生時代出土木製品(1)
図版 57　7区弥生時代出土木製品(2)
1区・4区中世出土木製品
図版 58　プラントオパール(1)
図版 59　プラントオパール(2)
図版 60　プラントオパール(3)
図版 61　プラントオパール(4)
図版 62　布勢鶴指奥墳墓群(南西より)
同(南東より)
図版 63　布勢鶴指奥墳墓群
図版 64　布勢鶴指奥墳墓群(東より)
墳丘墓と中世墓
図版 65　墳丘墓と溝・布勢1号墳丘墓
図版 66　布勢1号墳丘墓(北より)
同(南より)
図版 67　布勢1号墳丘墓(東より)
同(南より)
図版 68　墳丘墓第1主体部(北東より)
埋葬主体部土層
図版 69　第1主体部人骨出土状況
第2主体部(南より)
図版 70　墳丘墓北側 SX-01・02
図版 71　SX-01・SX-02
図版 72　墳丘墓南側テラスの土層堆積状況・木棺墓群上面の石列
図版 73　南側テラス木棺墓群・SX-03
図版 74　SX-04・SX-05・SX-06・SX-07
図版 75　SX-08・SX-09・SX-10
SX-09 を囲む石列(北より)
図版 76　SX-11・SX-12・SX-13・SX-14
図版 77　SX-15・SX-16・SX-17
SX-18・21
図版 78　SX-20・27・SX-22・23・24・38・39・45・SX-25・26・28
図版 79　墳丘墓南東側テラスの木棺墓群・南東斜面集石・遺物出土状況
図版 80　SX-31・32・33・SX-34・SX-35・SX-36
図版 81　SX-40・SX-41・SX-42・SX-35
図版 82　SX-47・SX-48・SX-50・南側テラス遺物出土状況
図版 83　南側テラス・東斜面土器出土状況
図版 84　溝 SD-01(西より)
図版 85　溝 SD-01(東より)・同土層
図版 86　溝 SD-02・03
溝 SD-01・02(西より)
図版 87　溝 SD-02(西より)・同(東より)
図版 88　SD-02(南より)
SD-02 奥壁のステップ
図版 89　SD-02・03(南より)・同(東より)
図版 90　弥生土壙・道(北より)
図版 91　石棺墓
図版 92　中世墓群全景(上空より)
中世墓群南側(上空より)
図版 93　SK-01・02・06 遺物出土状況
SK-03 完掘状況

図版 94　SK-07・10・11 遺物出土状況
SK-12 完掘状況
図版 95　SK-13・19・20・23 遺物出土状況
図版 96　SK-26 完掘状況
SK-28・32・33 遺物出土状況
図版 97　SK-34 完掘状況
SK-35・37・38 遺物出土状況
図版 98　SK-39・41・42・43 遺物出土状況
図版 99　SK-48・50・51 遺物出土状況
SK-52 半裁状況
図版100　SK-55・68 完掘状況
SK-53・56 遺物出土状況
図版101　SK-71・72 完掘状況
SK-74・75 遺物出土状況
図版102　SK-76・80・81 完掘状況
SK-77 遺物出土状況
図版103　SK-82 完掘状況
SK-84・85・86 遺物出土状況
図版104　SK-04・05・08 遺物出土状況
SK-09 完掘状況
図版105　SK-14・15・16・17 遺物出土状況
図版106　SK-18・21・29 完掘状況
SK-27 遺物出土状況
図版107　SK-30・36 完掘状況
SK-31・40 遺物出土状況
図版108　SK-46・54 完掘状況
SK-57・58 遺物出土状況
図版109　SK-59・60・61 遺物出土状況
SK-61 完掘状況
図版110　SK-62・63・64・65 遺物出土状況
図版111　SK-67・69・70 遺物出土状況
SK-73 完掘状況
図版112　SK-22 半裁状況
SK-24・25・45 完掘状況
図版113　SK-49・66・47・78・79 完掘状況
図版114　墳丘墓出土遺物
図版115　墳丘墓出土遺物
図版116　墳丘墓出土遺物
図版117　墳丘墓出土遺物
図版118　墳丘墓出土遺物
図版119　墳丘墓出土遺物
図版120　墳丘墓出土遺物
図版121　中世墓出土人骨
図版122　中世墓群出土人骨・獣骨
図版123　SK-01・03・06・10・13・19・20・37・39 出土鉄釘
図版124　SK-23・50・32・80・81 出土鉄釘
図版125　SK-48・85 出土鉄釘
図版126　SK-56・05・14・16・04 出土鉄釘
図版127　SK-17・36・58・57・59・63・61・65・60・70 出土鉄釘
図版128　SK-02・06・07・10 出土銅銭
図版129　SK-11・13・23 出土銅銭
図版130　SK-32・38・39 出土銅銭
図版131　SK-42・50・51 出土銅銭
図版132　SK-74・86・04 出土銅銭
図版133　SK-05・14 出土銅銭
図版134　SK-15・18・27・58・31・63 銅銭
図版135　SK-61・65・67・70 西斜面出土銅銭
中世墓出土土器
図版136　中世墓出土土器・五輪

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

湖山池周辺は、縄文時代から中世に至る遺跡が多く存在しており、県下でも有数な遺跡の宝庫として知られている。特に南東岸地域には、特徴的な遺跡が多く分布しており、鳥取の歴史を調べるに当たっては重要な位置を占めている。ところが、鳥取市街地再編成の一環として国立鳥取大学や国鉄操作場（現ＪＲ西日本）などがこの地に進出してきた昭和40年以降は、鳥取市で最も変貌が激しい地域となった。布勢総合運動公園もそうした中で工事が1962年に着工され、野球場（現在の第１補助競技場と跳躍場）と陸上競技場が建設された。この工事に伴って、野球場が建設された水田部分（布勢遺跡）で縄文土器が、陸上競技場の南側丘陵部（布勢第２遺跡）で弥生土器をはじめ土師器、須恵器で石鏃などが採集され、遺物包含地として『鳥取県遺跡分布図』および『鳥取県史』に記載されている。この布勢総合運動公園が1985年（昭和60年）に行われる「わかとり国体」の主開場に決定されると、布勢総合運動公園整備事業に伴い鳥取県教育文化財団がこの２遺跡を発掘調査し、その成果を『布勢遺跡発掘調査報告書』(1982年）にまとめている。

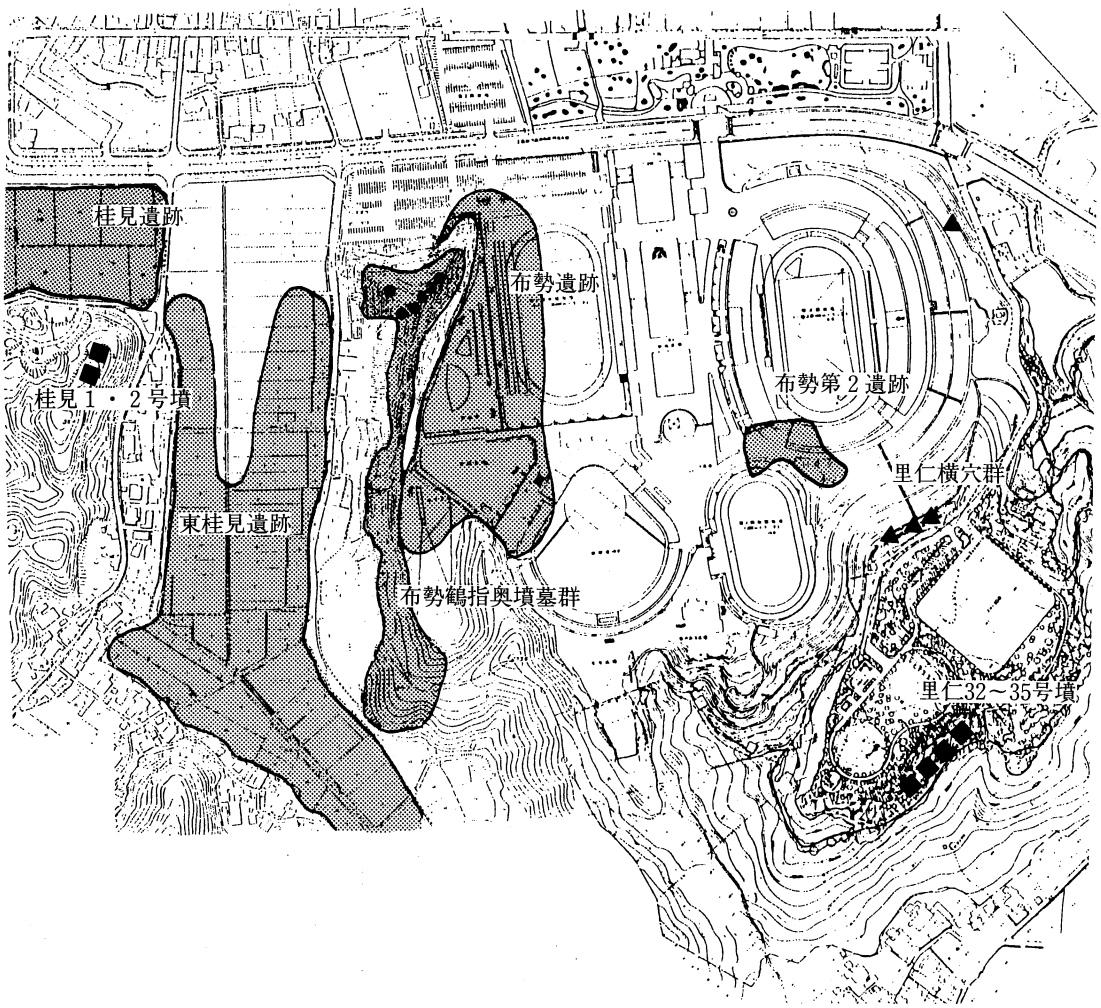
また、先述した布勢総合運動公園整備事業の第２期計画に伴って陸上競技場の西側丘陵（現在桜の園および多目的広場となっている）が造成されることとなり、里仁32～34号墳が当財団により調査され『里仁古墳群』(1985年）で報告されている。

その後、運動公園は、少しずつ整備されてきたが、1995年開催されるインターハイの会場と決定され、東桂見地区の水田部分に新たに体育館とテニス場が建設されることとなった。この時点では、この地域に遺跡の存在は知られていなかったが、布勢遺跡と桂見遺跡に挟まれた地域であることと、両遺跡と同様な立地場所であることから、両遺跡と同様な遺跡が存在することが推測された。そこで鳥取県土木部都市計画課は鳥取県教育委員会と協議し、計画地域内の遺跡の有無の確認を依頼した。そこで鳥取県教育委員会は、1990年10月より試掘調査を行った。この調査によりこの地が縄文時代から中世までの複合遺跡（東桂見遺跡）であることが判明した。調査結果をもとに鳥取県教育委員会は、都市計画課と協議を重ね、体育館を遺跡の存在しない場所に建設し、テニス場も遺跡に影響のないように計画を変更し、どうしても開発の避けられないテニス場7,709㎡について記録保存を行うこととした。調査は、協議の結果鳥取県教育文化財団が都市計画課から委託を受け、東部埋蔵文化財調査事務所が発掘調査にあたった。

当初、調査は東桂見遺跡のみであったが、テニス場の一部が東桂見遺跡と布勢遺跡の間の丘陵部に設計変更された。この地には遺跡の存在は知られていなかったが、この丘陵先

端部に７基の古墳が存在し、またこの丘陵部の南部分には桝間１号墳という鳥取市最大の前方後円墳の存在が知られているため、都市計画課、鳥取県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センター、鳥取市教育委員会が踏査を行ったところ、開発地域に１基以上の古墳が存在することが予想された。そこで関係者の協議の結果、鳥取県教育委員会が急遽試掘調査をおこない、遺跡の有無とその存在範囲を確認することとなった。試掘調査は、1991年８月19日より９月16日まで行われ、弥生時代の墳丘墓１基と中世墓が開発地域全域（3,424m²）に存在することが確認された。この丘陵部は、先述の古墳等を含めて、布勢鶴指奥墳墓群と命名された。

試掘調査とともに都市計画、鳥取県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センター、財団法人鳥取県教育文化財団で協議した結果、東部埋蔵文化財調査事務所が、東桂見遺跡に引き続き布勢鶴指奥墳墓群を調査することになった。



挿図１　布勢総合運動公園内の遺跡分布図

第２節　発掘調査の経過

調査は東桂見遺跡を１～７区に分割し、1991年４月４日より４区から開始した。調査は４→１→７→５→２と進め９月25日に終了した。３・６区の調査は開発計画の変更により中止となった。

布勢鶴指奥墳墓群の調査は、墳丘墓の調査を9月17日より開始し、12月30日に終了した。現地説明会は、12月７日に行い130名の参加者を集めた。調査の経過については、調査日誌(抄)を参考にされたい。整理作業は、現地での発掘作業と並行して鳥取県埋蔵文化財センターで進められ、現地調査終了後は現場事務所と埋蔵文化財センターで行い、1992年３月31日をもって全ての作業を終了した。

〔東桂見遺跡〕

１区	４月９日～６月26日	670㎡	(延べ　2,010㎡)
４区	４月４日～７月２日	664㎡	(延べ　1,992㎡)
７区	５月28日～８月７日	2,804㎡	(延べ　8,412㎡)
５区	６月12日～９月20日	1,048㎡	(延べ　2,096㎡)
２区	６月25日～９月25日	455㎡	(延べ　910㎡)

〔布勢鶴指奥墳墓群　(3,424㎡)〕

９月17日～12月７日

調査日誌（抄）

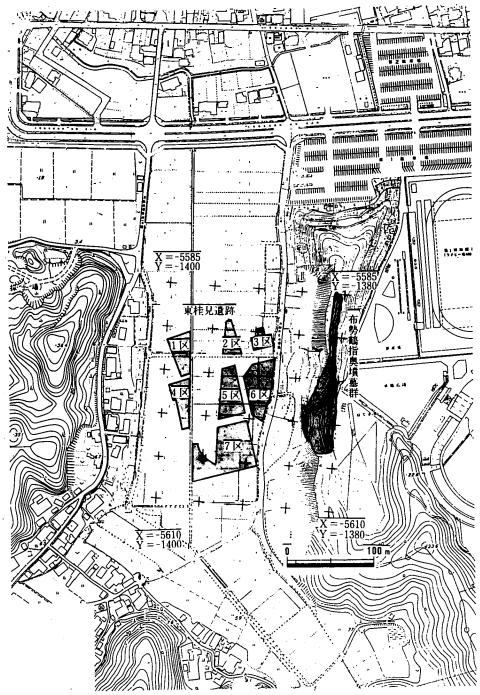
４月３日　土木業者と表土除去について協議。試掘調査結果から表土より50cmを重機で除去する。

４月４日　４区の表土除去を開始し、第５層の黒褐色粘土層より中世の陶器を採集する。第４層までが表土および客土と判断する。

４月８日　地鎮祭を行う。遺構の検出を開始する。

４月９日　１区の表土除去を開始する。

４月10日　第５層より現代の遺物が重機の走行跡とともに見つかり、第５層まで除去することとした。１区の南で東西に走る中世の溝を検出する。４区で田下駄が出土する。



挿図２　調査区

4月16日　トータルシステム「SITE」を導入する。

4月20日　4区で足跡状の落込みを検出したが、自然のものと判断した。

4月23日　鳥取大学教育学部豊島吉則教授来所。1区の排水溝で土壙状の落込みを検出する。

4月30日　調査協議会（鳥取県土木、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センター、藤原組、東部埋蔵文化財調査事務所）で調査予定と工事予定の再確認をおこなう。

5月7日　4区で梯子が出土する。

5月8日　4区で杭列、板列を検出する。

5月10日　鳥取県文化財保護委員日野琢郎、西村昇氏来所。1区で古銭（皇宗通宝）出土。

5月13日　鳥取県教育委員会入江圭司教育長来所。

5月20日　財団法人鳥取県教育文化財団坂田昭三副理事長来所。

5月22日　1・4区で南北に走る古墳時代の溝を検出する。

5月24日　4区の溝で石包丁（S1）と土師器小壺（Po.6）が出土する。

5月28日　4区の溝で土師器甕（Po.3）が出土する。7区の表土はぎを開始する。

5月30日　粘土面を水田面と考えると、1・4区遺構面が5面（当初2面）に増加する可能性があらわれる。

6月4日　調査会議（鳥取県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センター、(財)鳥取県埋蔵文化財センター）を開き、遺構面について協議する。

6月6日　西部埋蔵文化財調査事務所太田正康、西川徹調査員来所。

6月10日　鳥取大学教育学部豊島吉則教授来所。

6月11日　調査会議（文化課、埋文センター、事務所）で、各調査区にトレンチをいれ、粘土面の数を把握することを協議する。

6月12日　5区の表土はぎ開始。トレンチにより古墳時代の水田下に2面の粘土層を確認する。2・3・5・6区トレンチ調査で各地区に粘土面を5層確認する。

6月14日　調査会議（鳥取土木、文化課、埋文センター、事務所）で、鳥取大学教育学部赤木三郎教授に地質を検討してもらい、地質的に遺跡の有無を指導を仰ぐとともにプラントオパール分析を早急に行い、遺跡の有無を検討することを協議する。

6月18日　4区でプラント・オパール分析用のサンプリングを行う。鳥取大学教育学部豊島吉則教授より土層に対する私見（遺物の出土しない埋もれ木層は森林の時代であった）をいただく。

6月21日　鳥取大学地学教室が地質の現地実習を行う。

6月24日　4区のプラント・オパール分析の結果で、遺構面が中世1面と古墳時代2面の計3面であることが判明する。

6月25日　2区の表土はぎを行う。

6月26日　7区で人型木製品が出土する。7区のプラント・オパール分析用サンプリングを行う。

7月3日　7区で土師器甕（Po.5）が出土する。

7月4日　7区のプラント・オパール分析結果判明。遺構面は4区同様3面と判明する。

7月15日　調査会議（文化課、埋文センター、事務所）で土層の検討を行う。

7月16日　調査会議（都市計画課、鳥取土木、文化課、埋文センター、財団、事務所）でプラント・オパール分析等の結果から今後の調査計画を協議する。(財)日本きのこセンター菌糸研究所でサルノコシカケを鑑定してもらう。

7月19日　1・4区調査終了。埋め戻す。

7月23日　作業安全対策会議（都市計画課、鳥取土木、文化課、埋文センター、財団、事務所）において3・6区を中止し、丘陵部を開発するという開発の計画変更の申し出があり協議をおこなう。協議の結果、丘陵部を埋文センターが踏査し、試掘調査を実施する。

7月24日　所長会議。教員初任者研修会の会場となる。

7月29日　布勢鶴指奥墳墓群の試掘始まる。

8月6日　土井田憲治文化課課長、川上敬賀文化課課長補佐来所。

8月11日　用水路から水があふれ2・5・7区が水没する。

8月31日　7区調査終了。

9月10日　調査会議（都市計画、鳥取土木、文化課、埋文センター、財団、事務所）布勢鶴指奥墳墓群調査に対する調査計画の協議を行う。

9月17日　布勢鶴指奥墳墓群調査開始。

9月18日　気高町文化財保護委員来所。

9月20日　墳丘墓の周溝と考えられていた落ち込みが木棺墓であることが判明。5区調査終了。

9月27日　台風19号襲来。遺物収納テントおよび休憩用テントが崩壊する。

9月30日　奈良国立文化財研究所黒崎直氏に木製品整理の指導を仰ぐ。

10月3日　墳丘墓南のテラスで石列群と弥生土器を検出。

10月4日　SD-01検出。

10月14日　墳丘墓南のテラスで弥生の木棺墓群を検出。

10月19日　中世墓群の調査にはいる。表土より古銭出土。

10月23日　木棺墓から銅鏃出土。

10月28日　鳥取大学教育学部錦織勤助教授来所。中世の土葬墓、火葬墓検出。人骨出土。SD-02検出。

10月29日　中世墓群より五輪塔出土。

10月30日　極楽寺に中世墓群の供養を依頼。

11月1日　墳丘墓の第2主体部を検出。

11月9日　鳥取大学医学部井上晃孝助教授に中世墓群の人骨取り上げの指導を仰ぐ。

11月21日　墳丘墓第1主体部検出。

11月25日　石棺墓検出。

11月29日　墳丘墓主体部より朱を検出。

11月30日　空中写真撮影。

12月6日　調査終了。

12月7日　現地説明会。

12月19日　島根県教育委員会松本岩雄埋蔵文化財第3係長来所。

12月20日　島根大学渡辺貞幸助教授来所。

第3節　調査体制

調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理事長　西尾邑次

副理事長　坂田昭三

事務局長　若松良雄

調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団　東部埋蔵文化財調査事務所

所長　谷尾喜代治

主任調査員　中村徹

調査員　西浦日出夫

調査員　小谷修一

調査補助員　志田睦

事務局　財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター

所長　土井田憲治

次長　山根豊己

庶務係長　中村金一

主任事務員　木下利雄

調査指導　鳥取県教育委員会文化課

文化係長　田中精夫

文化財主事　松田潔

鳥取県埋蔵文化財センター

次長　田中弘道

文化財主事　長岡充展

文化財主事　中原斉

文化財主事　山枡雅美

調査協力　鳥取市教育委員会

布勢総合運動公園管理センター

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

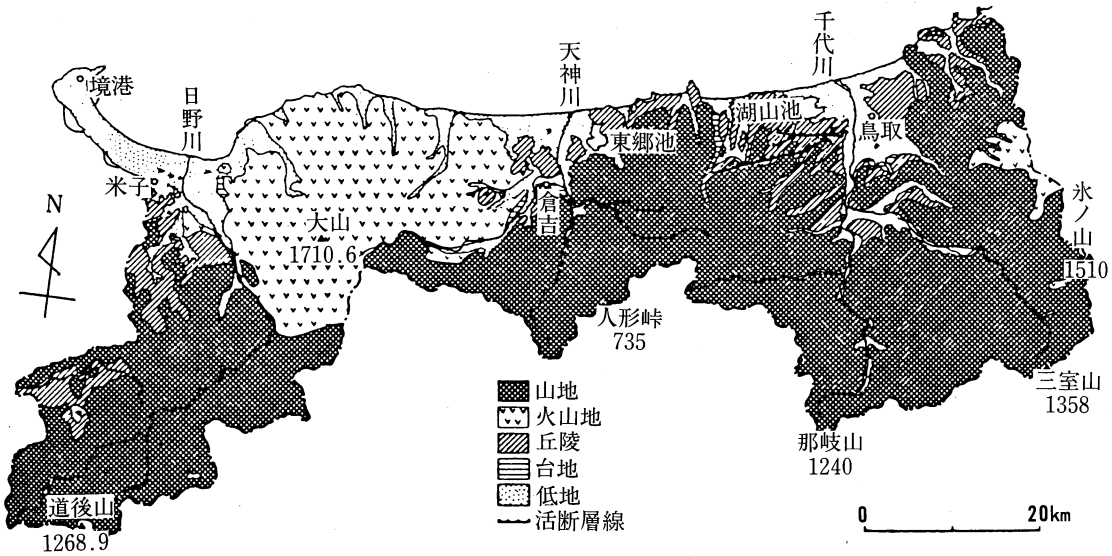
東桂見遺跡は、鳥取市桂見に、布勢鶴指奥墳墓群は布勢鶴指奥地内に所在する。

【鳥　取　県】

鳥取県は、中国地方東北部で山陰地方の東部に位置する。北は日本海に面し、南は中国山地を境に岡山県と、西は島根県、東は兵庫県と接している。鳥取県の面積は3,492.34㎢であるが、その内75%が林野であり、海岸近くまで中国山地がせまり、この中国山地から日本海にむけて千代川、天神川、日野川の1級河川が流れている。これらの河川の下流域には鳥取平野、倉吉平野、米子平野の沖積平野が形成され、そこには鳥取市、倉吉市、米子市が存在し、東部、中部、西部の各地区の政治経済の核となっている。また、米子市北部の弓ケ浜半島には、国内でも有数の漁港をもつ境港市がある。鳥取県はこの4市を中心に39の市町村で構成され、約64万人が生活している。

【鳥　取　市】

県東部に位置し、面積237.25㎢、人口14万人余りで、鳥取県の県庁所在地である。東は岩美郡国府町と福部村、南は八頭郡郡家町と河原町、西は気高郡気高町に接し、北は日本海に面している。市の東・南・西の三方は山に囲まれ、北は国立公園の鳥取砂丘が広がっている。市の中央部には中国山地から流れる千代川が鳥取平野を二分して南北方向に流れ、



挿図3　鳥取県地形図

日本海へとそそぐ。また、市の西部には池としては日本一の広さを誇る潟湖「湖山池」がある。

【千代川・鳥取平野】

中国山地に源にし、鳥取県東部を南から北に流れる千代川は、大小合わせて70数本の支流を集めながら八頭郡智頭町から鳥取市をへて日本海にそそぐ総延長56.8kmの1級河川である。この下流域に発達した鳥取平野は、洪積世～沖積世初期には鳥取湾（鳥取潟）と称される入海あるいは潟湖であって、縄文時代前期以後の海退による湖沼化と、古墳時代以後に千代川が運ぶ膨大な土砂の堆積により形成された沖積低地である。

【湖山池とその周辺】

鳥取市西部に位置する湖山池は、周囲約16km、面積約6.8kmを測る日本一広い池である。この湖山池は、千代川による堆積作用と、湖山砂丘の発達により、かつては入海であったものが湖沼化した潟湖であり、旧海島である青島、天神山、山王山、足山などが、内湾であった面影を今に伝えている。

湖山池周辺の土壌は、北には湖山池を潟湖とした砂丘、東には低位泥炭土壌・細粒灰色低地土壌、南と西側の支稜線上に沿っては褐色森林土壌、谷底平野には灰色低地土壌・グライ土壌が広がっている。

東桂見遺跡は、湖山池南東部の放射状に広がる独立丘陵内の谷底平野に位置している。東桂見遺跡の所在する谷は2つの谷が合流する地点にあり、北の湖山池へと開く。ここは、現在水田に利用されているが、耕作土の下層は、「ガマクソ」と呼ばれるマコモやガマの堆積した特殊泥炭層が数m堆積している軟弱地盤である。

布勢鶴指奥墳墓群は、東桂見遺跡の東側丘陵に位置している。標高は20～30mで、南から北へ延びる風化花崗岩地帯の丘陵である。

［参考文献］

『鳥取大百科辞典』新日本海新聞社（1984）

第2節　歴史的環境

【旧石器時代】

鳥取平野では、明確な旧石器遺跡は確認されていないが鳥取砂丘で黒曜石の有舌尖頭器が採集されておりその存在を想像させる。

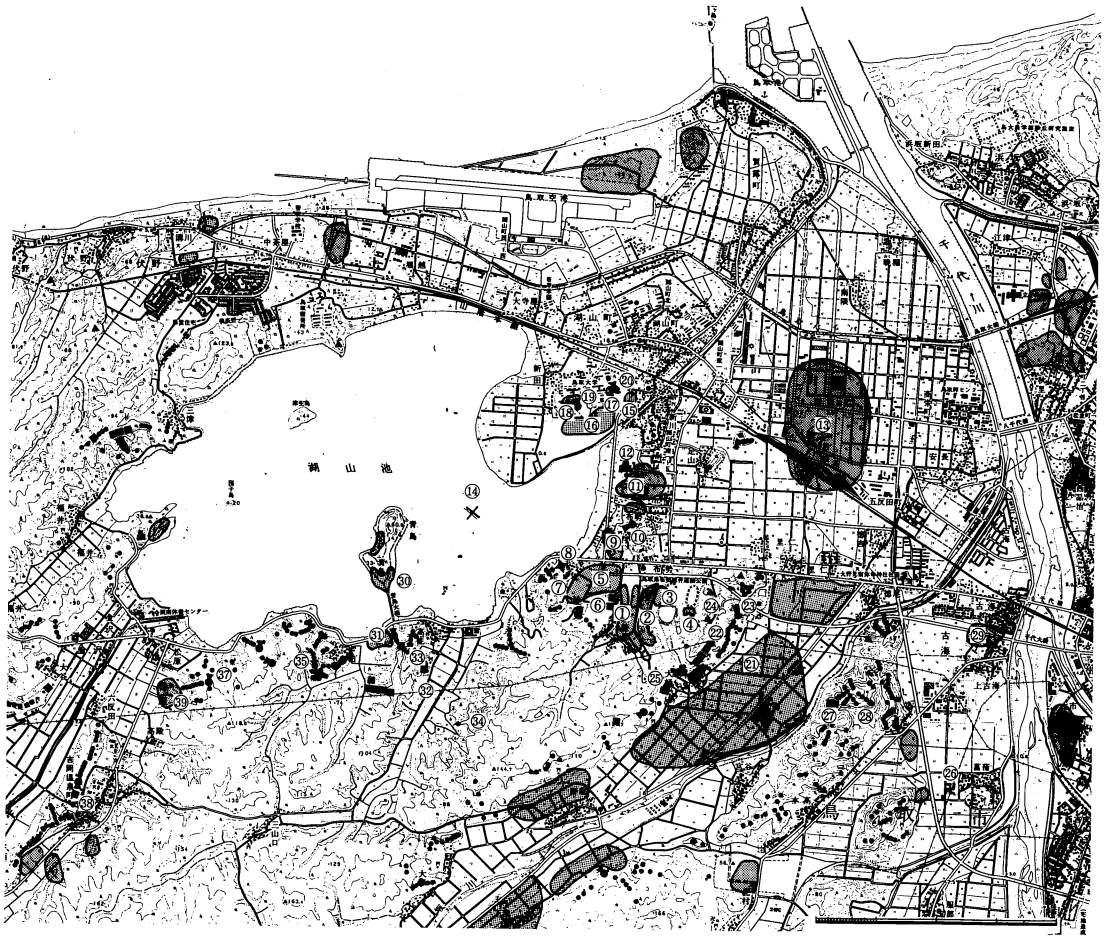
【縄文時代】

鳥取平野の縄文遺跡については、従来より千代川左岸と右岸で立地の差異が注目されている。右岸の遺跡には鳥取砂丘の栃木山遺跡、追後遺跡、福部村直浪遺跡、栗谷遺跡がある。砂丘地に立地する栃木山遺跡、追後遺跡、直浪遺跡はいずれも、中期の遺跡であり、栗谷遺跡だけが低湿地に立地する前期から後期まで遺跡である。これに対して、左岸の遺跡はいずれも湖山池周辺の「低湿地」に立地し後期を主体としている。今回調査した東桂見遺跡〈1〉では試掘調査で福田KII式に並行する後期中頃の土器が出土している。同時代の布勢遺跡〈3〉が東桂見遺跡の東方150mの布勢総合運動公園内にある。この遺跡では多く遺物が出土しているが、中でも黒と朱の漆で塗られた壺型木製品、椀、石斧柄などの木製品やもじり編みのカゴや耳栓などの当時の生活を知る遺物が注目をあびている。東桂見遺跡の西方200mに所在する桂見遺跡〈5〉は、東桂見遺跡よりやや古い中津式に並行する後期初頭の土器を主体とする遺跡であるが、前期末の大歳山式土器も少量ではあるが出土している。また、木製品やトチなどの木ノ実などの植物遺体も多量に出土し、鳥取県における低湿地遺跡の重要性を指摘した遺跡である。そのほか縄文土器を出土した遺跡には、東桂見遺跡の北側に天神山遺跡〈11〉、湖山第2遺跡〈16〉、西方に青島遺跡〈30〉、東方に大桷遺跡〈21〉、古海遺跡〈29〉がある。このうち古海遺跡は、千代川左岸の自然堤防上に立地する晩期の遺跡であり、中期、後期、晩期で遺跡の立地場所が推移していることがうかがわれる。

【弥生時代】

今回の調査で東桂見遺跡からも後期の土器が出土し、布勢鶴指奥墳墓群〈2〉でも墳丘墓と木棺墓が調査されているが、湖山池周辺にはこの他にも多くの弥生遺跡が確認されている。

前期の遺跡は沖積地や海岸砂丘とその背後の低湿地に立地している。代表的な遺跡として、岩吉遺跡〈13〉が当遺跡の北方にある。この遺跡は、肥沃な沖積地に立地し、前期から後期まで引き続いて集落が営まれていたことが推測されている。また、土層の観察によって、海面変化による水位上昇にともなって東から西へと次第に高い場所に居住地を移動させていることも推測されている。そのほか前期の土器を出土する遺跡に、湖山第2遺跡、青島遺跡、身干山遺跡などが知られている。



挿図 4　鳥取市西北部主要遺跡分布図

集落跡 散布地他　古墳　▲ 横穴　四隅突出 墳丘墓　銅鐸出土地　城跡

① 東桂見遺跡
② 布勢鶴指奥墳墓群
③ 布勢遺跡
④ 布勢第 2 遺跡
⑤ 桂見遺跡
⑥ 桂見古墳群
⑦ 倉見古墳群
⑧ 西桂見遺跡
⑨ 帆城遺跡
⑩ 布勢古墳
⑪ 天神山遺跡
⑫ 天神山城
⑬ 岩吉遺跡
⑭ 湖山池湖底遺跡
⑮ 湖山第 1 遺跡
⑯ 湖山第 2 遺跡
⑰ 大熊段遺跡
⑱ 三浦遺跡
⑲ 三浦古墳
⑳ 大熊段 1 号墳
㉑ 大桙遺跡
㉒ 里仁古墳群
㉓ 里仁29号墳
㉔ 里仁横穴群
㉕ 桙間 1 号墳
㉖ 菖蒲廃寺跡
㉗ 古海36号墳
㉘ 山ヶ鼻古墳
㉙ 古海遺跡
㉚ 青島遺跡
㉛ 塞ノ谷遺跡
㉜ 高住銅鐸出土地
㉝ 高住古墳群
㉞ 高住12号墳
㉟ 良田古墳群
㊲ 松原古墳群
㊳ 葦岡長者古墳
㊴ 松原谷田遺跡

中期になると、岩吉遺跡や青島遺跡のように前期から引き続く遺跡の他に自然堤防上や丘陵地に遺跡が現れるようになる。布勢第2遺跡〈4〉が運動公園の陸上競技場建設に伴って調査され、掘立柱建物跡が見つかっている。また、岩吉遺跡の分村と考えられている大桷遺跡がその南東に位置している。これらの遺跡は、人口増加や稲作技術の発達とあいまって、新しい土地を求めた人々の集落と考えられている。青島遺跡の対岸の塞ノ谷遺跡〈31〉では中期の土器に伴って分銅型土製品が出土している。この遺跡の南東約400mの丘陵地では流水文銅鐸〈32〉が見つかっており、この地域が宗教的な色彩をおびていたことがうかがわれる。

後期になると、布勢第2遺跡で、玉造工房跡であった竪穴住居跡が調査されている。また当遺跡の北100mの位置にある帆城遺跡〈9〉では、玉製品や玉砥石などが出土しており、この地域に玉造り集団がいたことが想像される。帆城遺跡の北に位置する天神山遺跡では、土器の他に石包丁や銅鏃が出土し、鳥取大学構内の湖山第2遺跡、健康増進センター「いなばじ」の松原谷田遺跡〈39〉でも竪穴住居跡が調査されている。また変わったところでは、湖山池の湖底〈14〉からも土器が採取されている。

このように湖山池周辺には多くの弥生遺跡が存在するが、これは、湖山池周辺の低湿地を中心に稲作を営んだ集落が多く存在したためであろう。これらの集落はその集団をしだいに大きくし、やがて、それらの集団を総括する人物が現れるようになる。それを示すかのように湖山池南岸の丘陵部には、日本最大規模と考えられる四隅突出型墳丘墓である西桂見遺跡〈8〉あり、そこでは特殊な形をした大型器台付特殊壺が出土している。この墳丘墓には湖山池周辺を納めた首長が葬られたものと考えられ、次の古墳時代につながっていくのであろう。

【古墳時代】

古墳時代になると湖山池周辺の遺跡はさらに拡大していく。布勢第2遺跡、湖山第1〈15〉・2遺跡、大桷遺跡などで集落が営まれる。青島遺跡では、子持ち勾玉が出土し、塞ノ谷遺跡では多くの木製品が出土している。これらの集落の周辺の丘陵には大小様々な古墳が築かれる。特に、布勢鶴指奥墳墓群と同じ丘陵には県東部では最大規模の全長92mの桷間1号墳〈25〉、北方には国史跡の布勢古墳〈10〉、鳥取大学構内に三浦古墳〈19〉、大熊段1号墳〈20〉などの前方後円墳がある。東方にも里仁29号墳〈23〉や前方後方墳である古海36号墳〈27〉などがあり、西方の高住古墳群〈33〉、良田古墳群〈35〉、松原古墳群〈37〉の中にも前方後円墳がみられ、鳥取県内では西部の淀江町向山とともに前方後円墳が密集している地域として知られている。しかしいずれの古墳も未調査のため詳細はわからない。わずかに布勢古墳で埴輪が採集され、6世紀のものと推測されるのみである。調査された古墳には、東桂見遺跡の西隣の丘陵で舶載の斜縁獣帯鏡と内行花文鏡が出土した桂見古墳

群〈6〉とその西側丘陵で湖山池周辺の前期の墓制を考えるうえで貴重な倉見古墳群〈7〉がある。運動公園内には、桜の園の地に鰭付円筒埴輪や竪櫛を出土した中期の里仁古墳群〈22〉がある。後期の横穴石室を持つ古墳として知られているのは高住12号墳〈34〉、6世紀後半の両袖式横穴石室を持つ葦岡長者古墳(吉岡1号墳)〈38〉、くり抜き石棺式石室を持つ山ケ鼻古墳〈28〉のみである。この時代の横穴墓としては、陸上競技場の東側丘陵で里仁横穴群〈24〉の存在が知られているが、消滅したものが多い上に未調査のためその様相は不明である。

【歴史時代】

律令体制下のこの地域は、高草郡に組み込まれ、東大寺領高庭荘として開発されたことが『東大寺東南院文書』の「東大寺領因幡国高草郡高庭庄坪付注進状案」でうかがわれる。これによると南北10条にわたり、条、理、郷、坪名が記載されており、条里制が施行されていたらしいが条里遺構復元の手がかりは少ない。わずかに秋里遺跡にその痕跡がみられるのみである。この時代のその他の遺跡としては、桂見遺跡、大桙遺跡、古海遺跡などがあるが、実態は明らかではない。この頃の高草郡の中心は布勢郷ではなく、土師百井式軒丸瓦を出土する菖蒲廃寺跡〈26〉、土師氏につながる大野見宿禰神社のある古海郷にあったと考えられ、高草郡衙の位置もこの周辺であろう。因幡国造浄成女に代表される古代因幡氏の本拠地は高草郡と考えられており、因幡国府のおかれた法美郡とともにこの他は古代因幡の中心地であったとおもわれる。

15世紀になると因幡守護山名氏が湖山池東岸に布勢天神山城〈12〉を築城し、因幡支配の拠点とした。天神山城に関する記録は『因幡民談記』など比較的よく残っている。城跡にも堀切や井戸跡などが現存する。また部分的な発掘調査もされ、当時使われていた土器や漆器などが出土している。この時代の他の遺跡としては、布勢第2遺跡で建物跡が見つかっているほか、桂見古墳群、西桂見遺跡、鳥取大学構内の大熊段遺跡〈17〉、三浦遺跡〈18〉などから土葬墓と火葬墓が調査されている。その後、因幡国の拠点は久松山鳥取城に移りこの他はしばらくの間は、静かな農村地帯であった。

昭和40年代になると、国鉄の貨物基地や鳥取大学、布勢総合運動公園などが湖山池周辺に進出してくると、この周辺は再び活気を帯びるようになった。

このように、布勢を中心とする湖山池周辺は、原始より因幡の中心として歴史の舞台で重要な位置を占めてきている。

第3章　東桂見遺跡

第1節　調査の概要

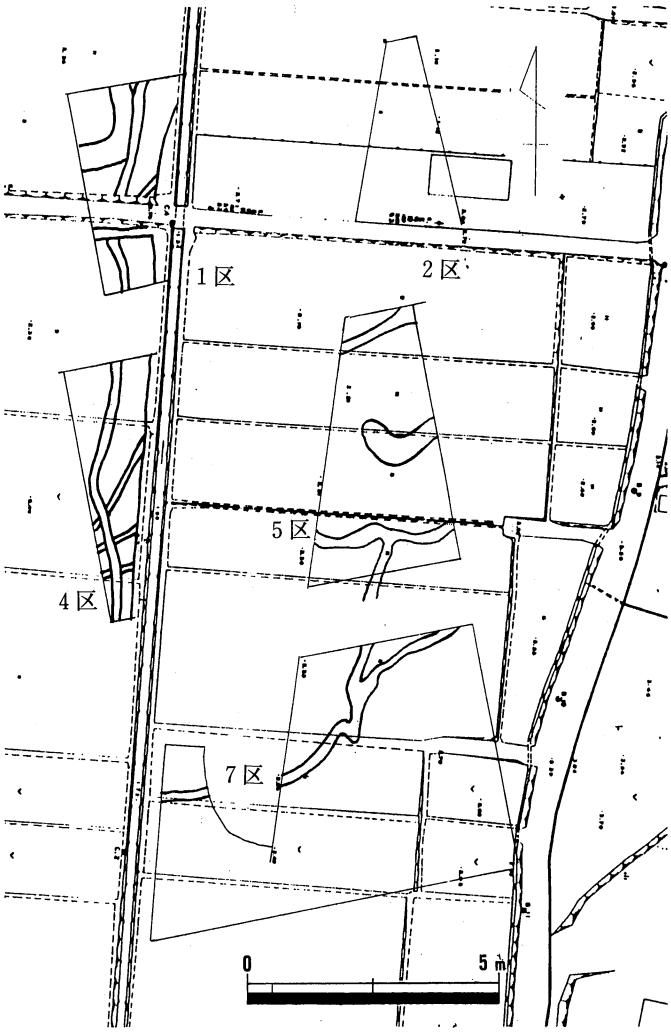
東桂見遺跡は、湖山池南東の谷に位置する。今回調査した地区は谷の中央部にあたる水田跡遺跡である。遺跡の北東部は、以前は桂見遺跡の一部と遺跡分布図には記載されていた。平成2年度の鳥取県教育委員会が実施した試掘調査によって、谷の奥まで遺跡の範囲が拡大することが判明したため、鳥取県埋蔵文化財センター及び鳥取市教育委員会と協議の上、字名のかわる道路を境に東を東桂見遺跡、西を桂見遺跡と分割した。

発掘調査場所は、開発計画に従って、1～7区に分割して調査した。途中、開発計画の変更により3・6区は、プラント・オパールの分析のみの調査に終わった。

調査では、古墳時代以前の溝2条、古墳時代の溝5条、杭列5条、中世の溝2条を検出した。また田下駄、鋤などの農具や柱、梯子などの建築材など多数の木製品が出土した。

プラント・オパール分析は、古環境研究所に委託し2区東壁、3区西壁、4区北壁、6区南壁、7区西壁で実施し、水田6面が存在することが明かになった。

また、^{14}C年代測定は、1、4、7区出土の木製品で行った。



挿図5　東桂見遺跡全体図

【1　区】

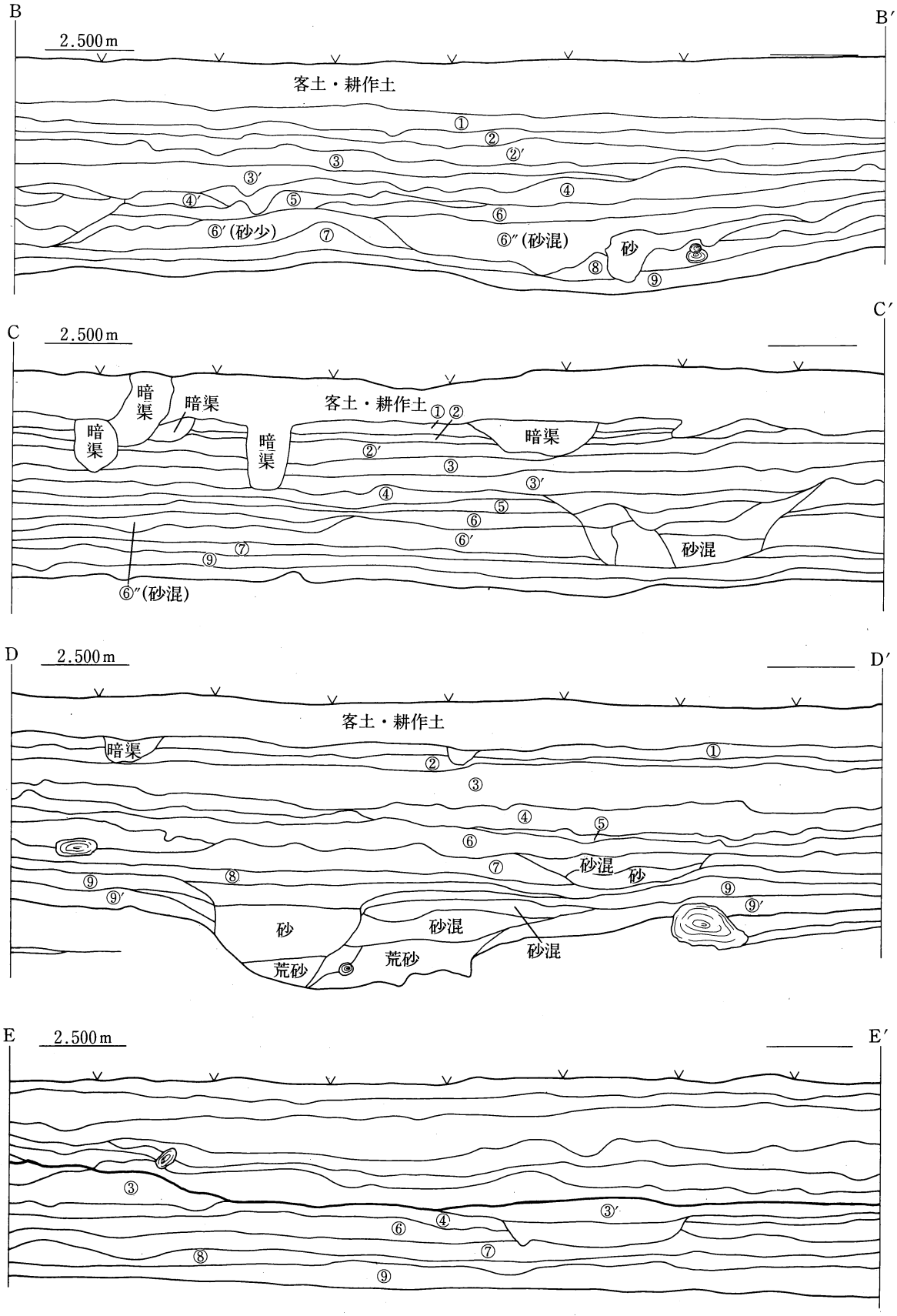
谷のほぼ中央部に位置する。東西に走る農道によって調査区が南北に分割されている。調査区の東端に沿って用水路が流れており、この用水路造成のため深い所で1m程の客土が施されている。このため、調査区の東端側の上部はかなり削られ、旧状を保っていないと考えられる。土層は表土・客土の下は基本的に①灰褐色土、②暗灰色土、③黒灰色土、④黒褐色粘質マコモ層、⑤暗褐色粘質マコモ層、⑥黄褐色粘質マコモ層、⑦淡赤褐色粘質土層、⑧赤褐色マコモ層、⑨乳褐色粘質土層と順に並び、⑨層以下は巨木を多く含む赤褐色マコモが厚く堆積している。調査は、溝が検出された④、⑦、⑨層の3段階で行なった。調査面積は、④層488m²、⑦層419.4m²、⑨層292.5m²で延べ調査面積は1199.9m²である。深さは、表土から9層まで1.5～2.0mで、最深部は2.5mを測り、海抜0m以下になる。

⑨層の面で調査区の北測で溝が検出された。溝は調査区の西壁から北壁にL字型に伸びている。溝はやや不整ながら幅3m～4m前後、深さは最深部で0.9mを測る。溝の下層には荒砂が多量に堆積し、他の埋土にも砂が混在していた。埋土中からはトチ、クルミ、シイなどの自然遺物の他は何も検出されなかった。また、平面的には検出できなかったが土層で幅1.5m前後、深さ70cm前後の溝が確認できた。この溝も西壁から北壁にL字型に伸び重複するもので一度溝が埋まった後にできたものと考えられる。また、調査区の南側を中心に⑧層、⑨層で田下駄、板材が検出されたがその数は少ない。

⑦層の面で調査区の南から北へ伸びる溝が検出された。この溝は4区で検出された溝に続くものである。溝の幅は1.5m前後、深さ0.3m前後を測る。溝の埋土は上層の⑥層が流れ込み多量の砂が混じっている。⑥層は厚く堆積し、多くの田下駄、板材、棒などの木製品が検出された。また、調査区南側の溝の東岸の一部には護岸のためと考えられる板列が検出された。

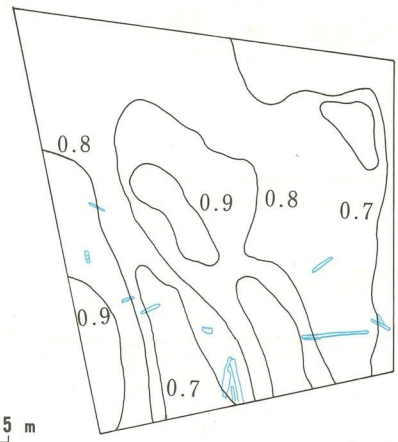
④層の面では調査区の東端を南から北に伸びる溝と、それに合流する西から東に伸びる溝を検出した。南北に伸びる溝は4区から続き、現代の用水路の方に向かう。溝の埋土は主に上層の③層で多量の砂が混じる。③層は厚く堆積し、土錘、瓦質土器、土師質皿、陶器、土鈴、銅銭、笄、漆器、箸が検出された。瓦質土器(Po.19～Po.24)、土師質土器(Po.8～Po.19) より③層は12世紀末～15世紀末と考えられる。

以上より、④層で検出された溝は平安時代末～鎌倉時代、⑦層の溝は4区で検出された土師器より古墳時代前期、⑨層の溝は古墳時代前期以前のものと考えられる。また、明瞭な水田遺構は検出されていないが、2・4・7区のプラント・オパール分析で同等の層を比較検討すると、①～⑥層で稲作が行われた可能性が高く、⑦～⑨層は稲作の可能性はあるが他所からの混入の危険性もあるという結果を得た。



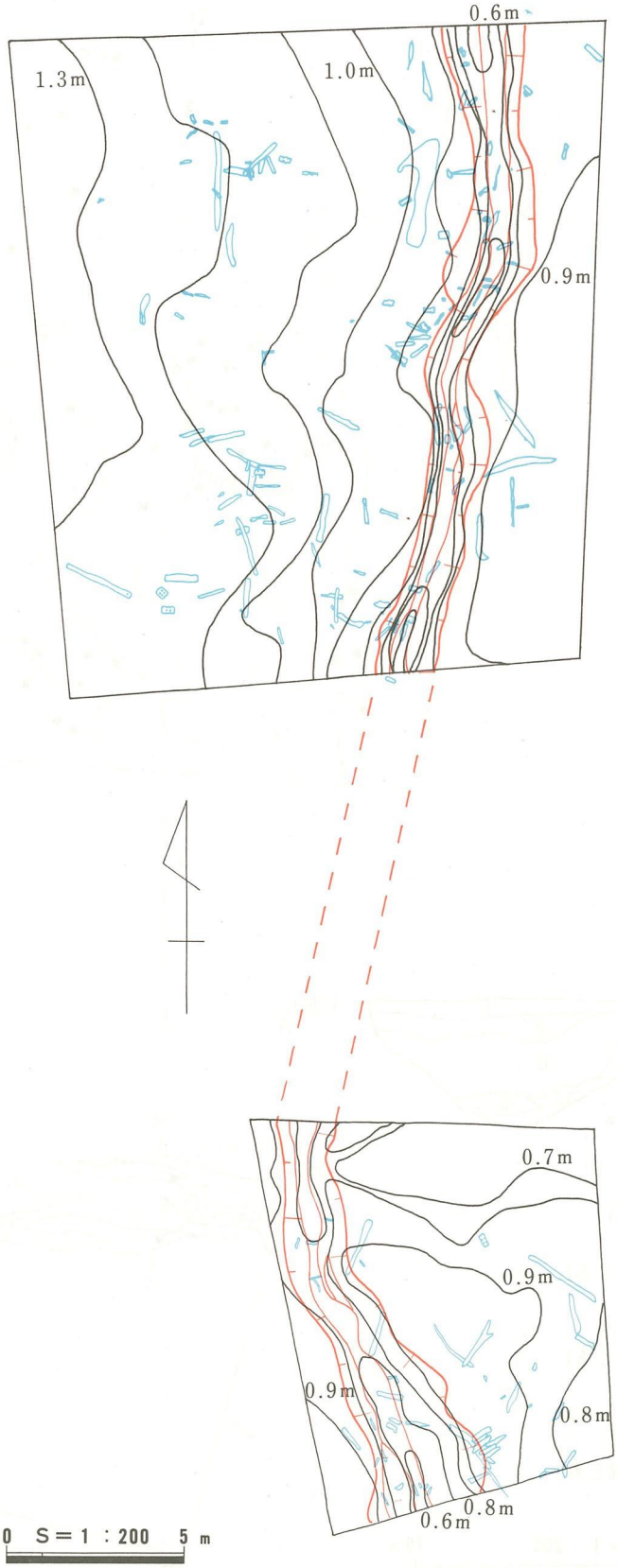
挿図 6　1 区土層図(S＝1/50)

0　S＝1:50　2 m

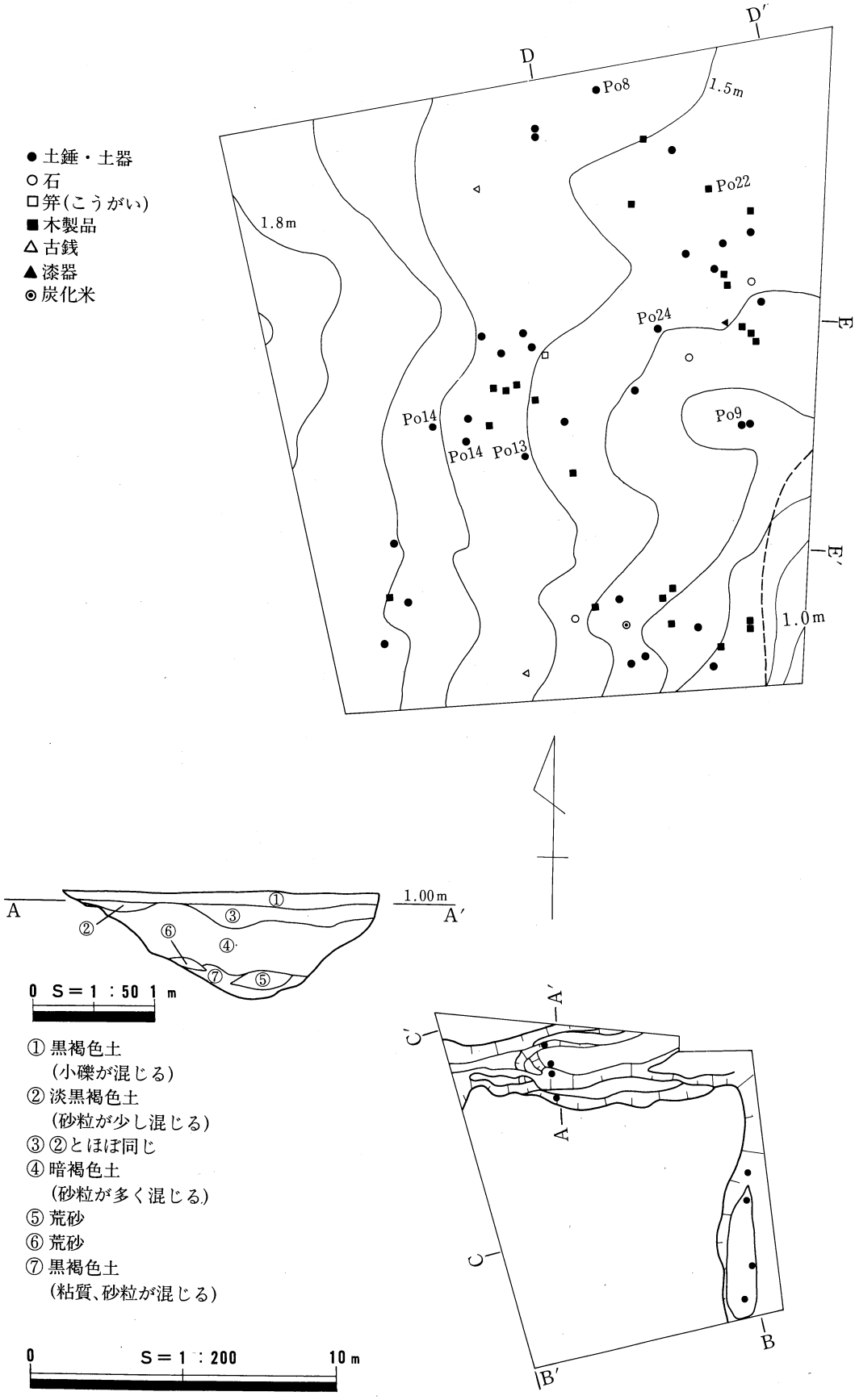


0　S＝1：200　5 m

挿図７　１区弥生面遺物・遺構検出状況図（Ｓ＝1/200）



挿図 8　1 区古墳面遺物・遺構検出状況図（S＝1/200）

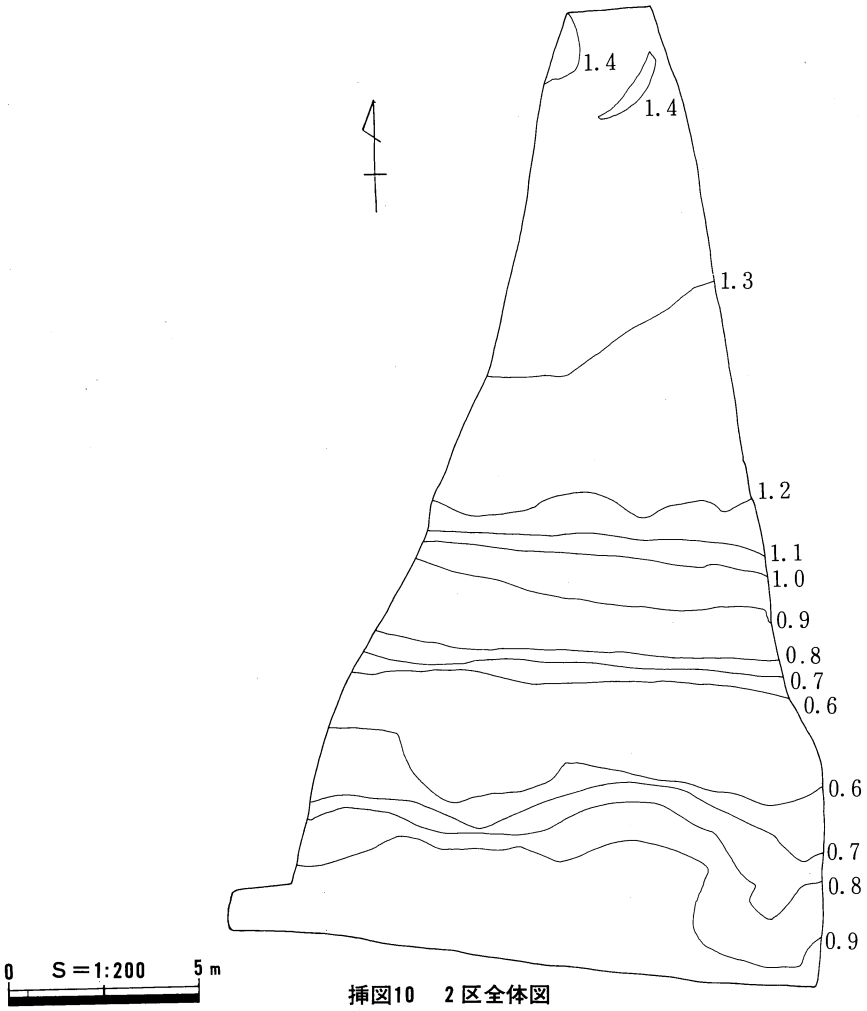


挿図 9　1 区中世面遺物・遺構検出状況図(S＝1/200)

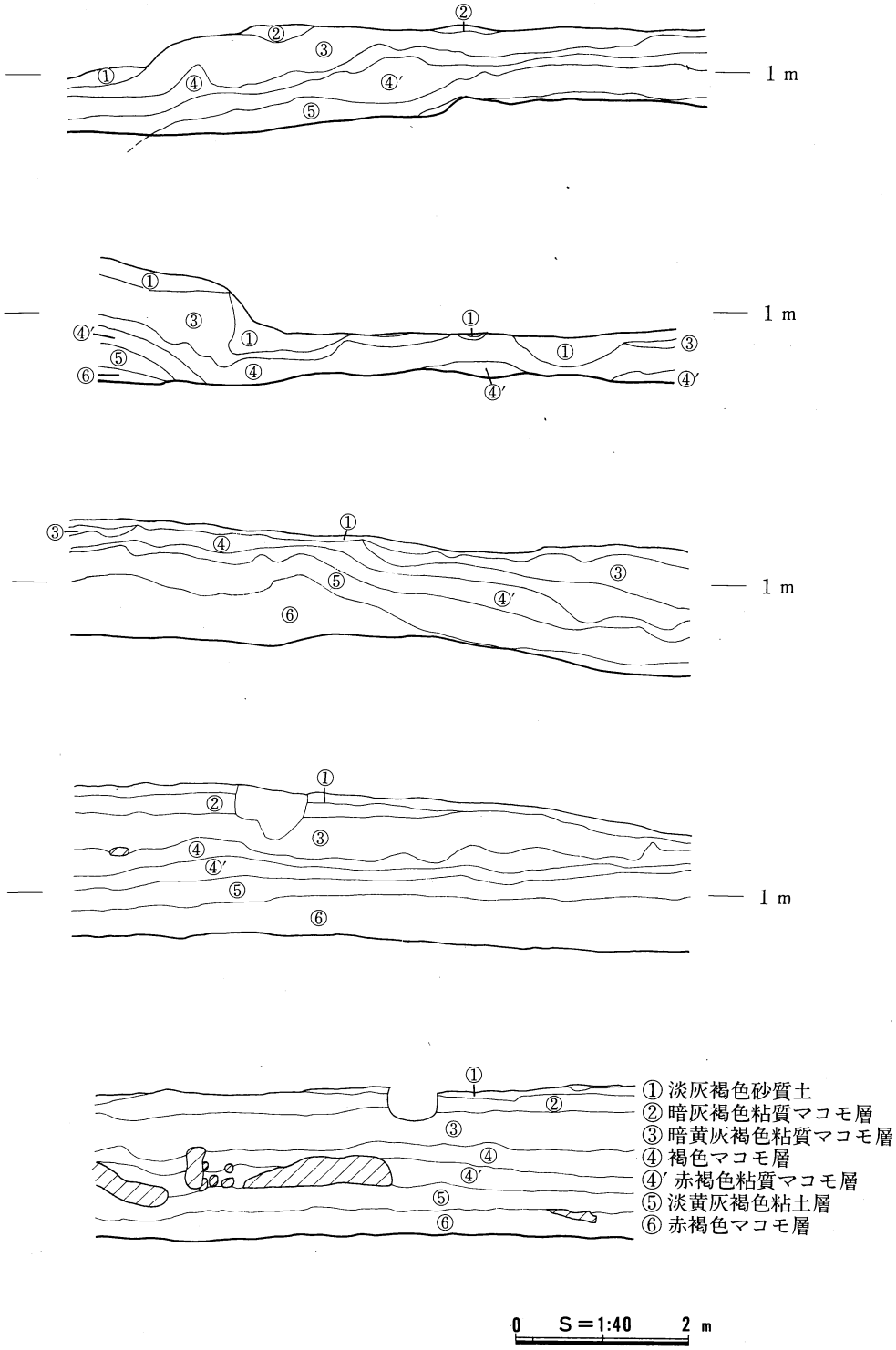
【2　　区】

谷のほぼ中央部のやや東側に位置する。調査面積は455m²である。調査区北側半分は水田として利用されていたが、南側半分は材木店の作業場及び資材置き場として使用されていたため、地盤が20～30cm陥没していた。土層は、表土より順に耕作土の①淡灰褐色砂質土、②暗灰褐色粘質マコモ層、③暗黄灰褐色粘質マコモ層、④赤褐色マコモ層、⑤淡黄灰褐色粘土層、⑥赤褐色マコモ層がみられた。このうち④層の赤褐色マコモ層は、上部が植物質が多いのに対して下部④は粘性が強くなる傾向があるが、明確に分層することは困難であった。⑦層の赤褐色マコモ層は木の小枝状のものが多くみられた。プラント・オパール分析によると②・③・⑦層で水田が営まれていたことがわかっているが水田遺構は検出できなかった。このうち⑦層は、他の調査区ではプラント・オパールは検出されていない層である。

出土遺物は、⑤層で田下駄（W-46・45）2枚、大足（W-46）1枚出土したほか、作業場建設に伴う工事による攪乱土から弥生土器（Po.1・2）が2点出土している。



挿図10　2区全体図



挿図11　2区東壁土層図

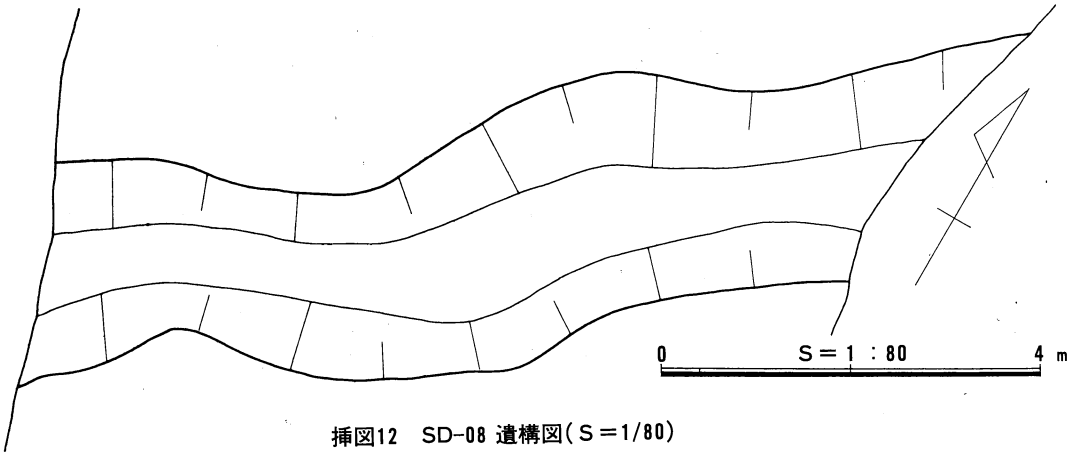
【4　　区】

1区の南に位置する。圃場整備によってほぼ平坦にされており、西側は近世及び中世の堆積層が削平されているが、東側には客土が積まれている。本来の地形は、西から現在も水路の流れている東に向かって緩やかに下る谷底の西縁付近であったと考えられる。プラントオパールの結果では、古墳時代前期から現代に至るまで延々と水田が営まれていたようである。しかしながら古墳時代前期以前の層にも木製品を包含するため、その層まで調査を行った。

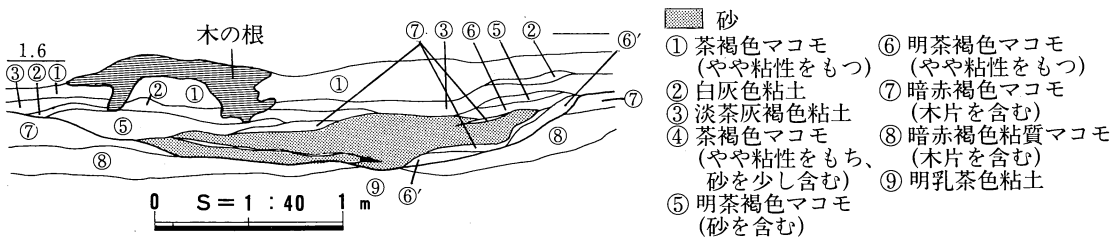
調査区内に数本設定したトレンチで見つかった第⑰層の白灰色粘土層は、いずれのトレンチでも均一に帯状に見られたため、部分的に掘り下げてはみたが、遺物は全く検出されなかったので調査対象外とした。

第⑯層の明乳茶色粘土層は調査区全般にわたって確認できる粘土層であり、上層の暗赤褐色マコモ層に木製品を包含していることから全面的に調査した。プラントオパールの結果では、赤褐色マコモ層上部で微量の稲の花粉が検出されている。この粘土面では、水田に伴う遺構は全く検出しておらず、木製品の出土の仕方もまばらである。採取した遺物は木製品のみで、田下駄と板材が出土している。

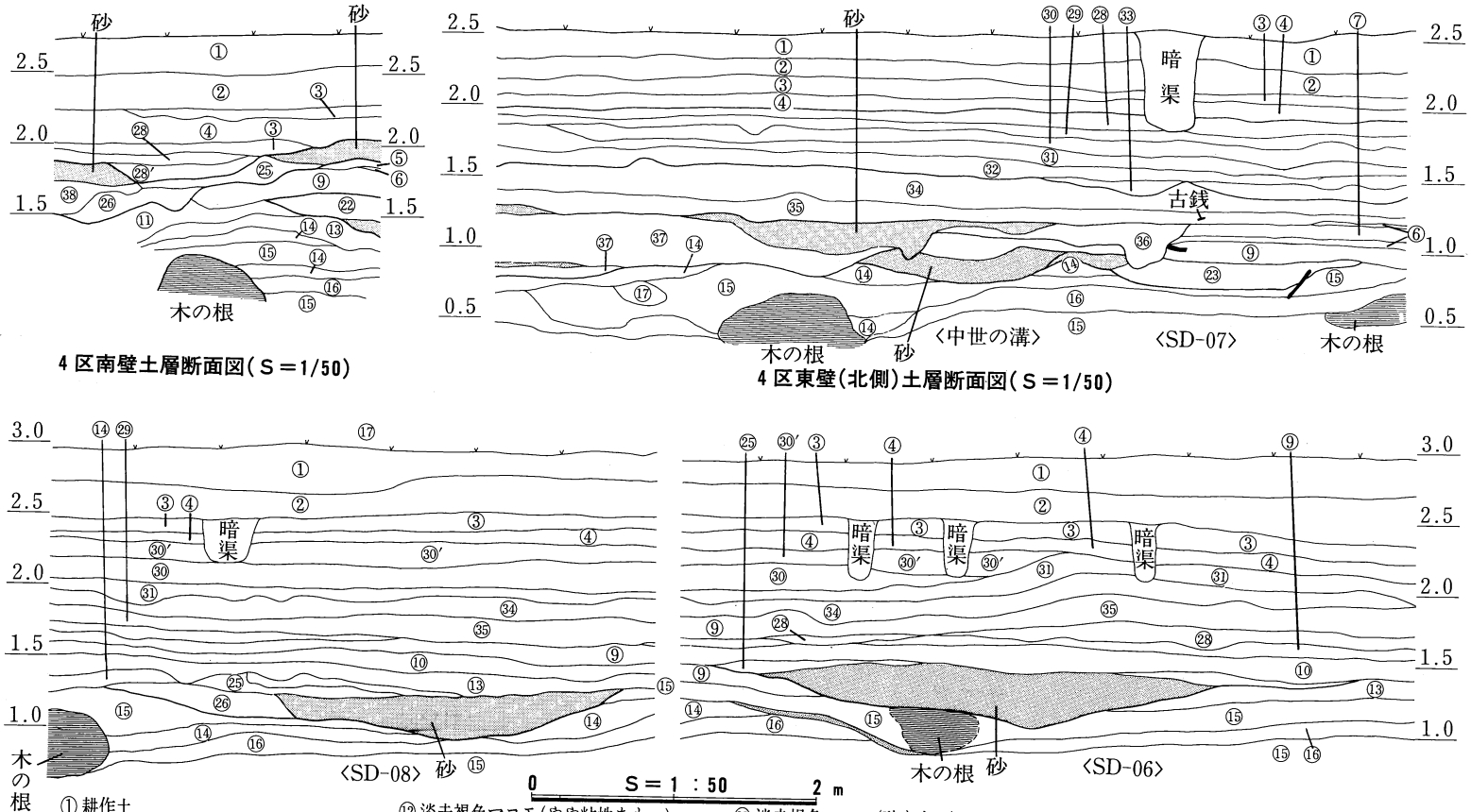
第⑬層下の第⑭層の暗赤褐色粘質マコモ層で、調査区南側を南西から北東方向に流れる水路 SD-08 を検出した。規模は、長さ10.5m以上、幅1.6～2.5m、深さ0.34mを測る。水



挿図12　SD-08 遺構図（S＝1/80）

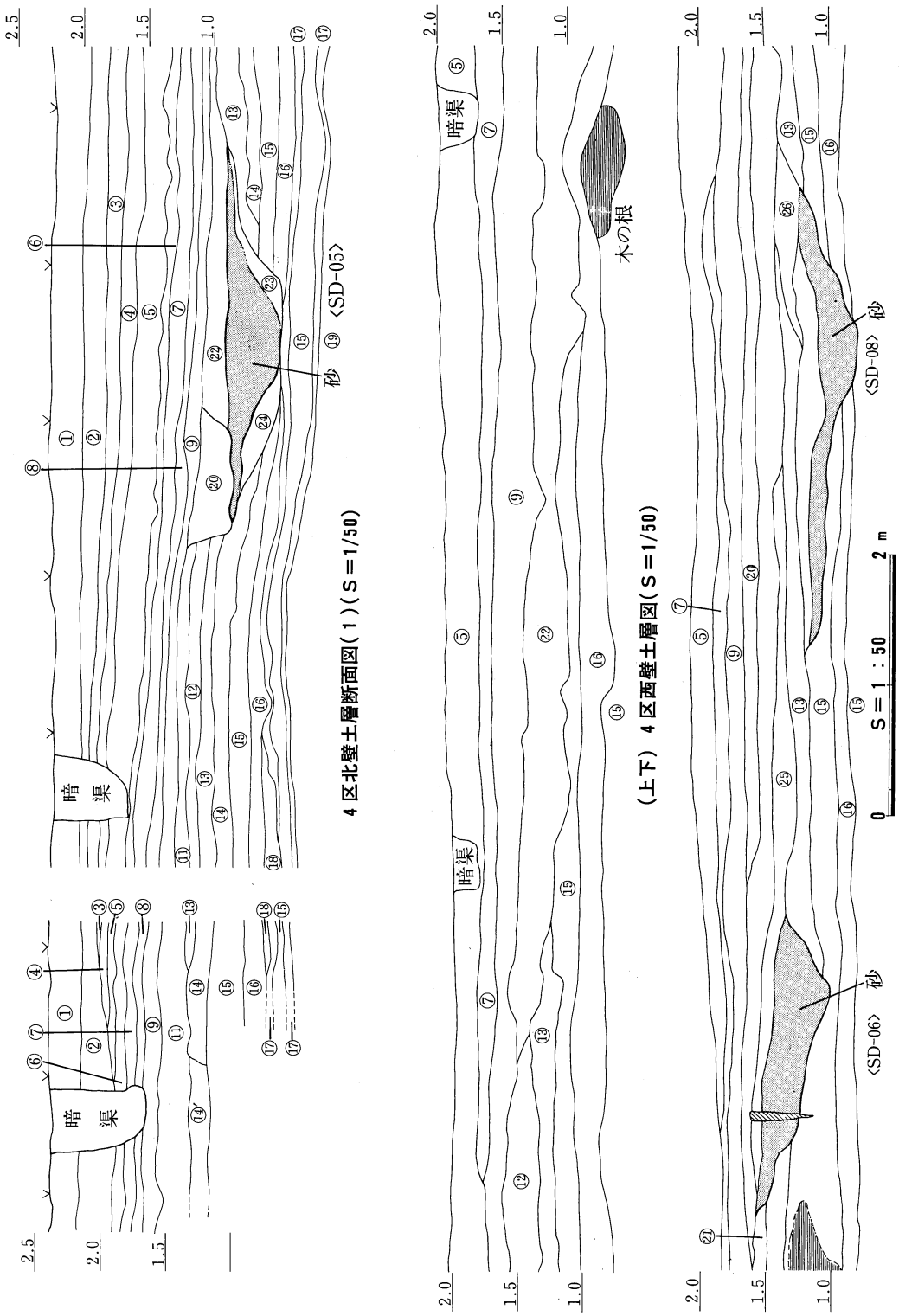


挿図13　SD-08 土層断面図（S＝1/40）

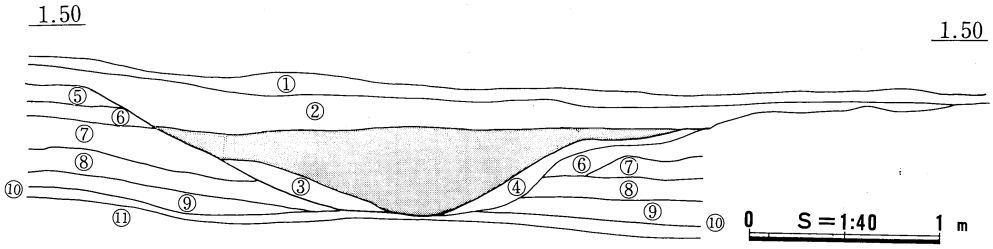


① 耕作土
② 圃場整備による客土及び攪乱土
③ 淡暗灰色土(やや粘性をもち、砂を含む)
④ 暗灰色土(やや粘性をもち、砂を含む)
⑤ 黒灰色土(やや粘性をもち、小礫を含む)
⑥ 黒褐色マコモ(やや粘性をもつ)
⑦ 暗褐色マコモ
⑧ 淡褐色マコモ
⑨ 黄灰褐色粘質マコモ
⑩ 明黄褐色マコモ
⑪ 淡赤褐色マコモ
(やや粘性をもち、木片を多く含む)
⑫ 淡赤褐色マコモ(やや粘性をもつ)
⑬ 淡茶灰褐色粘土
⑭ 暗赤褐色粘質マコモ(木片を多く含む)
⑮ 暗赤褐色マコモ(木片を含む)
⑯ 明乳茶色粘土
⑰ 白灰色粘土
⑱ 暗茶褐色マコモ(木片を含む)
⑲ 黒茶褐色マコモ(木片を含む)
⑳ 淡黄褐色マコモ
㉑ 褐色マコモ
(粘性をもち、白灰色粘土粒を少し含む)
㉒ 淡黄灰褐色粘質マコモ(砂を含む)
㉓ 淡赤褐色マコモ(砂を含む)
㉔ 赤褐色マコモと黄灰褐色マコモとの混合層
(砂を多く含む)
㉕ 茶褐色マコモ(砂を少し含む)
㉖ 淡褐色粘土層(砂を含む)
㉗ 砂層(マコモを含む)
㉘ 灰褐色砂質土
㉘′ 暗灰色砂質土
㉙ 黒灰色砂質土
㉚ 赤褐色砂質土
㉚′ 赤灰褐色砂質土
㉛ 灰褐色土(砂を含む)
㉜ 暗黒灰色土(砂を含む)
㉝
㉞ 黒紺色土(小礫混)
㉟ 黒灰色土(小礫混)
㊱ 黒色シルト
㊲ 黒灰褐色シルト(植物繊維を少量含む)
㊳ 暗灰褐色粘質マコモ(砂を含む)

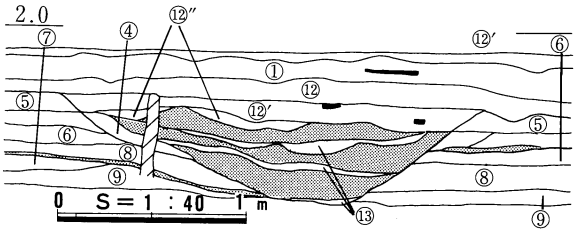
挿図14　4区土層図(1)(S＝1/50)



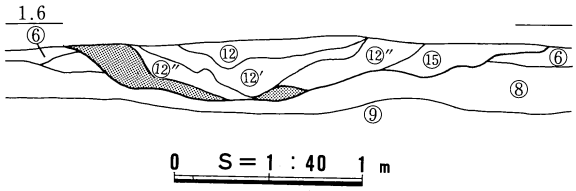
挿図15　4 区土層図(2)(S=1/50)



挿図16　SD-05 土層断面図(S＝1/40)



挿図 17　SD-06 土層断面図(S＝1/40)



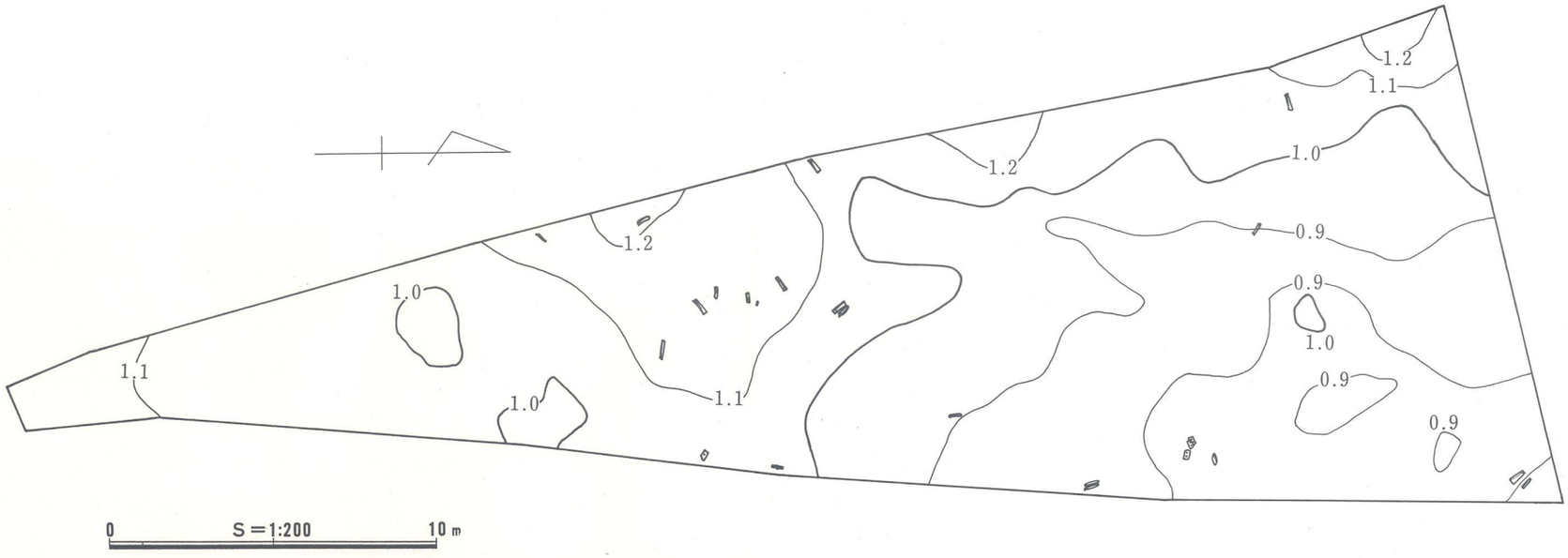
挿図18　SD-07 土層断面図(S＝1/40)

砂
① 黄灰褐色粘質マコモ
② 淡黄灰褐色粘質マコモ(砂を含む)
③ 赤褐色マコモと黄灰褐色マコモとの混合層(砂を含む)
④ 淡赤褐色マコモ(砂を含む)
⑤ 淡赤褐色マコモ(やや粘性をもつ)
⑥ 淡茶灰褐色粘土(白灰色粘土粒混)
⑦ 暗赤褐色粘質マコモ(木片を含む)
⑧ 暗赤褐色マコモ(木片を含む)
⑨ 明乳茶色粘土
⑩ 白灰色粘土
⑪ 暗茶褐色マコモ(木片を含む)
⑫ 茶褐色マコモ(やや粘性をもつ)
⑫′ ⑫層に砂を含む層
⑫″ ⑫層に砂を多く含む層
⑬ 砂に植物繊維を含む層
⑭ 暗灰褐色粘質土
⑮ 暗褐色粘質土(砂を含む)

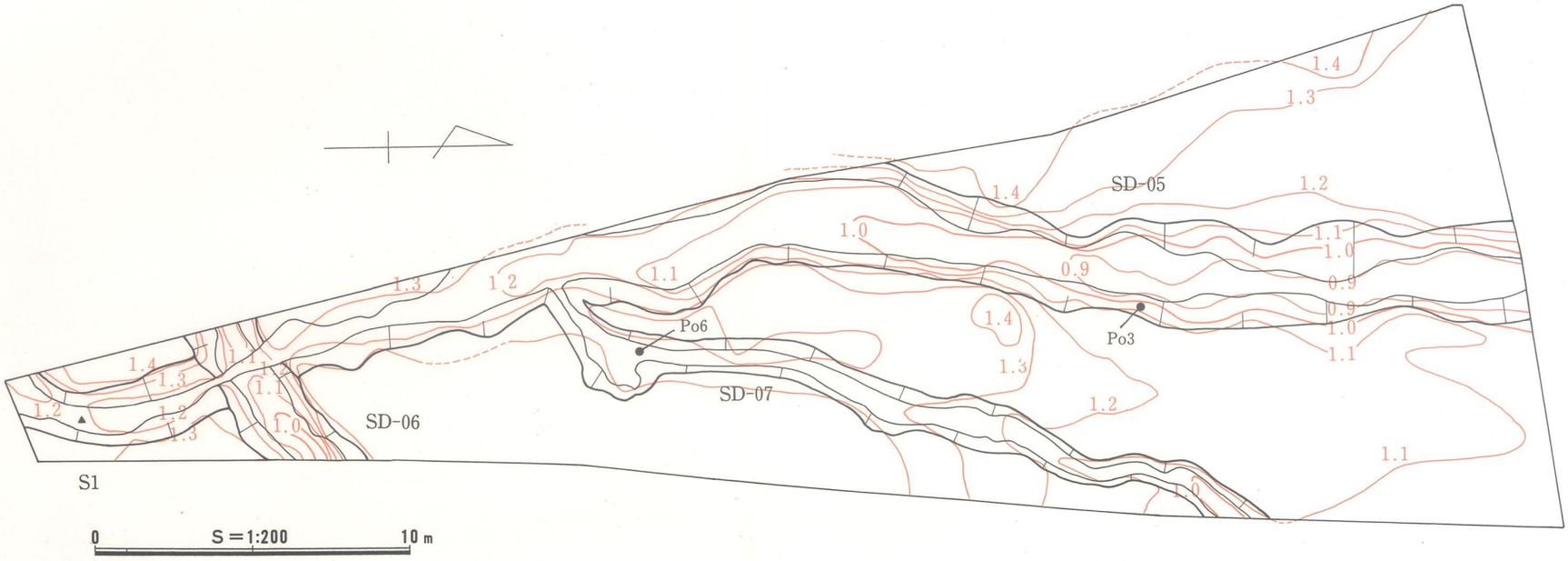
路内には白灰色の砂が堆積しており、部分的に植物繊維を含む層が帯状に見られる。この水路の下にも薄い砂層の落ち込みが見られることから、この水路は流れを徐々に変えながらも、西から本流のある東に向かう自然水路として機能していたが、この時代に砂が大量に堆積して埋まってしまったものと思われる。

古墳時代の調査は今回の調査のもっとも中心をなすところである。古墳時代の堆積層は、第⑬層の淡茶灰褐色粘土層から第⑨層の黄灰褐色粘質マコモ層までの層で、この間で多量の木製品が出土した。この多量の木製品は、調査区が谷底付近にあたるためにここに流れ込んできたものと思われる。木製品は特に第⑨層と砂を含む第㉒層に集中している。

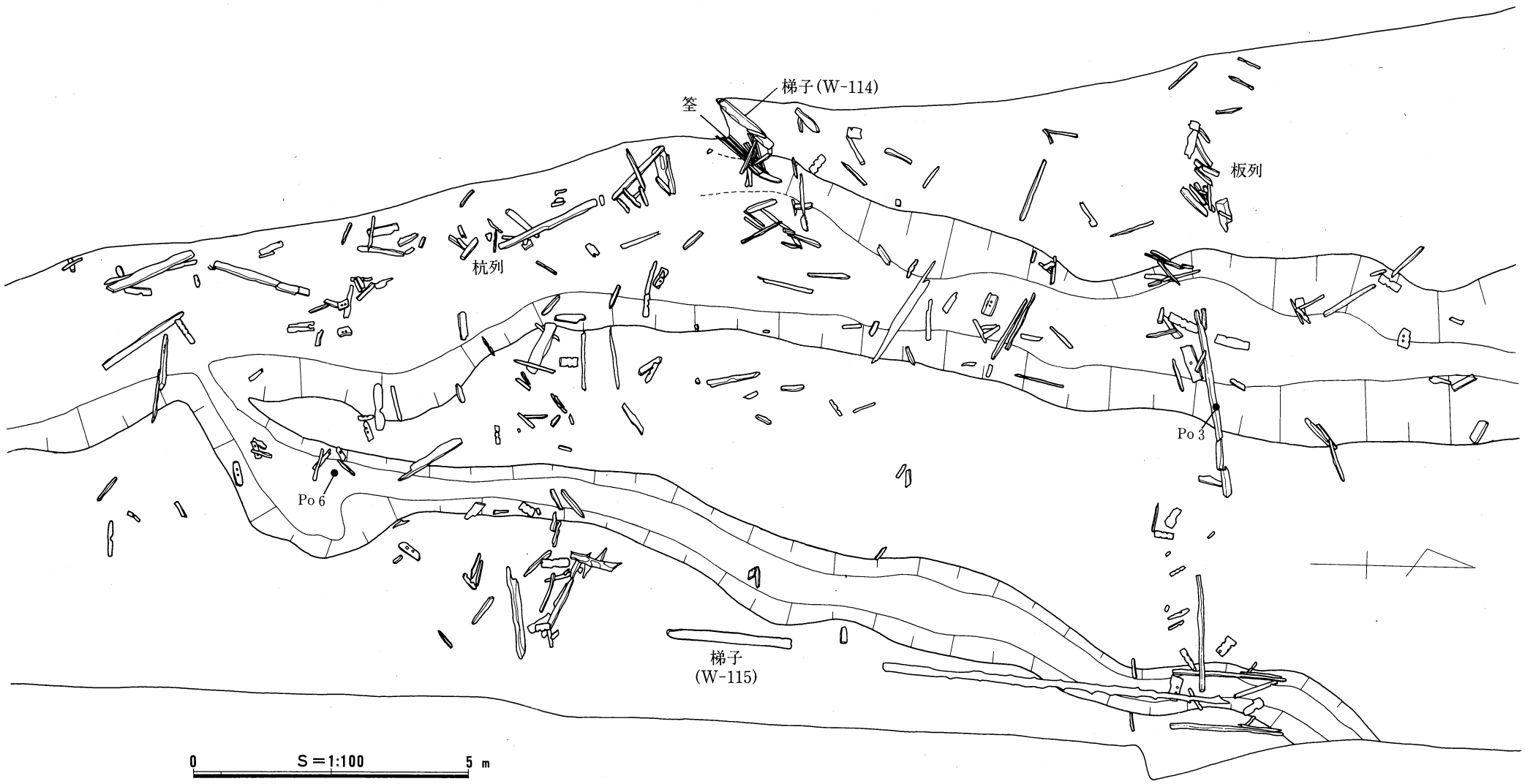
淡茶灰褐色粘土層で、南から北に向かって流れる SD-05、調査区南側で SD-05 と直交して西から東に流れる SD-06、SD-05 から分岐して南西から北東に流れる SD-07 を検出している。SD-05 は1区で検出された SD-03・04 の上流にあたるもので、かなり蛇行しており、人為的に掘られた水路ではない。SD-06 は先述した SD-08 が埋まった段階で、新たにできた東西に流れる自然水路であろう。それぞれの規模は、SD-05 が幅1.5～3.5m以上、深さ0.42mで、SD-06 が長さ5.5m以上、幅2.3m程度、深さ0.54mで、SD-07 が長さ22m以上、幅2.0～0.8m、深さ0.33mを測る。これらの水路の埋土には白灰色砂が入っており、



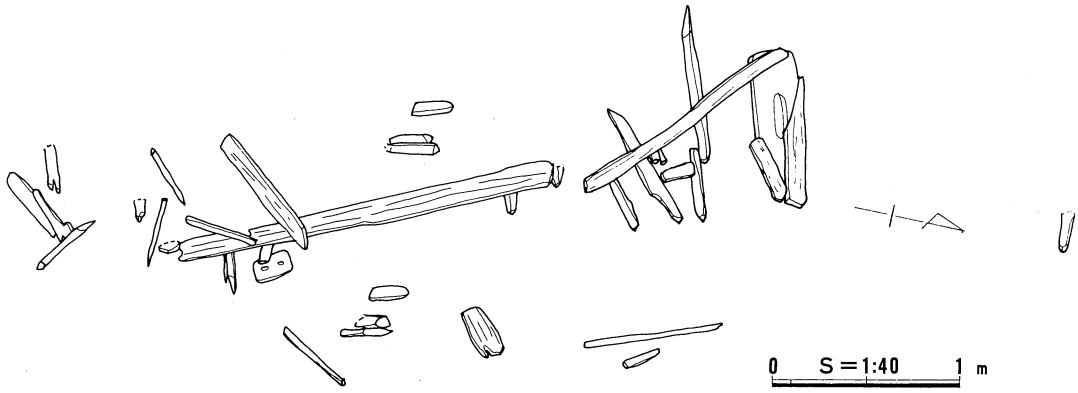
挿図19　弥生時代粘土面地形測量図（S＝1/200）



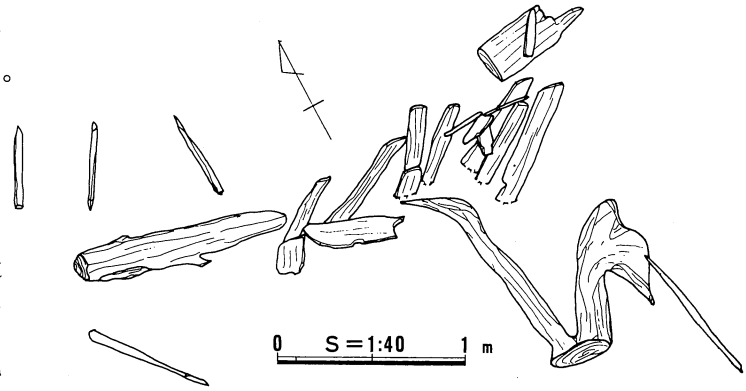
挿図20　古墳時代粘土面地形測量図（S＝1/200）



挿図21　古墳時代木製品出土状況図(S＝1/100)



挿図22　杭　　列(S＝1/40)



挿図23　板　　列(S＝1/40)

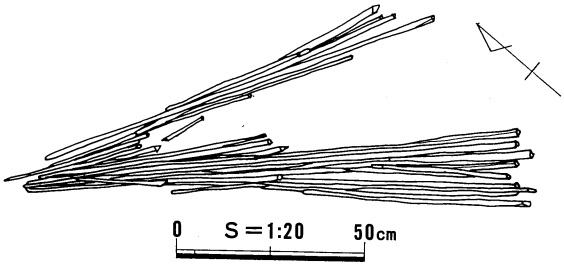
水路付近に堆積している淡黄灰褐色粘質マコモ層にも砂が混じっている。水路が埋まる段階で、水路周辺にもかなりの砂が流れ込んできたことを示すものであろう。

SD-05は、今回調査した東桂見遺跡の中では唯一、杭列等の遺構を明瞭にとどめる水路である。杭列が見つかったのは、調査区の西壁際のごく一部で、SD-05の西壁に沿うようにして杭が打たれているが、SD-05が完全なかたちで検出された北側部分には杭列は続かない。この杭列には長さ2mをも測る板材が立ててある。杭列の南側には杭や長板材が散乱しており、この杭列は水路に沿って南側にも続いていたものと思われ、護岸の施設ではないかと推定される。使用されている杭、SD-05の埋土内に散乱している杭の多くには、上部先端に段を有するものや、中には穴のあいているもの等もあり、これらを利用して板材を固定していたものと思われる。

調査区北よりのSD-05の西方で、SD-05の流れに直行するようにして、板材が立ち並んでいる。板材は全て70cm程の長さをもつもので、縦向きに打ち込まれており、東西方向に2mにわたって並んでいる。すべての板が、北方向に圧し傾けられたようにして出土している。この板列も、SD-05を利用するために設けられた施設の一部であろう。

これら以外に出土した木製品は、明確な遺構としてはとらえられないが、全体的にはややまとまった出土状況をしている。即ち、調査区内を南北に流れるSD-05に沿うようにしてかなりの点数の木製品が出土しているが、これらはすべて水路及びその周辺に流れ込ん

できたものと思われる。ここで出土している木製品は、田下駄、板材、棒状木製品、杭などで、SD-05の中央西壁際で梯子が出土している。また、梯子のすぐ東側で、細長い角棒が円錐状にまとまって出土している。魚などを捕獲する際に使用される筌であろう。一方、水路から外れる部分では、木製品がまとまって出土している箇所と、ほとんど出土していない箇所とがある。まとまって出土しているのは2カ所で、1つは、SD-05の東側で板列と同一方向に並んで出土している。ほとんどが田下駄で、中に数点杭と板材がある。また、丸太材が西岸の板列と並行して出土しており、東岸にも何らかの施設があって、そこに木製品がたまった可能性がある。もう1カ所はSD-07の東岸である。ここにも田下駄、杭、板材などが集中して出土している。また、ここから2mほど北に離れたSD-07の東岸で梯子が出土している。この他の部分では、木製品の出土状況はまばらである。以上のような木製品の出土状況は、当時の水田の営みと何らかの関係があるのではなかろうか。



挿図24　筌出土状況図(S＝1/20)

木製品以外の遺物としては、水路の埋土内から土師器と石包丁が出土している。甕(Po.3)はSD-05に流れ込む砂の中から出土しており、この甕をもって古墳時代前期という時期判定をした。また、手捏ねの小甕(Po.6)がSD-07の埋土の砂から出土している。石包丁(S1)はSD-05の最南端の底面で出土している。この他、SD-05の埋土の砂から椎の実、SD-06の埋土の砂からサルノコシカケが出土している。

中世遺物包含層は小礫を含む第⑤層の黒灰色土層が中心で、プラント・オパールの結果ではこの層が最もピークを示している。この層からは瓦質土器、土師質土器、土錘、箸などの木製品、漆器、古銭が出土している。畦畔などの遺構は確認できなかったが、1区で検出されたSD-02の続きが、東壁の土層断面で北から南に至るまで延々と確認された。中世の水路も自然水路のようで、かなり蛇行しており、埋土の砂層が見え隠れする。中世遺物の多くは、水路近くの調査区西側で出土しており、いずれも水路に向かって流れ込んできたものと推定される。中世水路の上層で中世以降の水路も確認している。

以上が4区の調査結果であるが、4区は自然水路の周辺、即ちほとんど谷底付近に位置するため、流れ込みの遺物が大量に出土してはいるが、水田に伴う明瞭な遺構を検出するには至らなかった。

【5　　区】

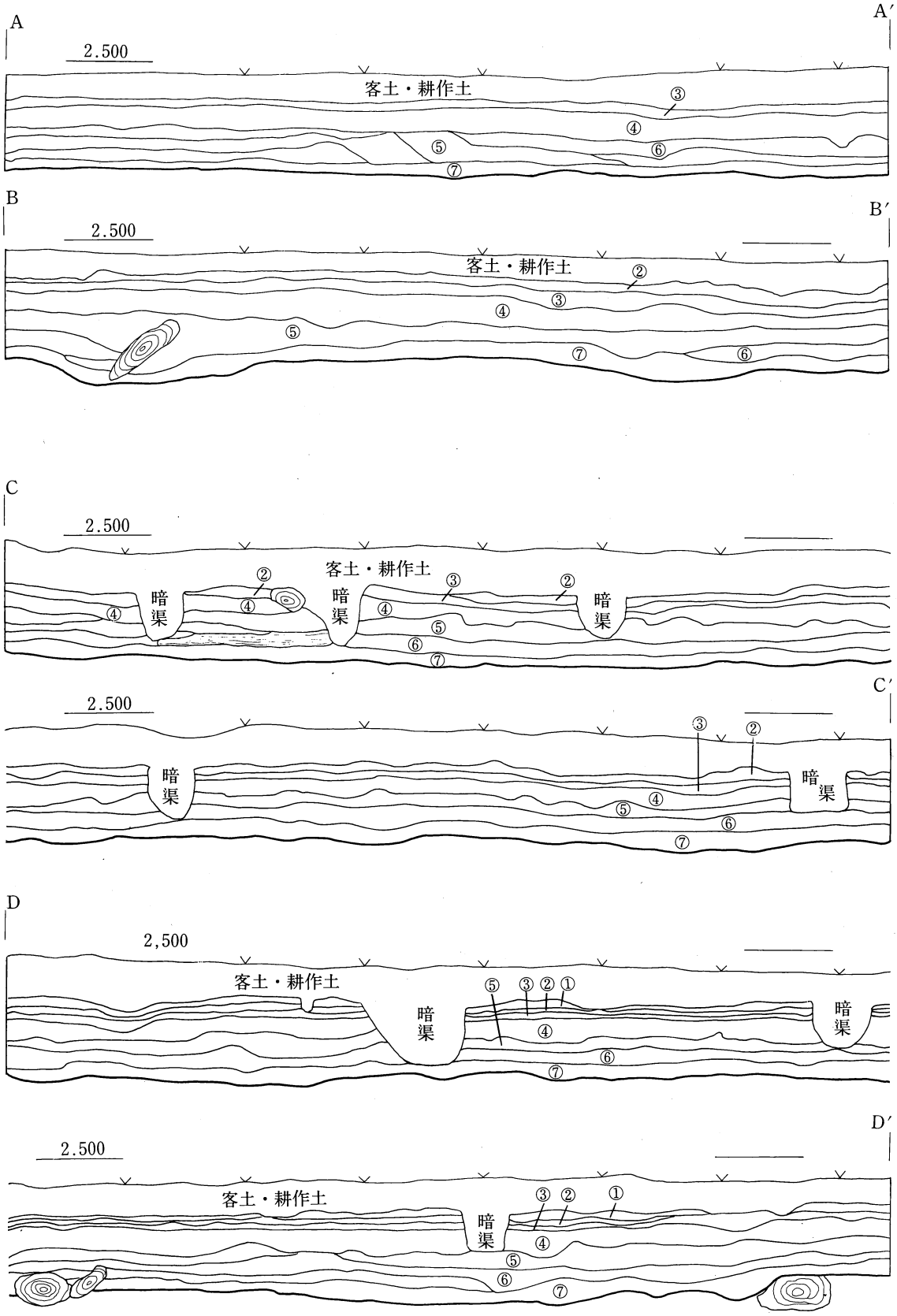
谷の中央部のやや東側で、２区と７区に挟まれて位置する。土層は表土、客土の下は順に①黒灰色土、②黒褐色粘質マコモ層、③暗褐色粘質マコモ層、④黄褐色粘質マコモ層、⑤赤褐色マコモ層、⑥赤褐色粘質マコモ層、⑦乳褐色粘質土層となる。このうち①、②層は圃場整備で削れられており一部しか残っていない。また、⑤層は小枝状の自然木が多くみられ全体的にもろく、⑥層は粘性が強くなるが、その粘性は均一でない。また、⑤層、⑥層の層序は均一でなく場所によって交錯する。調査は⑥層、⑦層の２段階で行った。調査面積は⑥層910.5m²、⑦層879.3m²で延べ調査面積は1789.8m²である。

⑥層で明瞭な遺構は検出されなかったが上層の④、⑤層で田下駄、鋤、板材、棒が検出された。また、調査区の北側で⑥層に接して古墳時代前期の土師器甕(Po.4)の口縁部が一点検出された。

⑦層では３本の溝が検出された。溝は幅３ｍ～５ｍ前後、深さ10cm前後を測るが、幅、深さとも均一でなく、掘り方が消滅する所もあるなど不整形を呈し、自然にできた溝の可能性が高い。また、調査区の一番南側で検出された溝は７区の溝に続くと考えられる。遺物は⑦層の面に接するように田下駄、板材が数点検出されたが、上層と比べてその数は極端に少ない。

明瞭な水田遺構は検出されていないが、２・４・７区のプラント・オパール分析で同等の層を比較検討すると、①～⑤層で稲作が行われた可能性が高いという結果を得た。

写2　5区　トータルシステムによる遺物測量

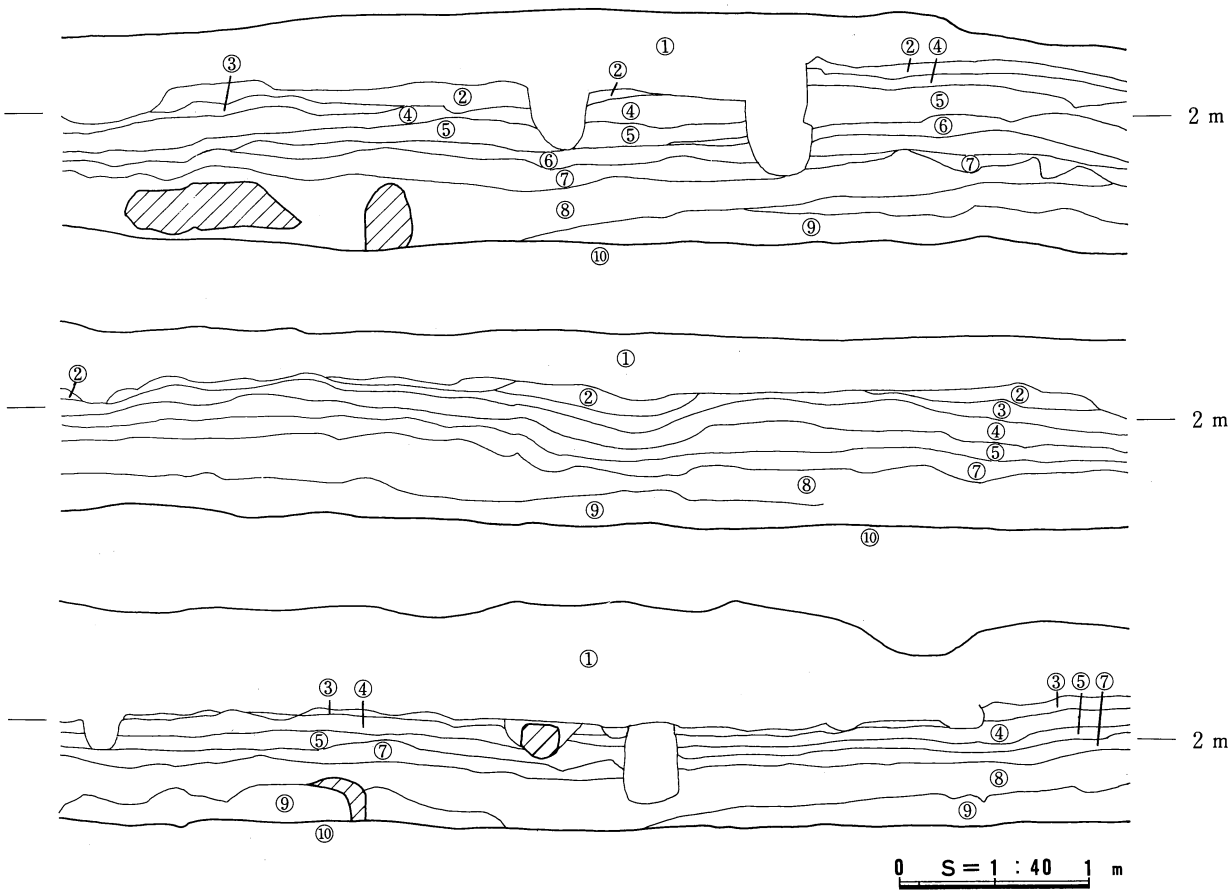


挿図25　5区土層図(S＝1/50)

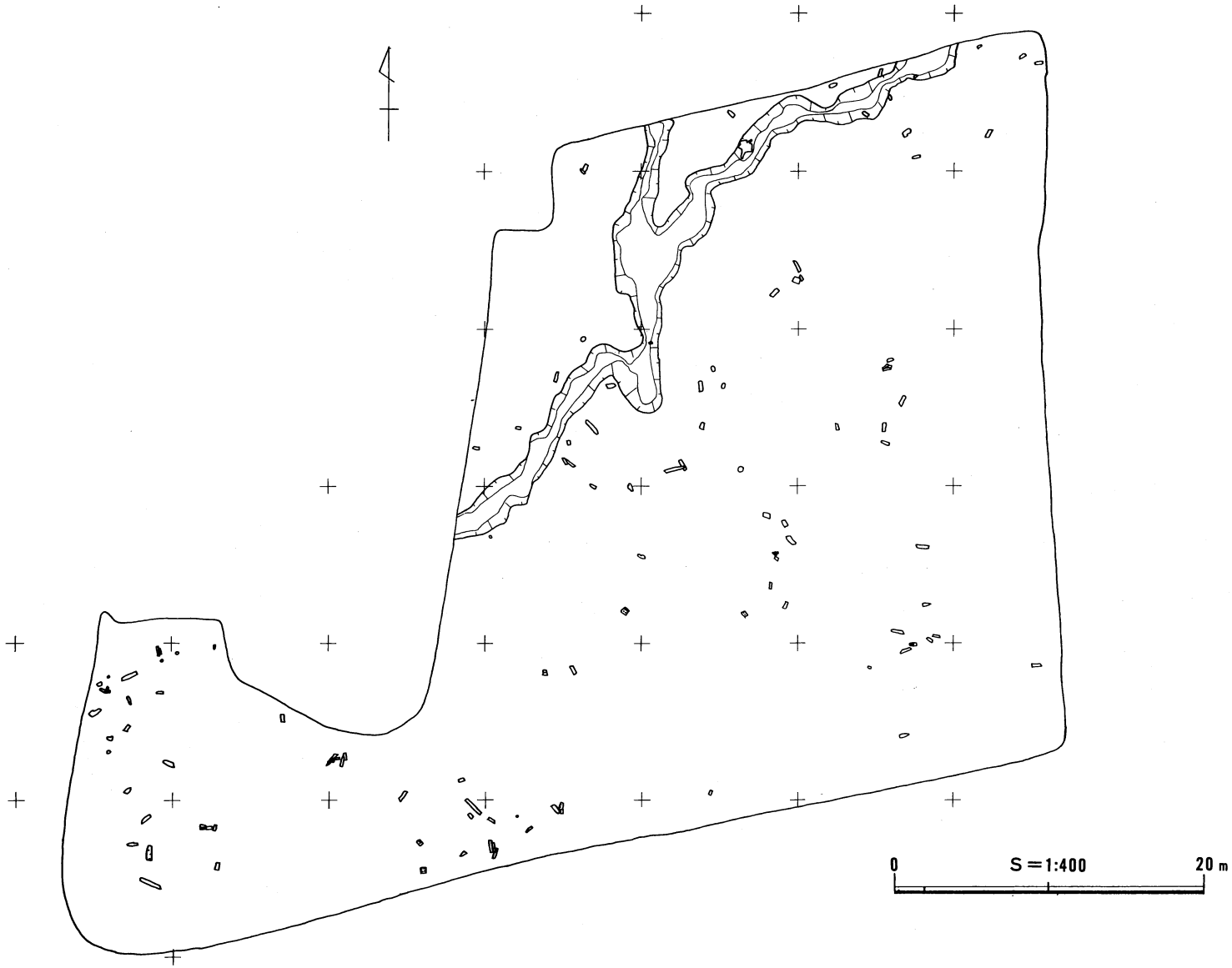
図26　5区遺物・遺構検出状況図（S＝1/200）

【7　区】

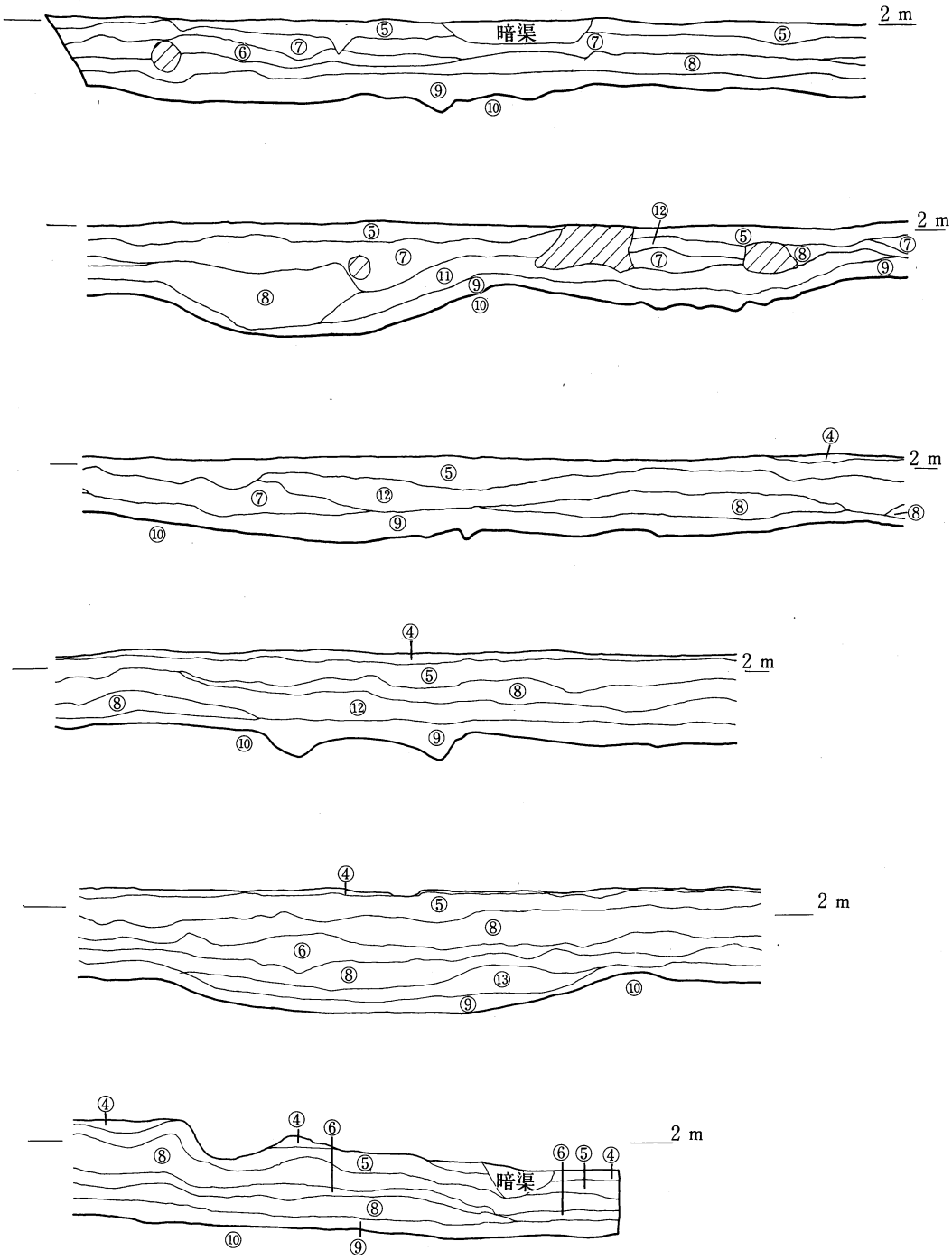
南から下る谷と、西から下る谷が合流する地点である。調査面積は2,084m²（延べ面積8,412m²）である。土層は、基本的には表土より順に①耕作土・客土、②黒褐色土、暗灰色粘砂質土、③黒灰色マコモ層、④暗褐色マコモ層、⑤暗黄灰褐色粘質マコモ層、黄灰色粘質マコモ層、⑥乳黄灰褐色粘土層、⑦・⑧赤褐色マコモ層、⑨乳褐色粘質土、⑩赤褐色マコモ層がみられた。このうち⑥層乳黄灰褐色粘土層は、調査区北西部のみにみられ、4区に続くものと考えられる。⑩層の赤褐色マコモ層は木の小枝状のものが多くみられた。プラント・オパール分析によると②・③・⑤層で水田が営まれていたことが推定されるが水田遺構は検出できなかった。⑨層において、南西から北東に流れる溝を検出した。この溝は幅0.8～2.8m、深さ0.4mで、北で2つに分かれ、西側の溝は5区に続くと思われる。東側の溝は6区に続くものと思われる。出土遺物は、⑤・⑥層で田下駄や板材などの木製品が出土している。特に⑤層で多く出土している。土師器は⑦層でPo.5が出土している。



挿図27　7区西壁土層断面図（S＝1:40）



挿図28　7区平面図(S＝1/400)



挿図29　7区北壁土層図

第2節　出土遺物

東桂見遺跡の調査で、土器・土製品・石製品・木製品・古銭が出土している。

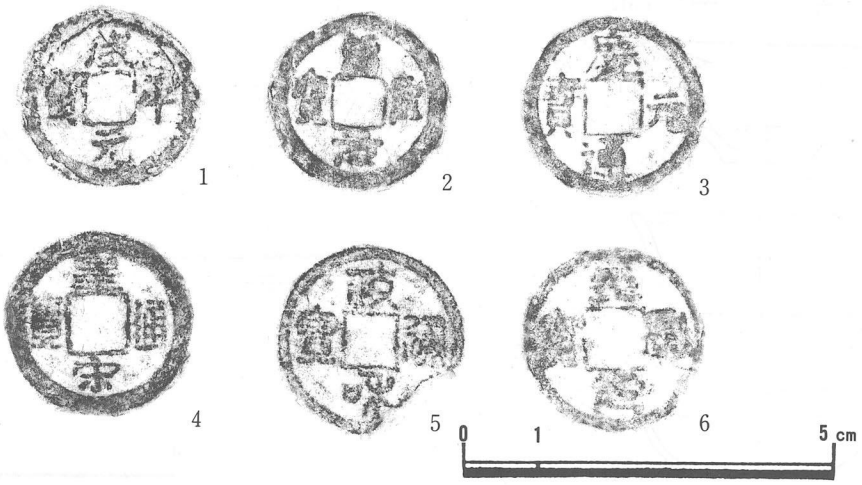
【土　　器】（挿図31）

土器は、弥生土器・土師器・土師質土器・須恵器・瓦質土器・陶磁器がある。Po.1・2はいずれも2区で出土した後期の甕である。口縁端部を上下にわずかに肥厚させ2条の凹線が巡る。Po.2は頸部内面に指圧痕がみられる。Po.3～6は土師器である。3～5は甕である。いずれも複合口縁で、やや外反気味に開く。Po.3は、4区のSD-05の肩部で出土した。口縁端部を丸くしたもので胴部は算盤型である。胴部内面をヘラ削り、外面は刷毛目調整である。Po.4は、Po.3と同様の口縁で5区赤褐色マコモ層で出土したものである。Po.6は7区の赤褐色マコモ層で出土した。口縁端部は平坦で、肩部外面に櫛描きの波状文が見られる。Po.6は手捏の壷である。やや内湾する「く」の字口縁で端部は丸い。

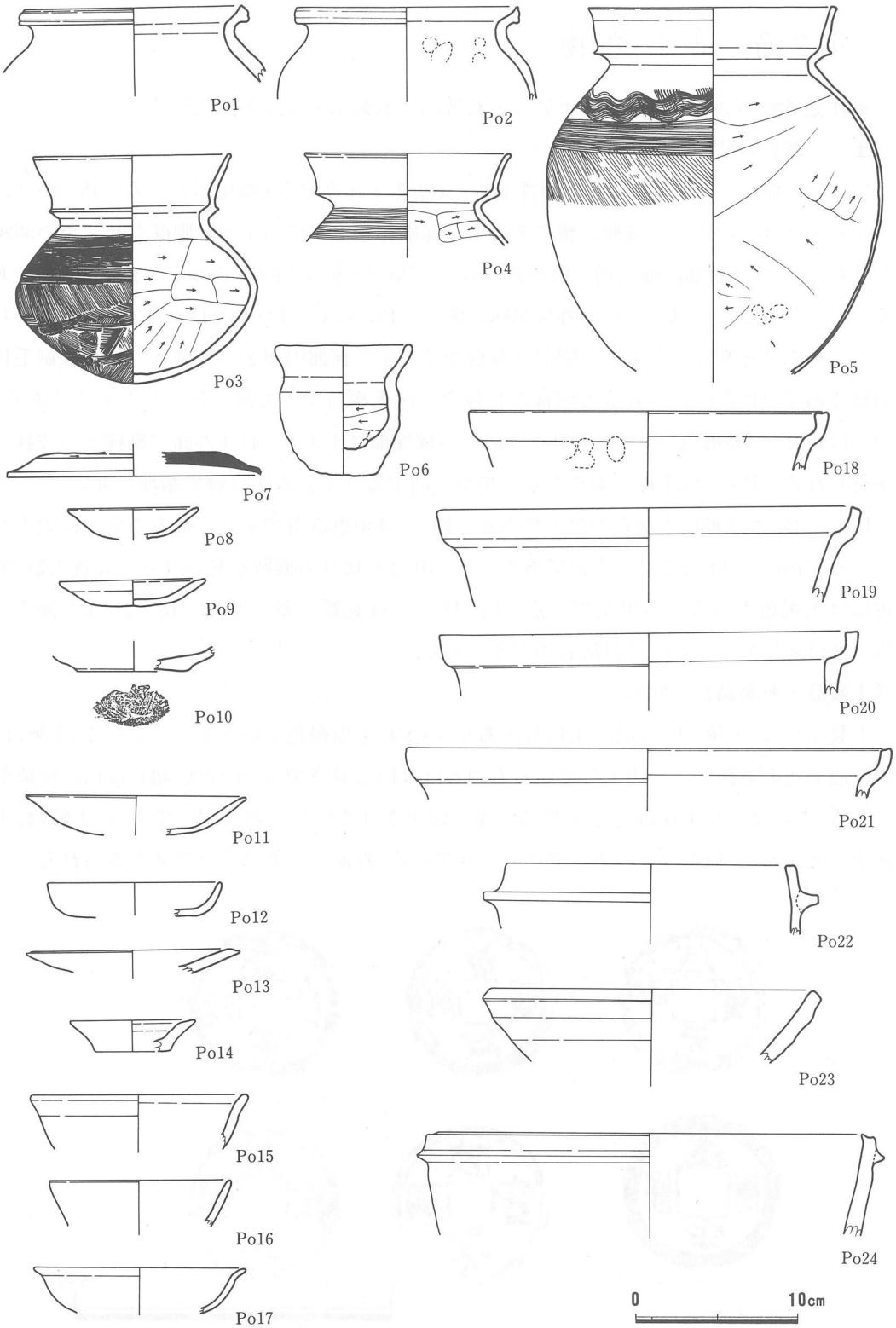
Po.7～24は黒褐色土からの出土である。Po.7は須恵器蓋である。摘みの部分は欠損している。Po.8～14は土師質小皿である。Po.10は糸切りの痕跡が見られる。瓦質土器・陶磁器は黒褐色土中よりの出土である。Po.18～24は瓦質土器である。18～21は土鍋で、Po.23は鉢である。Po.24は陶質の羽釜である。

【土製品・石製品】（挿図31）

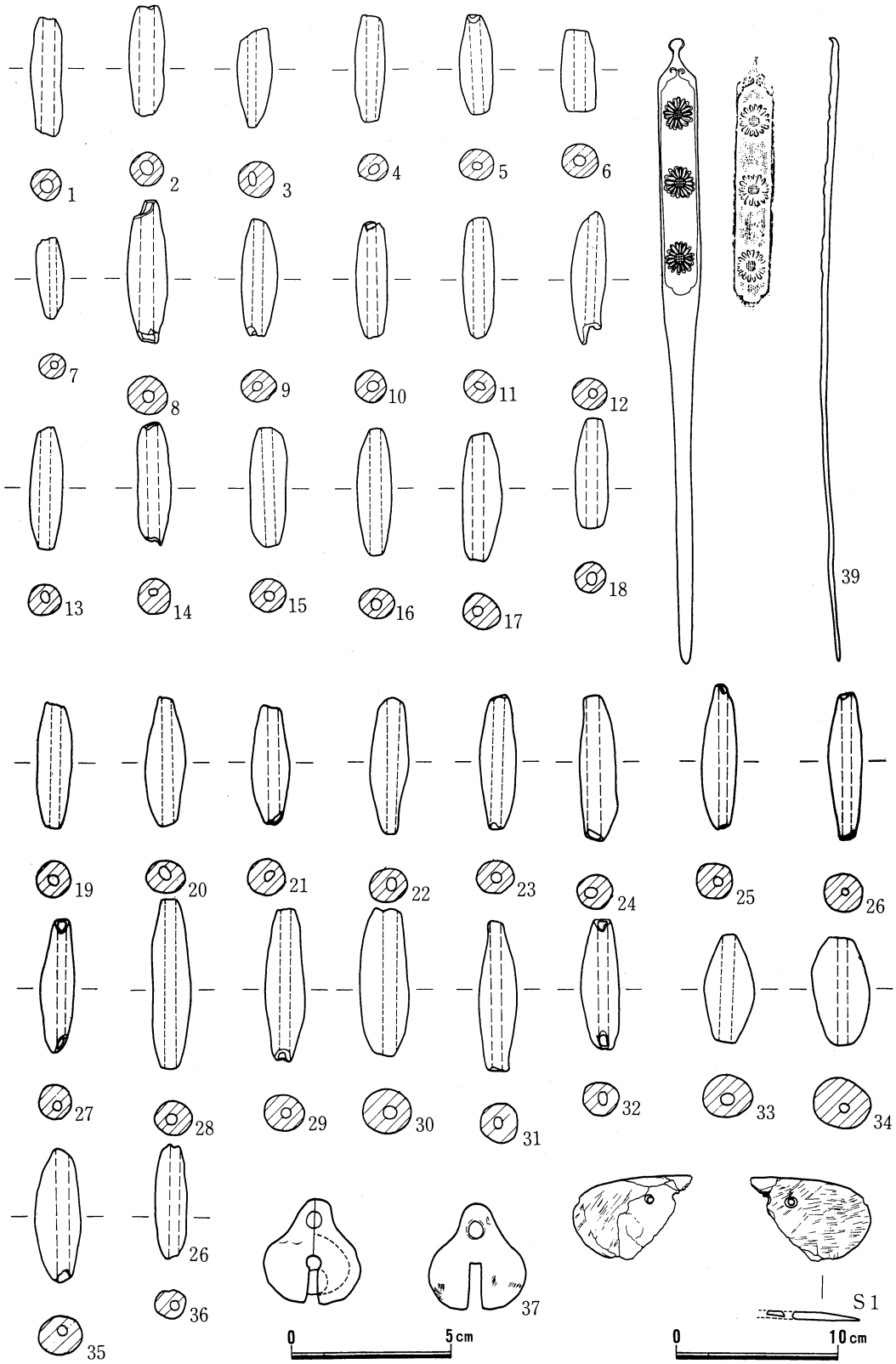
土製品には、土錘（1～36）と土鈴37があり、いずれも黒褐色土から出土している。土錘は、湖山池周辺の遺跡でよく出土しているものとほぼ同じ長さで5cm程度、幅1.5cmの紡錘型である。このような土錘は近年まで湖山池で使用されていたものと同じである。土鈴は、1区から出土した。紐をつまみあげてこしらえている。外面の一部ににハケメがみられる。



挿図30　東桂見遺跡出土古銭拓本



挿図31　東桂見遺跡出土遺物(1)



挿図32　東桂見遺跡出土遺物(2)

Ｓ１は石包丁である。４区のSD-05で出土している。

【古　　銭】(挿図30)

古銭は１・４区の黒褐色土で出土した。いずれも北宋銭である。１は北宋(997年)の「咸平元宝」である。２は北宋（1094年）の「紹聖元宝」である。篆書で書かれている。Z3は南宋（1194年）の「慶元通宝」である。楷書である。３は北宋（1039年）「皇宋通宝」である。楷書。５は北宋(1111年)の「政和通宝」は篆書で書かれている。６は判読できなかった。

【装 飾 品】(挿図32)

39は笄である。先端が耳かきとなっている。16弁の菊が３こ描かれている。

【木 製 品】

東桂見遺跡で出土した木製品は総数892点にも及ぶ。その内訳は、鋤先１点、田下駄・大足が230点、棒・柄状木製品が24点、柱根等の建築部材と思われるものが17点、梯子が２点、杭が119点、不明角材71点、１ｍ以上の長さをもつ板材が23点、その他の板材(矢板として使用されたものも含む)が287点、箸が63点、漆器が４点、筌が１点、その他不明木製品が25点出土している。出土した木製品は大半が欠損しているため、比較的残存状況の良いものを抽出して、報告書に掲載した。

木製品は、弥生時代の堆積層から中世の堆積層に至るまで出土しているが、その大半は古墳時代の層から出土している。中世の木製品は小板材が多く、種別を確認し得るのは箸と漆器くらいであった。

①　鋤

鋤先W-155が５区の古墳時代前期以前の層から出土しており、今回の調査ではこれ１点のみである。使用材は樫で、柾目取りである。上部と刃部の一部が欠損している。残存最大長は35.8cmで、幅は中程から先端近くにかけてが最大で、12.7cmを測る。最大厚は1.1cmである。柄を装着する上部は幅８cmと狭くなっており、段があって薄くなっている。全面が丁寧に加工されている。

②　田 下 駄

膨大な数が出土しており、古墳時代前期以前の層から20点、古墳時代の層から94点を抽出した。ほとんどのものが欠損しているが、中に完形に近いものもある。使用材はすべて杉である。

形態的には隅丸方形もしくは長方形を呈するものが多いが、中にはW-40・158・166・174のように角が鋭く切り取られているものや、W-128・196のように片側の角だけが丸く加工されているものもある。この他にやや特異な形態のものがある。W-7は形態的には長方形であるが、片側の短辺が浅くＶ字状に抉られている。W-62は長方形状を呈するが、片側の

角が鋭く切り取られている。W-145は半月状を呈する。W-157・181は片側の長辺がえぐり取られている。W-162は長楕円形に近い形をしている。

通常、田下駄は中程に4つの穿孔がなされているが、東桂見遺跡で出土した田下駄には3つのパターンがある。1つは通常の4穴のもので、W-1・4・47・148・156・162・195・196などに代表される。穿孔はすべて両面からなされているが、4つの穴は必ず一方が幅広になるように穿孔されている。もう1つは、長辺の両側に2つずつ4つのV字もしくはU字の抉りをいれるタイプで、W-6・8・34・35・62・66・67・127・159・170・174・200などに代表される。このタイプはほとんどが長方形をしている。もう1つは前者2つを折衷したようなタイプで、片側にV字の抉りを入れ、中程に2つの穴を空けている。このタイプのものはW-58・59の2点しか出土していない。W-58は4穴の片側が欠損したために再びこのように加工して使用した可能性もある。この他に、4つよりも多くの穿孔・抉りがなされている田下駄も出土している。W-12・13・33・147・152は欠損しているものの片側半分に3穴がある。W-12・33・152の場合は一列に並ぶが、W-13・147の場合は1穴が2穴の中間外よりにずれる。W-74は穿孔の後にV字の抉りがなされている。W-75は欠損しているものの8つの穿孔がなされていたようで、更に長辺側には抉りの痕跡がある。W-76は2度の抉りがなされている。W-77は片側に3つの抉りをもつ。W-78は8つの抉りをもつ。W-79は4つの抉りのほかに中央部に四角い穿孔がある。W-129には4つの抉りのほかに端の方に長方形の穿孔がある。W-131は6つの穿孔と2つの抉りをもつ。W-149は2穴と4つの抉りがあり、更に長方形の小穿孔が2つある。この小穿孔はW-196にも1つある。W-153は欠損しているものの片側に4穴がある。W-181は片側には4つの抉り、もう一方には1つの抉りと大きな抉りがある。W-133には穿孔以外にも大きな凹の抉りがある。W-169は片側半分しか残っていないものの2穴以外に2つの抉りがあり、W-201も片側しか残っていないものの2穴以外に1つの抉りがある。

4穴タイプのW-5・11の片面には浅い帯状の凹がある。W-11は帯状の凹の中央に方形の穿孔がある。W-33は片面の片端が1段高くなっており、低い部分の方に穿孔がなされている。逆に、4つの抉りのあるW-132の片面の片側は1段低くなっており、その中央に方形の穿孔がなされている。W-35は先述したように4つの切り込みのある田下駄であるが、片面の中央部が平坦に削られている。

W-203は未完成の田下駄である。2穴は貫通しているが、もう2穴は穿孔途中である。

③ 大　足

W-46が2区の古墳時代前期以前の層から出土している。使用材は杉である。片側の抉り部分が欠損しているものの4つの抉りがあったようで、両端にそれぞれ3つの小穿孔がある。かなり丁寧に作られており、両面ともに加工痕が明瞭に見える。

④　柄・棒状木製品

すべて古墳時代の層から出土している。使用材はすべて杉である。W-29 は丁寧に丸く加工されており柄と思われる。W-25 も丸く丁寧に加工されており、端のほうが削られて平坦面をもつ。鋤か櫂の柄であろう。W-27 は角材で上部に抉りがあり、握りやすいように加工されている。何かの柄であろう。W-24・100・101・106 は丁寧に四角く加工された棒である。

⑤　杭

すべて古墳時代の層から出土している。使用材は、W-105 が広葉樹であるのを除いて、すべて杉である。W-99 の上部先端部には穿孔がある。W-107・108 も杭と思われ、W-107 には刻みがあり、W-108 の上端面には凹がある。W-111 の上部は1/3程が抉られている。W-190 は下部2/3が大きく抉られている。建築部材等を杭に転用したものではなかろうか。W-193 も中程に抉りがある。その他は普通の角杭である。

⑥　建築部材

トヨが 1 点、柱材が 2 点、部材が 2 点出土している。いずれも古墳時代の層からの出土である。W-31 はもともとは丸太材であったものがトヨに転用されたものであろう。使用材は杉である。断面U字状に彫り抜かれており、中央裏面には浅い窪みがある。W-116 は穿孔のある柱材で、かなり丁寧に面取りされている。使用材は杉である。 7 区から出土した W-194 は丸太の先端が加工されて尖っている。ここでは柱材として取り扱った。使用材は広葉樹である。W-113 は欠損しているものの断面L字状に彫り抜かれており、方形の穿孔が 3 つある。使用材は杉である。W-189 は欠損しているものの長方形の大きな穿孔と、方形の穿孔、長方形の抉りがある。使用材は杉である。

⑦　梯　　子

4 区の古墳時代の層から 2 点出土している。使用材はいずれも杉である。W-114 は 4 段の梯子で、長さ132.5cm、最大幅15.7cmを測る。最下部中央に抉りがあり、その斜め上に左右対称に 2 つの方形の穿孔がある。W-115 は 6 段の梯子で、足掛け部がかなり欠損している。長さ225.0cm、最大幅18.0cmを測る。

⑧　大型板材

ここでは長さ 1 m程以上の大型の板材を取り扱う。W-22 は長さ201.3cmを測り端部には丸い穿孔がある。W-23 は長さ134.5cm、幅16.0cm、厚さ2.3cmの板材で、片側の側面に15個の刻みがあるが、間隔は一定ではない。W-94 は杭列に立てられていた板で、抉りがある。これで杭に固定したのであろう。W-20 も同様の形態をもつ。W-95は長さ166.1cm以上で方形の穿孔がある。W-17・18 には 1 cm程の方形の穿孔が複数なされており、W-92・93・98 には片端に小穿孔がある。建築部材もしくは W-94 のように杭に固定された板材であろう。

⑨ 矢　板

矢板として使用されたと思われる板状木製品である。使用材はすべて杉である。W-84は下部が丸く加工された板材で、中央部に小穿孔が2つ並ぶ。W-86は大半が欠損しているものの下部が薄く加工されている。W-87は半分欠損しているが上部端に小穿孔がある。W-96は長さ81.6cmを測る板材で上部には穿孔がある。下部が薄く加工されている。W-161は下部が丸く加工されており、欠損しているものの穿孔の痕跡がある。W-185も大半が欠損しているが矢板と思われ、上部に穿孔がある。

⑩ 用途不明小型木製品

ここでは板状に加工され、穿孔などがなされていて、用途が不明の木製品を取り扱う。W-42・212・213以外はすべて古墳時代の層から出土しており、使用材はすべて杉である。W-14は片側が大きく弧状に抉られており、中央に穿孔がある。W-42は古墳時代前期以前の層からの出土で、長方形で片側の両隅に穿孔がある。W-81・82・83は欠損しているものの、W-81には2つの、W-82・83には1つの穿孔がある。W-85は欠損しているものの先が尖っており、尖った部分には10の穿孔があり、中程には1つの穿孔がある。W-88は鳥形に似た形をしているが、用途不明である。W-89は中央に方形の穿孔があり、片側にも穿孔があり、そちら側が面取りされている。W-90には中央部に小穿孔があり、その中には木釘のようなものが埋め込まれている。W-91は中央部に楕円形の大きな穿孔がある。W-134は長方形で片側の中央と両隅に穿孔がある。W-135も長方形で両側にそれぞれ2つの穿孔があり、さらに長辺の片側にも3つの穿孔がある。W-136は欠損しているものの中程に方形の穿孔がある。W-137・138も欠損しているものの方形の穿孔の痕跡がある。W-154は欠損しているが長辺の中央付近が弧状に抉り取られている。W-183は鋤先のような形をしているが、上部両端とその近辺に計4つの穿孔がある。W-187は6つの穿孔があり、一部欠落しているものの、孔の中には4枚の薄板が埋め込まれている。W-212・213は中世の層からの出土である。W-212は欠損しているものの短辺方向と斜め方向に刻みがある。用途不明である。W-213は欠損しているものの曲げ物ではなかろうか。

⑪ 箸

完形はW-205だけで、あとはすべて欠損している。W-211だけがやや角張っているが、あとは丸箸である。使用材はみな杉である。

⑫ 漆　器

W-214は椀の高台で、黒漆の地に朱漆で植物の文様が描かれている。W-215も椀で、同様に文様が描かれていたようである。使用材はいずれも栗である。

⑬ 筌

4区の調査区中央西隅のSD-05の砂を含む粘質マコモ層中から、1cm角程で長さ1.3m

程の棒が円錐状に並んで多数出土した。かなり欠落しているものの、魚捕りに使用された筌と思われる。使用材は杉である。

⑭ そ の 他

W-16は板材であるが、切り傷跡が多数あり、後に作業台として使用された可能性がある。W-32は四角い棒であるが、途中で曲面をもっている。欠損していることもあって、用途不明である。W-186は凸部をもつ。何かの柄ではないかと思われるが、用途不明である。使用材は広葉樹である。W-188は人形に似た形をしている。上部は丁寧に面取りされている。下部ほど薄くなる。両面には多数の切り傷跡がある弧とから、後に作業台として使用された可能性もある。W-186を除いて、使用材はすべて杉である。

東桂見遺跡は水田遺跡にもかかわらず鋤、鍬などの農具は1点しか出土していない。それに比して、田下駄は膨大な量が出土している。田下駄には、大別すると、穿孔するタイプと長辺の両側に抉りをいれるタイプとがあるが、両者を折衷して、片側に穿孔し、片側に抉りをいれるタイプのものもある。中にはW-131のように穿孔タイプと折衷タイプの両方の要素を同時にもつ田下駄もある。このようなタイプの違いが用途によるものか否かは不明である。また田下駄の中には、およそ田下駄には無縁と思われるような穿孔、抉りが見られるものがある。これは、もともとは他の木製品であったものが、田下駄として再加工されたために、前段階での穿孔、抉りが残っているものと思われる。また、田下駄に限らず出土した木製品に使用された樹種のほとんどが、天然の良質の杉であった。これは、鳥取県の気候・風土が杉の育成に適しているためであろうし、また杉が比較的加工しやすいことによるものであろう。

表1 木製品一覧表(1)

鋤

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備考
W-155	57	51	1172	5区	弥生	(35.8)	12.7	1.1	一部欠損・舌状を呈す・柄装着部に段有・丁寧な面取り

田下駄・大足

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備考
W-01	33	33	887	1区	古墳	31.0	27.0	2.5	完形・隅丸方形状・楕円形穿孔4
W-02	33	33	888	1区	古墳	37.3	(19.5)	2.2	1/3欠損・隅丸方形状？・長方形穿孔2・穿孔痕2
W-03	33	33	542	1区	古墳	35.7	(15.6)	1.8	1/3欠損・隅丸方形状？・円形穿孔2・穿孔痕2
W-04	33	33	622	1区	古墳	34.2	16.5	2.6	完形・長方形状・円形穿孔4
W-05	33	33	529	1区	古墳	38.1	(17.4)	1.8	1/2欠損・隅丸長方形状？・円形穿孔2・片隅に帯状の凹有
W-06	34	34	535	1区	古墳	40.6	19.5	1.7	完形・長方形状・U字状抉り4
W-07	34	34	558	1区	古墳	38.4	15.4	2.1	ほぼ完形・長方形状を呈すが、1短辺に弓状の抉り V字状抉り4・切り傷痕多有・焦痕有
W-08	34	34	528	1区	古墳	36.5	15.7	2.3	ほぼ完形・長方形状・U字状抉り4
W-09	34	34	658	1区	古墳	39.9	(12.7)	1.8	1/2欠損・長方形状？・V字状抉り痕2
W-10	34	34	539	1区	古墳	29.8	(15.5)	2.8	1/4欠損・長方形状？・V字状抉り2・抉り痕2

表 2　木製品一覧表(2)

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-11	34	34	536	1区	古墳	(27.3)	13.6	2.3	1/2欠損・長方形状？・三角に並ぶ穿孔で、円形穿孔2、方形穿孔1・片面の方形穿孔部に帯状の凹有
W-12	34	34	530	1区	古墳	29.7	(16.2)	2.0	1/2欠損・長方形状？・円形穿孔2、不整形穿孔1が並ぶ
W-13	35	35	447	1区	古墳	30.5	(9.9)	2.2	1/2以上欠損・長方形状？・三角に並ぶ楕円形穿孔3
W-33	38	37	677	1区	弥生	(24.4)	(11.8)	1.5	1/2欠損・隅丸長方形状・円形穿孔3・片面片側に段有
W-34	38	37	679	1区	弥生	31.2	14.9	1.6	完形・長方形状・V字状抉り4
W-35	38	37	856	1区	弥生	33.2	(14.5)	2.1	完形・長方形状・U字状抉り4・片面中央に削り痕有
W-36	38	37	678	1区	弥生	(31.1)	(14.4)	1.8	一部欠損・長方形状・V字状抉り痕4
W-37	38	37	860	1区	弥生	29.0	(6.2)	1.6	1/2欠損・長方形状？・円形穿孔痕2
W-38	38	37	868	1区	弥生	37.6	(8.6)	1.9	2/3欠損・長方形状？・円形穿孔痕2
W-39	38	38	1121	1区	弥生	(22.3)	(4.8)	1.8	2/3欠損・隅丸長方形状？・円形穿孔痕2
W-40	38	38	685	1区	弥生	(23.5)	(6.5)	1.2	欠損・1隅を削り取る・穿孔痕1
W-41	38	37	861	1区	弥生	36.1	(6.9)	1.7	2/3欠損・長方形状？・方形穿孔痕2
W-44	40	38	1199	2区	古墳	(31.8)	(7.4)	1.1	1/2欠損・隅丸長方形状？・円形穿孔痕2
W-45	40	38	1165	2区	古墳	35.8	(8.3)	1.5	1/2欠損・隅丸長方形状？・円形穿孔2・焦痕有
W-46	40	38	1194	2区	弥生	38.4	(14.3)	1.1	大足・一部欠損・長方形状・円形穿孔6・U字状抉り2 抉り痕2
W-47	41	39	614	4区	古墳	40.7	(27.9)	2.2	ほぼ完形・長方形状・円形穿孔4
W-48	41	39	430	4区	古墳	41.8	(13.8)	1.6	1/2欠損・隅丸長方形状？・方形穿孔2
W-49	41	39	433	4区	古墳	32.3	(8.0)	1.7	2/3欠損・隅丸長方形状？・円形穿孔2
W-50	41	39	1189	4区	古墳	40.9	(13.3)	2.8	1/2欠損・長方形状？・円形穿孔2
W-51	41	39	562	4区	古墳	37.4	(11.8)	1.4	1/2欠損・長方形状？・長方形穿孔2
W-52	41	39	561	4区	古墳	32.0	(9.0)	1.0	1/2欠損・長方形状？・円形穿孔2
W-53	41	39	731	4区	古墳	(38.4)	(8.1)	1.1	2/3欠損・長方形状？・円形穿孔痕2
W-54	42	40	695	4区	古墳	(26.1)	(4.6)	1.6	大半欠損・穿孔痕1
W-55	42	40	417	4区	古墳	(36.3)	(7.7)	1.2	1/2欠損・隅丸長方形状？・楕円形穿孔1・穿孔痕1
W-56	42	40	708	4区	古墳	(31.7)	(9.4)	1.2	1/2欠損・隅丸長方形状？・穿孔痕2
W-57	42	40	67	4区	古墳	(28.8)	(9.3)	1.7	1/2欠損・隅丸長方形状？・穿孔痕2
W-58	42	40	52	4区	古墳	60.2	18.7	2.3	ほぼ完形・長方形状・方形穿孔2・片側にU字状抉り2
W-59	42	40	690	4区	古墳	44.5	22.7	1.8	一部欠損・長方形状・方形穿孔2・片側にV字状抉り2
W-60	42	40	471	4区	古墳	43.5	14.6	1.5	ほぼ完形・長方形状・V字状抉り2・V字状抉り痕2
W-61	42	40	444	4区	古墳	45.2	(9.7)	1.4	1/2欠損・長方形状？・U字状抉り2
W-62	43	41	1203	4区	古墳	61.5	18.9	2.6	完形・片側の両端が切断される・U字状抉り4
W-63	43	41	424	4区	古墳	29.6	(15.7)	1.6	一部欠損・長方形状・U字状抉り4
W-64	43	41	599	4区	古墳	34.3	12.6	1.5	ほぼ完形・長方形状・U字状抉り4
W-65	43	41	895	4区	古墳	30.9	(4.1)	1.4	1/4欠損・隅丸長方形状？・U字状抉り2・U字状抉り痕1
W-66	43	41	567	4区	古墳	35.3	6.2	1.7	完形・長方形状・U字状抉り4
W-67	43	41	591	4区	古墳	49.3	14.6	2.0	完形・長方形状・U字状抉り4
W-68	43	41	444	4区	古墳	45.2	(9.4)	1.4	1/2欠損・長方形状？・U字状抉り2
W-69	43	41	443	4区	古墳	45.0	10.5	1.5	ほぼ完形・長方形状・U字状抉り4
W-70	44	42	602	4区	古墳	38.4	(10.7)	2.8	1/4欠損・長方形状？・U字状抉り2・U字状抉り痕2
W-71	44	42	428	4区	古墳	40.0	(7.4)	1.8	1/2欠損・長方形状を呈すが片側は隅丸状・V字状抉り2
W-72	44	42	578	4区	古墳	27.5	(12.5)	1.4	1/4欠損・長方形状？・V字状抉り2
W-73	44	42	1200	4区	古墳	32.8	(12.5)	2.4	1/4欠損・隅丸長方形状？・V字状抉り2・抉り痕1 U字状抉り痕1
W-74	44	42	437	4区	古墳	40.5	(8.2)	1.7	1/2欠損・隅丸長方形？・V字状抉り2 その内側に方形の穿孔痕2
W-75	44	42	442	4区	古墳	39.8	(17.4)	1.5	1/3欠損・隅丸長方形状・円形穿孔4・円形穿孔痕2 U字状抉り痕3
W-76	44	42	696	4区	古墳	37.8	21.7	2.0	ほぼ完形・不整長方形状・方形穿孔1・U字状抉り4 抉り痕2

表 3　木製品一覧表(3)

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-77	44	42	53	4区	古墳	37.4	(8.2)	1.5	1/2欠損・長方形状？・U字状抉り 3
W-78	45	43	488	4区	古墳	53	10.9	1.6	ほぼ完形・長方形状・U字状抉り 8
W-79	45	43	421	4区	古墳	51.6	(24.9)	1.6	一部欠損・長方形状？・V字状抉り 4・中央に方形穿孔 1
W-117	51	46	849	4区	古墳	24.1	(8.3)	1.4	1/2欠損・長方形状？・円形穿孔 2・円形穿孔痕 2
W-118	51	46	839	4区	古墳	(30.0)	(7.3)	1.2	1/2欠損・隅丸長方形状？・楕円形穿孔 1・楕円形穿孔痕 1
W-119	51	46	772	4区	古墳	40.2	(9.0)	2.4	欠損・長方形状？・方形穿孔（抉り？）痕 2
W-120	51	46	814	4区	古墳	44.3	(5.6)	1.7	2/3欠損・長方形状？・楕円形穿孔痕 2
W-121	51	47	760	4区	古墳	(37.8)	(7.3)	1.3	1/2欠損・長方形状？・楕円形穿孔 2
W-122	51	47	807	4区	古墳	31.2	(11.5)	1.4	2/3欠損・隅丸方形状？・円形穿孔痕 2
W-123	51	47	829	4区	古墳	22.0	(13.5)	1.7	1/3欠損・隅丸方形状・円形穿孔 2・円形穿孔痕 2
W-124	51	47	760	4区	古墳	(33.9)	(9.2)	1.8	2/3欠損・隅丸長方形状？・楕円形穿孔痕 2
W-125	51	47	811	4区	古墳	(34.6)	(9.9)	1.6	2/3欠損・隅丸方形状？・長方形穿孔 2
W-126	52	47	781	4区	古墳	45.2	(12.5)	1.3	1/2欠損・長方形状？・楕円形穿孔 2
W-127	52	47	792	4区	古墳	72.6	17.7	2.1	完形・長方形状・U字状抉り 4
W-128	52	48	852	4区	古墳	46.5	(17.1)	1.8	一部欠損・不整隅丸長方形状？・U字状抉り 4 長方形穿孔 1
W-129	52	48	835	4区	古墳	34.6	(7.0)	1.2	1/2欠損・長方形状？・抉り（穿孔）痕 4
W-130	52	48	797	4区	古墳	17.7	27.2	2.0	ほぼ完形・長方形状・U字状抉り 2・片側に皿状抉り 1
W-131	52	48	738	4区	古墳	32.5	(19.5)	1.5	完形・長方形状・方形穿孔 4・U字状抉り 2
W-132	53	48	844	4区	古墳	49.9	11.8	2.3	完形・長方形状・片側に段有し方形穿孔 1・U字状抉り 4
W-133	53	48	816	4区	古墳	27.5	(12.6)	1.6	欠損・長方形状？・円形穿孔 2・穿孔痕 2・長方形抉り 1
W-141	54	49	870	4区	古墳	23.0	(10.9)	2.7	1/2欠損・隅丸方形状？・円形穿孔 2
W-142	55	49	897	4区	古墳	22.3	(8.0)	2.2	1/2欠損・隅丸方形状？・円形穿孔 2
W-143	55	49	910	4区	古墳	29.3	(15.6)	1.7	1/3欠損・方形状？・方形穿孔 2
W-144	55	50	865	4区	古墳	28.6	(16.1)	2.5	欠損・長方形状？・方形穿孔痕 2
W-145	55	50	1021	4区	古墳	46.3	12.5	1.6	一部欠損・半月状・V字状抉り 4・片側に小円形穿孔 2
W-146	55	50	896	4区	古墳	51.5	(12.2)	1.5	1/2欠損・長方形状？・U字状抉り 2
W-147	55	50	867	4区	古墳	30.7	(9.8)	1.5	1/2欠損・長方形状・方形穿孔 2・楕円形穿孔 1
W-148	56	50	1195	5区	古墳	(35.7)	(18.5)	1.7	一部欠損・長方形状・方形穿孔 4
W-149	56	50	1097	5区	古墳	39.4	18.1	1.6	完形・隅丸長方形状・方形穿孔 2・V字状抉り 4 小長方形穿孔 2
W-150	56	50	1148	5区	古墳	36.1	9.7	1.4	ほぼ完形・長方形状・U字状抉り 4
W-151	56	50	1147	5区	古墳	29.2	11.9	1.9	完形・長方形状・U字状抉り 4
W-152	56	50	1159	5区	古墳	(31.9)	(15.7)	2.1	1/3欠損・隅丸方形状？・長方形穿孔 3・穿孔痕 3
W-153	56	50	1116	5区	古墳	32.1	(7.8)	1.6	2/3欠損・隅丸方形状？・長方形穿孔 2・長方形穿孔痕 2
W-156	57	51	1186	5区	弥生	26.1	22.2	2.3	完形・隅丸方形状・円形穿孔 4
W-157	57	51	1134	5区	弥生	38.0	26.5	1.8	完形・長方形状を呈すが片側に弓状の抉り・U字状抉り 2
W-158	57	51	1178	5区	弥生	43.0	(14.2)	1.8	一部欠損・長方形状を呈すが 1 隅が切断される U字状抉り 3・抉り痕 1
W-159	57	51	1162	5区	弥生	48.4	20.7	2.3	一部欠損・長方形状・U字状抉り 2・U字状抉り痕 2
W-160	57	51	1160	5区	弥生	35.1	(7.7)	1.9	1/2欠損・隅丸長方形状？・円形穿孔 2
W-162	58	52	1069	7区	古墳	39.7	15.0	1.9	完形・不整隅丸方形状・方形穿孔 4
W-163	58	52	1068	7区	古墳	29.0	(10.5)	2.2	1/2欠損・方形状？・穿孔痕 2
W-164	58	52	1085	7区	古墳	48.3	(13.4)	1.6	2/3欠損・隅丸方形状？・穿孔痕 2
W-165	58	52	917	7区	古墳	(27.9)	(8.0)	1.4	1/2欠損・隅丸方形状？・円形穿孔痕 2
W-166	58	52	1018	7区	古墳	29.9	(11.7)	1.7	1/2欠損・2隅ともに切断される・穿孔痕 2
W-167	58	52	918	7区	古墳	34.5	(17.3)	1.8	1/2欠損・隅丸方形状？・穿孔 2
W-168	58	52	1019	7区	古墳	30.2	(18.2)	2.0	1/4欠損・方形状・円形穿孔 2・円形穿孔痕 2
W-169	59	53	1064	7区	古墳	35.8	(13.3)	2.1	1/2欠損・方形状・楕円形穿孔 2・U字状抉り 2

表 4　木製品一覧表(4)

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-170	59	53	1102	7区	古墳	41.3	25.2	2.2	完形・長方形状・V字状抉り4
W-171	59	53	1112	7区	古墳	37.5	(9.7)	1.0	欠損・長方形状・抉り（穿孔）痕3
W-172	59	53	1113	7区	古墳	(51.6)	(10.9)	1.9	欠損・片側が斜めに切断される・U字状抉り2
W-173	59	53	1052	7区	古墳	38.2	(17.9)	1.1	一部欠損・長方形状・V字状抉り2・抉り痕1
W-174	59	53	1093	7区	古墳	35.0	9.5	1.4	完形・不整台形状・V字状抉り4
W-175	59	53	1030	7区	古墳	50.7	(7.3)	1.1	欠損・長方形状？・抉り痕2
W-176	60	54	1110	7区	古墳	30.6	(6.6)	1.2	欠損・長方形状？・方形穿孔痕2
W-177	60	54	1038	7区	古墳	29.9	(7.0)	1.2	1/2欠損・長方形状？・U字状抉り2
W-178	60	54	1098	7区	古墳	26.5	(6.7)	2.7	1/2欠損・長方形状？・V字状抉り2
W-179	60	54	1020	7区	古墳	31.7	(10.6)	1.9	1/2欠損・長方形状？・V字状抉り2
W-180	60	54	1039	7区	古墳	35.2	(10.7)	2.2	2/3欠損・方形状？・穿孔痕2
W-181	60	54	1107	7区	古墳	50.1	19.9	2.3	ほぼ完形・隅丸長方形状・片側に弓状の抉り有 U字状抉り5
W-195	63	56	1128	7区	弥生	27.6	(18.2)	1.7	1/6欠損・方形状？・楕円形穿孔4・焦痕有
W-196	63	56	1100	7区	弥生	32.3	21.8	2.1	完形・長方形状を呈すが片側隅丸・方形穿孔4・小穿孔1
W-197	63	56	1124	7区	弥生	31.6	(5.7)	1.8	欠損・端が切断される・穿孔痕2
W-198	63	56	1082	7区	弥生	33.4	(11.7)	2.0	1/2欠損・隅丸方形状？・不整形穿孔2
W-199	63	56	1161	7区	弥生	31.7	(11.0)	1.2	1/2欠損・長方形状？・V字状抉り2
W-200	63	56	1126	7区	弥生	47.3	13.1	2.2	完形・長方形状を呈すが片側が丸い・U字状抉り4
W-201	63	57	1010	7区	弥生	31.2	(8.4)	1.4	1/2欠損・長方形状？・円形穿孔2・U字状抉り1
W-202	64	57	1099	7区	弥生	33.0	18.9	1.5	1/4欠損・隅丸方形状？・円形穿孔2・穿孔痕2
W-203	64	57	1091	7区	弥生	(36.3)	7.7	1.2	完形・長方形状・U字状抉り2・抉り途中の凹2

柄・棒状木製品

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-24	36	36	543	1区	古墳	(134.4)	4.2	2.9	欠損・角棒・丁寧な面取り
W-25	36	36	631	1区	古墳	(112.5)	4.1		欠損・端部が面取りされ平坦面有・柄
W-27	36	36	540	1区	古墳	(74.9)	4.3	2.3	欠損・上部に抉り面をもつ角柄
W-29	37	36	704	1区	古墳	(74.2)	3.9		欠損・全面丸く丁寧に加工
W-100	48	45	503	4区	古墳	(101.0)	4.1	3.3	欠損・角棒・丁寧な面取り
W-101	48	—	568	4区	古墳	(100.7)	3.9	3.5	欠損・角棒・丁寧な面取り
W-106	49	45	809	4区	古墳	75.3	2.8	2.6	ほぼ完形・角棒・一部切り傷痕有

杭

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-26	36	36	538	1区	古墳	81.7	6.0	2.1	完形・角杭
W-28	37	—	511	1区	古墳	(76.6)	3.7	1.8	欠損・上部にわずかに切り込み有
W-30	37	36	674	1区	古墳	(61.8)	14.2	4.8	上部欠損・平板杭・削り痕を明瞭に残す
W-99	48	45	890	4区	古墳	56.3	4.4	2.2	完形・角杭・上部に円形穿孔1
W-102	48	45	848	4区	古墳	(95.3)	5.5	5.5	上部欠損・角杭
W-103	48	45	1024	4区	古墳	(101.8)	6.5	5.1	上部欠損・角杭
W-104	48	45	1202	4区	古墳	118.9	9.1	3.5	完形・角杭
W-105	48	45	693	4区	古墳	149.8	10.7	4.8	上部欠損・断面半月状を呈す杭・樹種は広葉樹
W-107	49	45	504	4区	古墳	(76.7)	4.2	3.1	欠損・やや丸みをもつ角杭・刻み目を2つもつ
W-108	49	45	500	4区	古墳	77.8	4.4	2.5	完形・やや丸みをもつ角杭・上端に抉り有
W-109	49	45	728	4区	古墳	(75.3)	2.6	2.3	上部欠損・角杭
W-110	49	45	709	4区	古墳	(76.7)	4.3	4.2	欠損・やや丸みをもつ角杭

表 5　木製品一覧表(5)

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備考
W-111	49	45	889	4区	古墳	(88.5)	9.3	5.1	上部欠損・角杭・削り痕明瞭
W-112	49	45	988	4区	古墳	86.8	8.8	5.2	完形・角杭・上部に段をもつ・切り傷痕多
W-139	53	49	815	4区	古墳	(72.2)	2.5	2.9	ほぼ完形・角杭
W-140	53	49	990	4区	古墳	(67.2)	5.4	3.3	先端部欠損・角杭
W-190	62	55	1080	7区	古墳	69.0	13.6	4.4	完形・平板杭・上部に段をもつ・焼痕有
W-192	62	55	1029	7区	古墳	(118.9)	9.1	3.5	完形・角杭
W-193	62	55	1051	7区	古墳	(119.0)	6.4	5.2	欠損・角杭・中程にV字状の抉り有

建築部材・梯子

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備考
W-31	37	36	513	1区	古墳	(166.0)	10.2	3.3	トヨ・一部欠損・丸太材を抉りU字状に加工 底面中央に窪み有
W-116	50	46	710	4区	古墳	53.6	21.7	—	柱？・欠損・丁寧な面取り・方形穿孔痕1
W-194	62	55	1047	7区	古墳	31.4	16.4	—	柱・欠損・先端が突る・丸木をそのまま使用？
W-113	50	46	1196	4区	古墳	(92.9)	9.9	4.6	部材・欠損・丸太材をV字状に抉る・片隅がやや突る 方形穿孔2
W-189	62	55	1027	7区	古墳	61.2	(12.6)	2.2	部材・欠損・方形穿孔2・長方形穿孔1・片側に凹部2
W-114	50	46	974	4区	古墳	132.5	15.7	5.5	梯子・完形・30cm間隔に4段・下端に長方形穿孔2 長方形状抉り1
W-115	50	46	703	4区	古墳	225.0	17.5	3.5	梯子・ほぼ完形・33cm間隔に6段・足掛部かなり欠損

大型板状木製品

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備考
W-15	35	35	629	1区	古墳	(59.2)	11.4	1.9	欠損・楕円形穿孔痕1
W-17	35	35	510	1区	古墳	(105.6)	10.7	3.1	欠損・長方形穿孔2
W-18	35	35	541	1区	古墳	(84.2)	13.3	1.9	欠損・長方形穿孔3・穿孔痕1
W-19	35	35	458	1区	古墳	(96.3)	18.0	2.6	欠損・抉り痕1
W-20	35	35	459	1区	古墳	(84.0)	7.4	2.1	欠損・U字状抉り痕1
W-21	36	35	512	1区	古墳	100.3	(19.1)	4.8	欠損・貫通しない楕円形凹1
W-22	36	36	557	1区	古墳	(201.3)	16.4	2.6	欠損・片端に円形穿孔1
W-23	36	36	518	1区	古墳	134.5	16.0	2.3	完形・片側面に15箇所刻み有
W-92	47	44	884	4区	古墳	104.2	(10.5)	1.3	欠損・円形穿孔2
W-93	47	44	882	4区	古墳	100.7	9.3	1.3	欠損・円形穿孔2・穿孔間がやや窪む
W-94	47	45	557	4区	古墳	198.0	18.5	2.0	ほぼ完形・U字状抉り1
W-95	47	45	1028	4区	古墳	(166.1)	23.2	4.2	欠損・長方形穿孔1
W-97	48	45	571	4区	古墳	(114.2)	11.8	3.1	欠損
W-98	48	—	768	4区	古墳	102.3	11.7	1.4	完形・円形穿孔1

矢板・用途不明小型板状木製品

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備考
W-84	45	43	705	4区	古墳	29.4	13.8	1.4	矢板・ほぼ完形・舌状形・中央に円形穿孔2・焦痕有
W-86	46	44	594	4区	古墳	(33.2)	(8.3)	1.1	矢板・欠損・舌状形？・先端が突る
W-87	46	44	760	4区	古墳	(35.0)	(6.6)	0.7	矢板・1/2欠損・舌状形を呈すが先端が突る・円形穿孔1
W-96	47	45	880	4区	古墳	81.6	(7.8)	1.8	矢板・欠損・先端がやや突る・円形穿孔1
W-161	57	51	912	4区	弥生	55.1	12.2	1.5	矢板・欠損・細長い舌状形・円形穿孔痕1
W-184	61	55	1094	7区	古墳	44.0	9.6	1.0	矢板・完形・円形穿孔1
W-185	61	54	1087	7区	古墳	(33.4)	(4.9)	0.8	矢板・欠損・舌状形？・円形穿孔1
W-14	35	35	633	1区	古墳	29.3	12.9	1.9	一部欠損・片側に弓状の大きな抉り・楕円形穿孔1

表 6　木製品一覧表(6)

番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-42	39	38	857	1区	弥生	29.6	19.5	1.0	長方形・円形穿孔2・丁寧な面取り
W-43	39	38	673	1区	弥生	33.9	(7.3)	1.7	欠損・丁寧な面取り
W-80	45	43	499	4区	古墳	62.4	16.4	1.9	完形・長方形状・U字状の抉り2
W-81	45	43	976	4区	古墳	(35.2)	(6.7)	1.3	欠損・長方形穿孔2
W-82	45	43	817	4区	古墳	(43.4)	6.1	1.6	欠損・楕円形穿孔1
W-83	45	43	460	4区	古墳	40.0	(10.6)	1.3	欠損・円形穿孔1
W-85	46	44	881	4区	古墳	(44.8)	9.6	1.2	欠損・先が突る・不整形穿孔2・小円形穿孔9
W-88	46	44	759	4区	古墳	(28.6)	10.2	1.2	欠損・鳥形を呈す・丁寧な面取り
W-89	46	44	498	4区	古墳	67.2	21.2	2.4	完形・長方形状・中央に長方形穿孔1・片側に方形穿孔1
W-90	46	44	465	4区	古墳	(22.8)	(6.5)	1.0	1/4欠損・中央に円形穿孔1・穿孔内に細木材をつめる
W-91	47	44	973	4区	古墳	(80.2)	(23.3)	3.4	完形・片側が丸みをもつ長方形状・中央に楕円形大穿孔1
W-134	53	48	822	4区	古墳	19.9	13.0	0.9	完形・円形穿孔3・丁寧な面取り
W-135	53	49	760	4区	古墳	24.9	8.5	1.0	ほぼ完形・円形穿孔7・丁寧な面取り
W-136	53	49	840	4区	古墳	(23.7)	8.3	0.9	欠損・長方形穿孔1
W-137	53	49	782	4区	古墳	(34.1)	8.3	1.5	欠損・長方形穿孔痕1
W-138	53	49	843	4区	古墳	(45.5)	(8.3)	1.6	欠損・長方形穿孔痕1
W-154	56	50	1156	5区	古墳	87.0	(10.6)	1.7	欠損・片側を弓状に抉る
W-182	60	54	1070	7区	古墳	36.0	13.4	1.8	一部欠損・不整隅丸長方形状・片側に弓状の抉り
W-183	61	55	1022	7区	古墳	35.1	17.4	0.8	ほぼ完形・舌状形・円形穿孔3・穿孔痕1・丁寧な面取り
W-187	61	55	915	7区	古墳	49.4	12.7	1.7	完形・長方形状・長方形穿孔6 穿孔内には薄板材がつめられる・切り傷痕
W-191	62	55	1056	7区	古墳	(86.2)	16.7	2.1	欠損・長方形穿孔2・長方形穿孔痕1・U字状抉り痕2
W-204	64	57	1089	7区	弥生	(34.6)	(5.2)	1.0	欠損・U字状抉り痕1
W-212	65	—	133	1区	中世	(11.5)	(2.9)	0.3	欠損・短辺方向、斜め方向に多数刻み目をもつ
W-213	65	57	396	1区	中世	(18.1)	(4.0)	0.6	欠損・円形？

箸

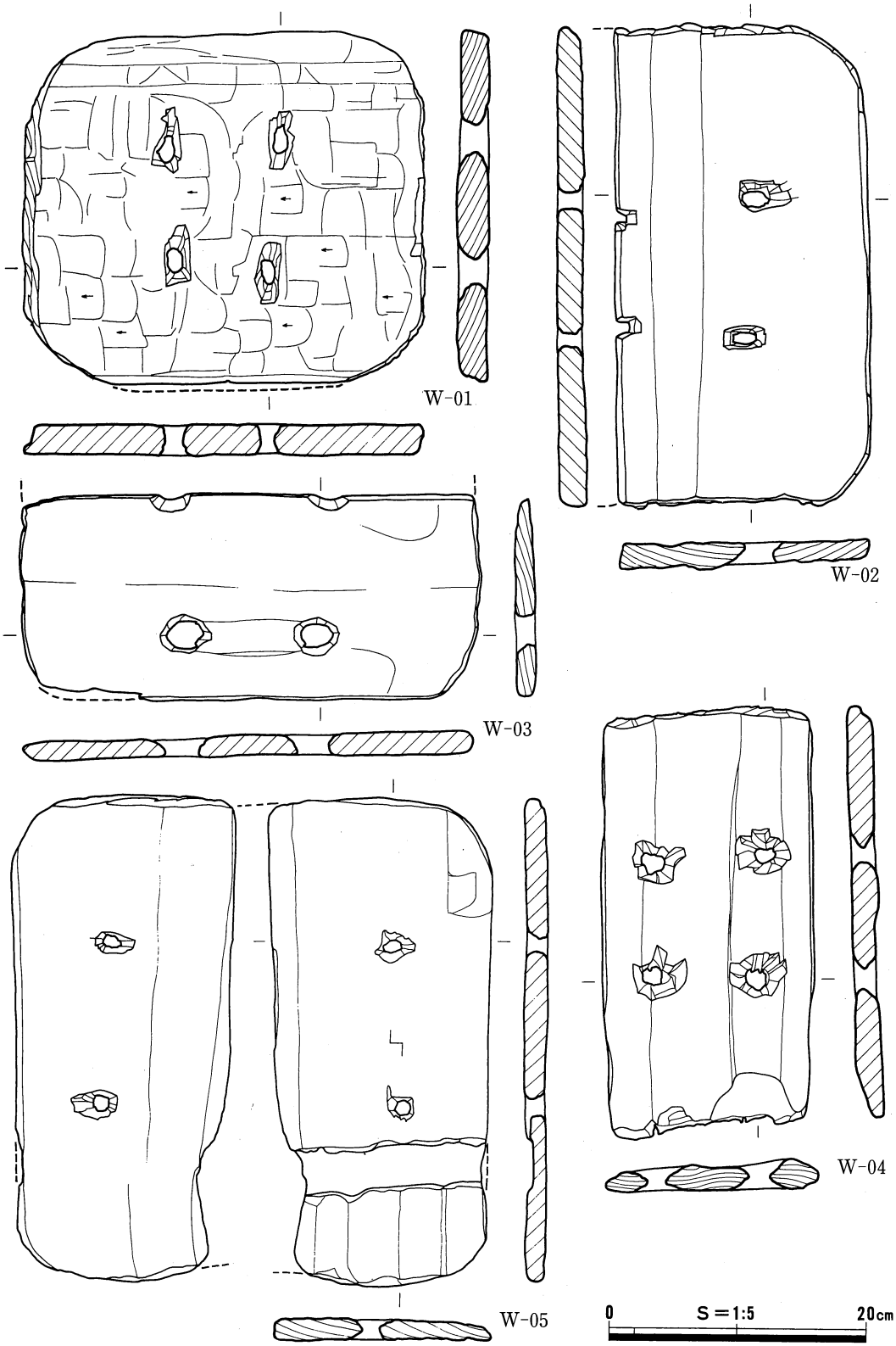
番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-205	65	57	365	1区	中世	(22.6)	0.4		ほぼ完形・丸箸
W-206	65	57	261	1区	中世	(12.7)	0.8		欠損・丸箸
W-207	65	57	348	1区	中世	(14.4)	0.7		欠損・丸箸
W-208	65	57	131	1区	中世	(17.8)	0.7		欠損・丸箸
W-209	65	57	77	4区	中世	(14.8)	0.7		欠損・丸箸
W-210	65	57	236	4区	中世	(13.7)	0.7		欠損・丸箸
W-211	65	57	218	4区	中世	(12.7)	0.9	0.5	欠損・やや角張っている

漆　器

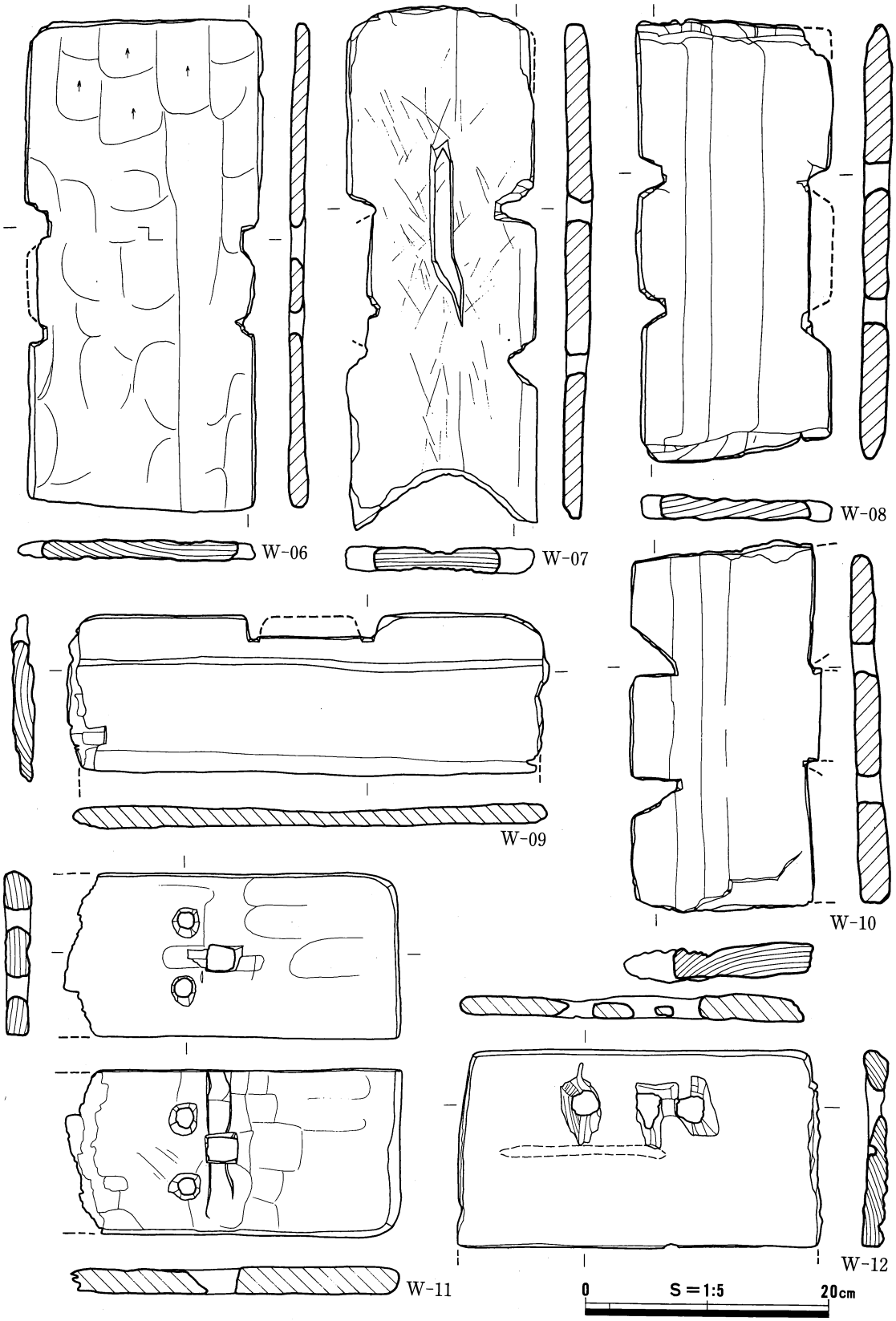
番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大径(cm) ( )は残存値	最大残存高 ( )は残存値	備　　考
W-214	65	57	65	1区	中世	8.6	(2.0)	欠損・椀の高台・植物の文様を描く
W-215	65	57	10	1区	中世	13.5	(5.5)	欠損・椀の口縁部・文様がわずかに残る

そ の 他

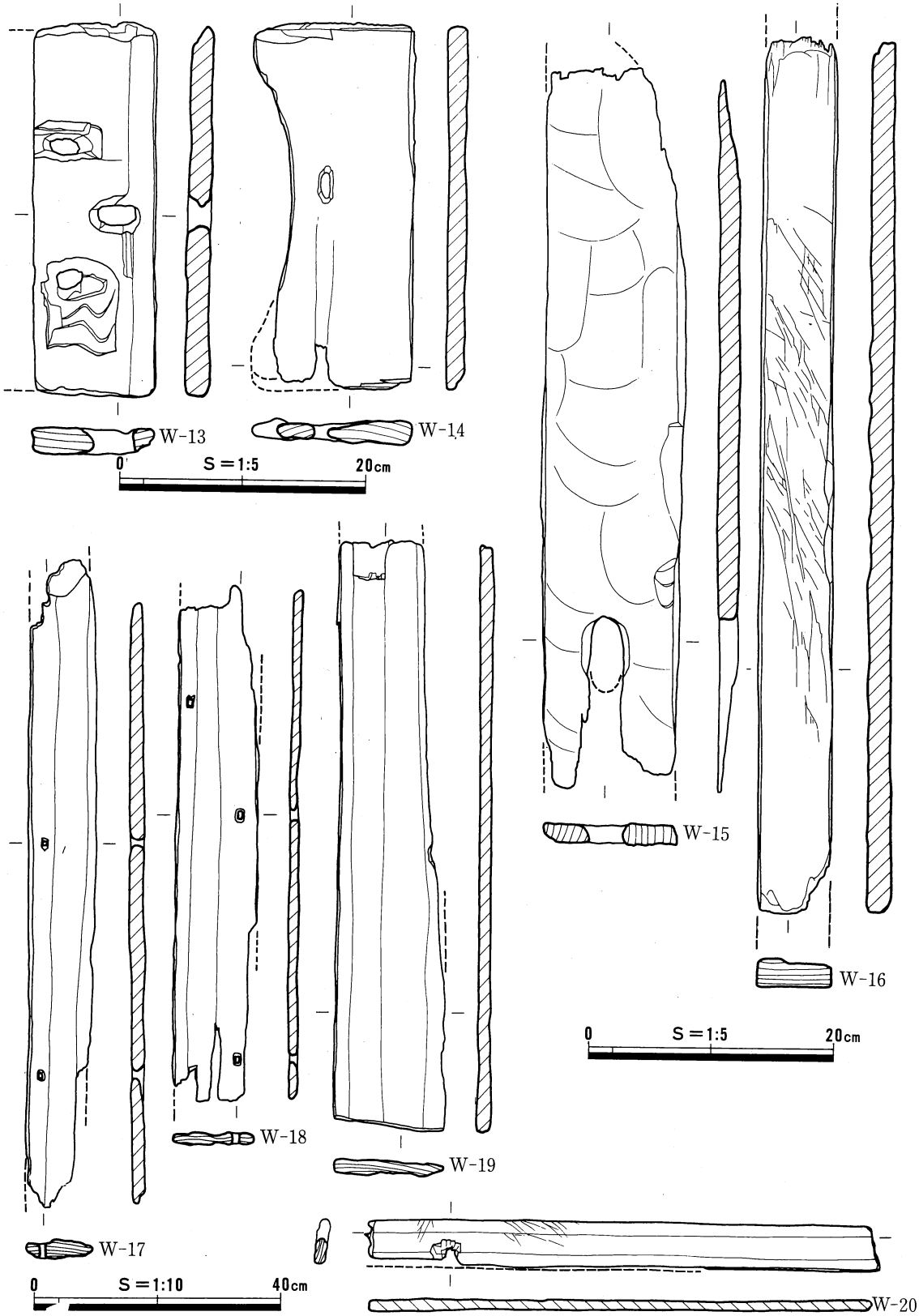
番号	挿図	図版	遺物番号	地区	時期	最大長(cm) ( )は残存値	最大幅(cm) ( )は残存値	最大厚(cm) ( )は残存値	備　　考
W-16	35	35	643	1区	古墳	(71.5)	5.9	2.4	欠損・厚板材・切り傷痕多・作業台として使用？
W-32	37	36	653	1区	古墳	(22.5)	1.1	1.0	欠損・角棒・屈曲部をもつ
W-186	61	—	1050	7区	古墳	31.9	3.8	1.5	ほぼ完形・凸部をもつ
W-188	61	55	1013	7区	古墳	65.7	9.0	3.7	欠損・人形？・抉りがあり、有頭状・頭部に面取り



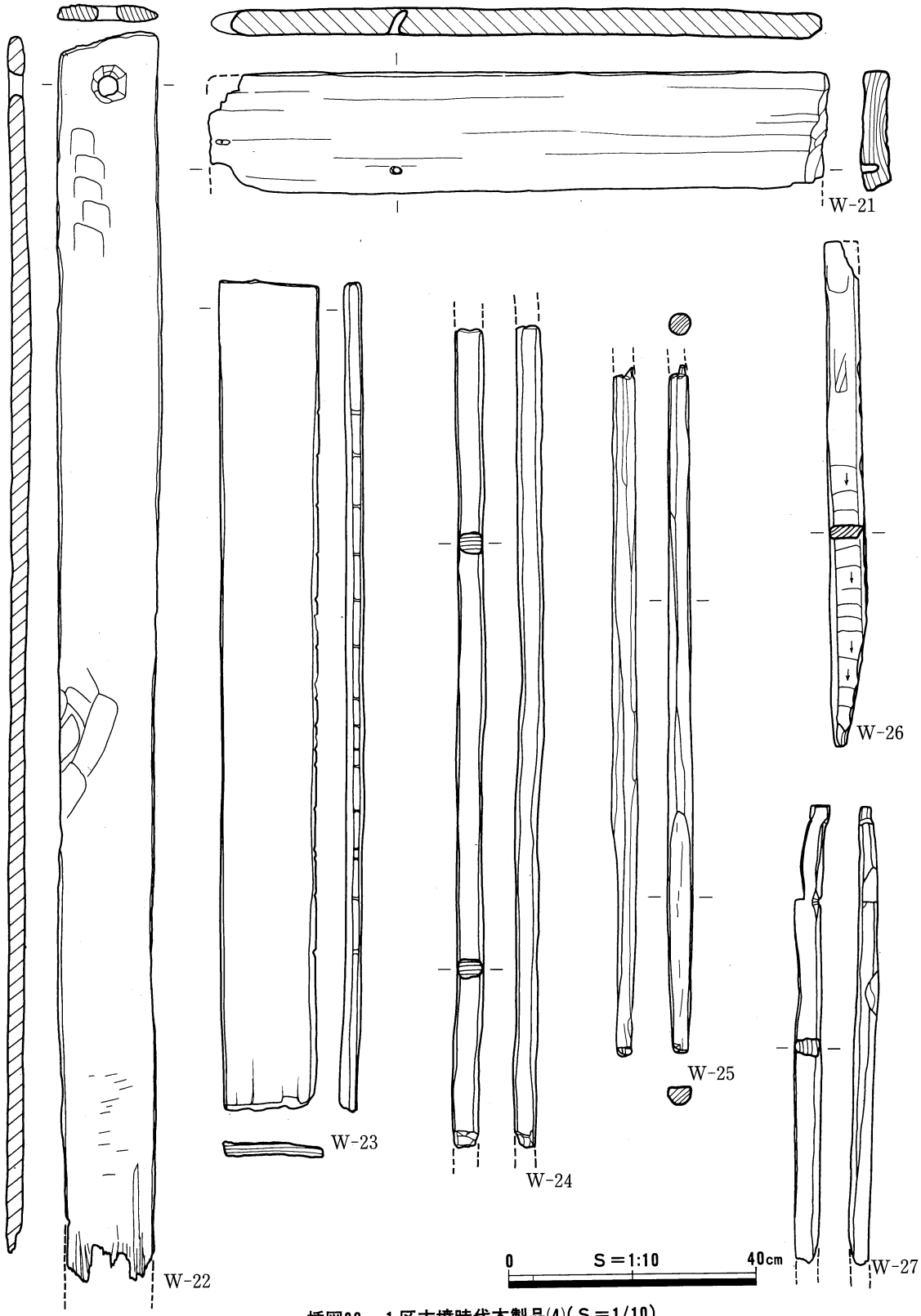
挿図33　1区古墳時代木製品(1)(S＝1/5)



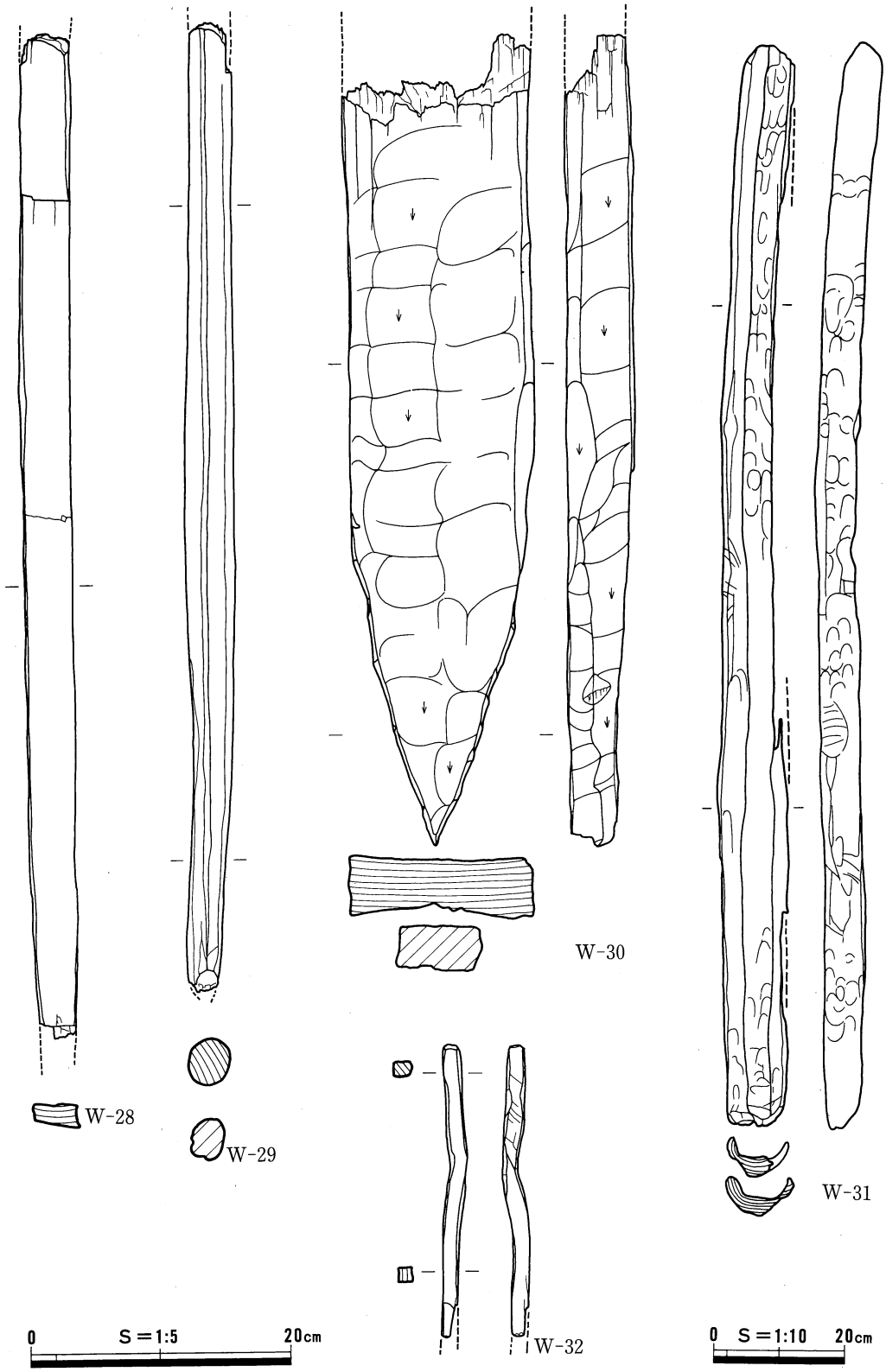
挿図34　1区古墳時代木製品(2)(S＝1/5)



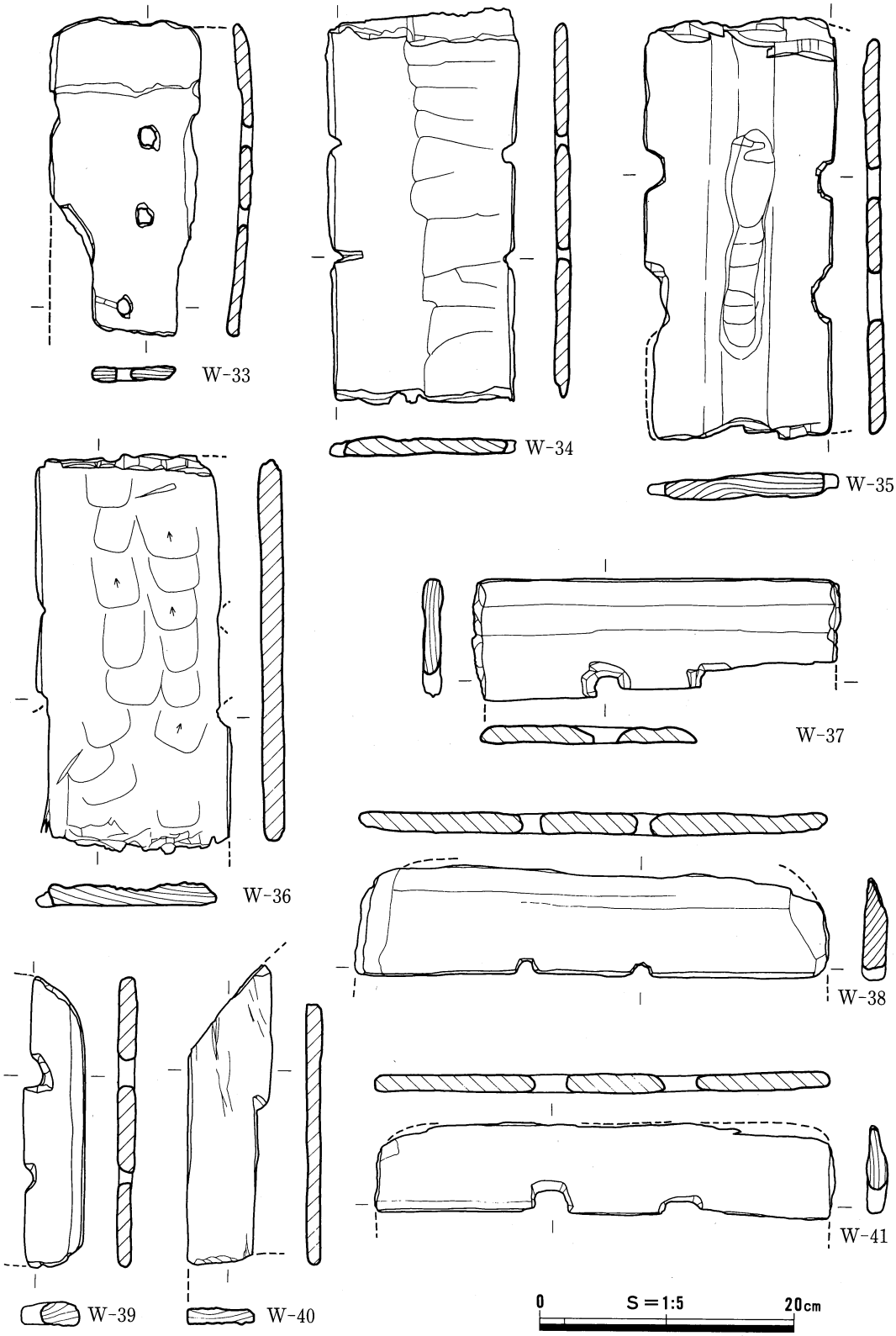
挿図35　1区古墳時代木製品(3)(S＝1/5・1/10)



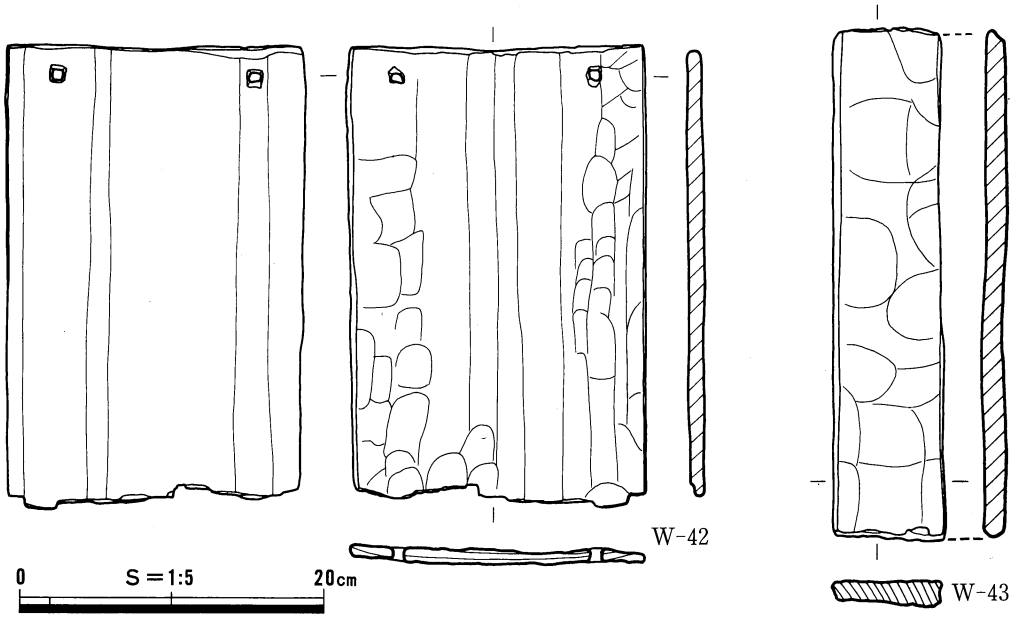
挿図36　1区古墳時代木製品(4)(S＝1/10)



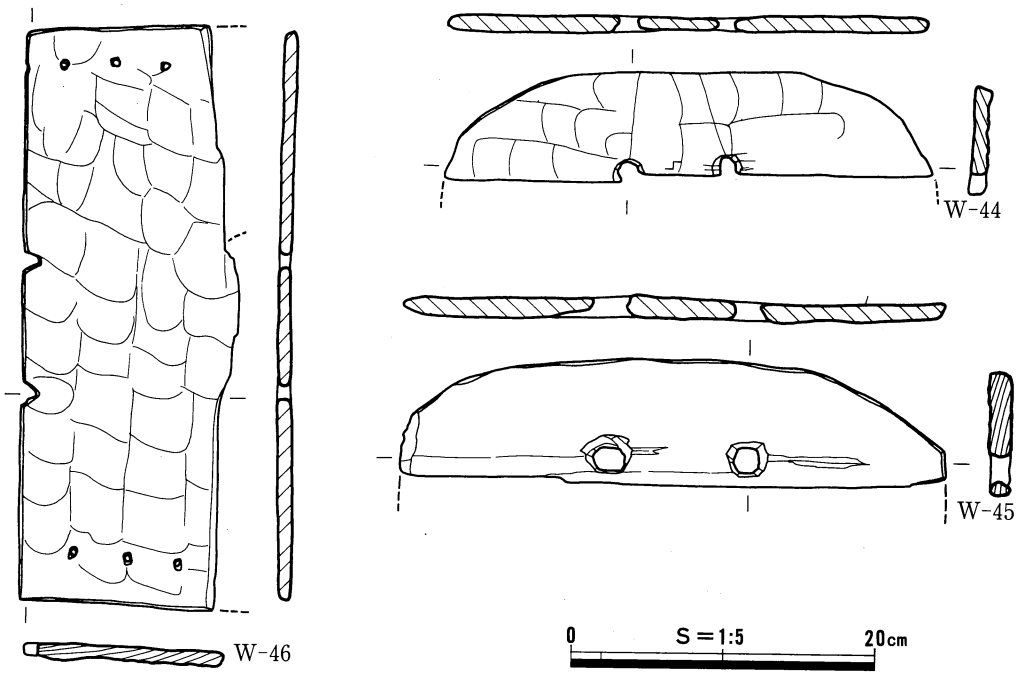
挿図37　1区古墳時代木製品(5)(S＝1/5・1/10)



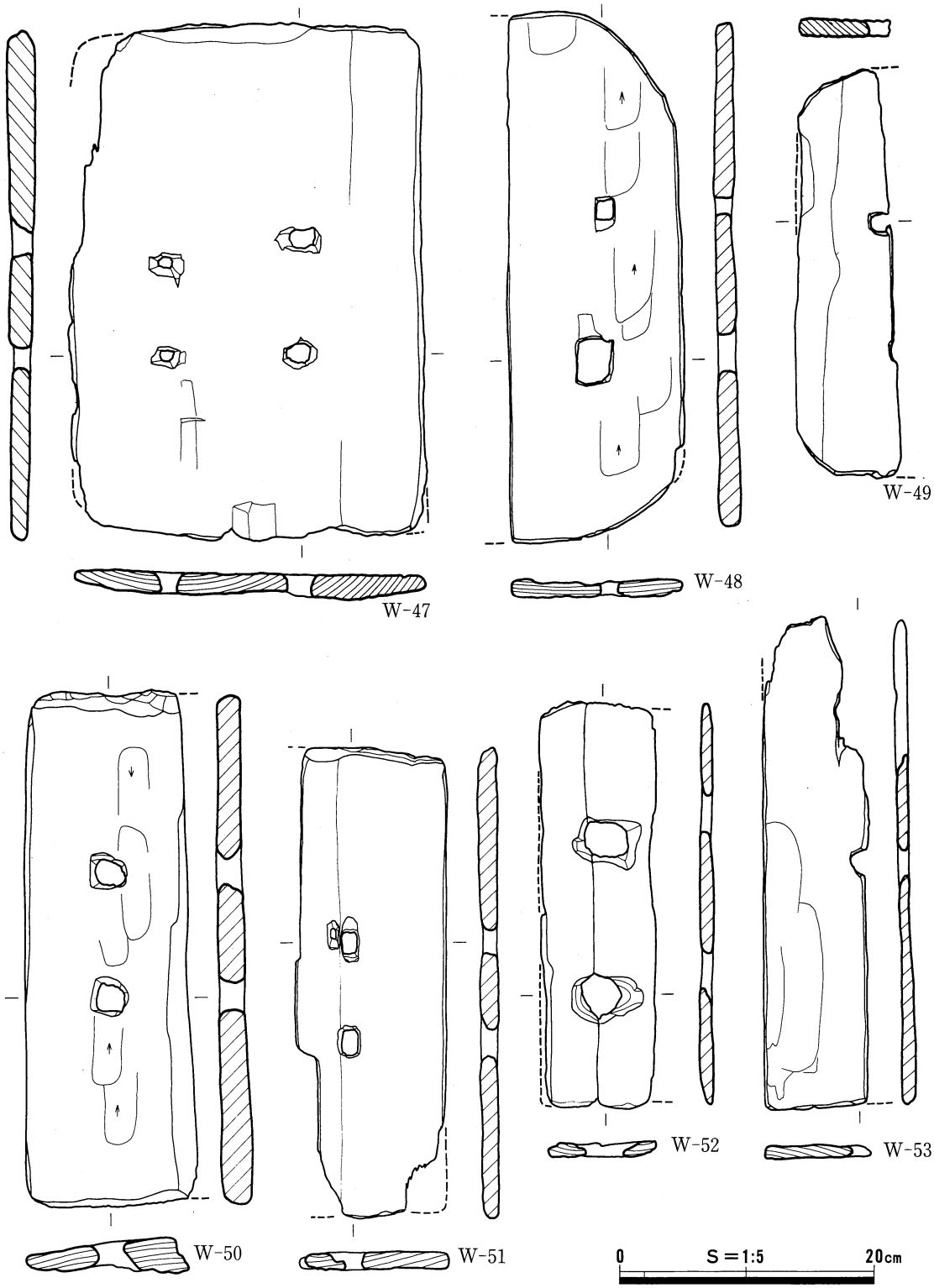
挿図38　1区弥生時代木製品(1)(S＝1/5)



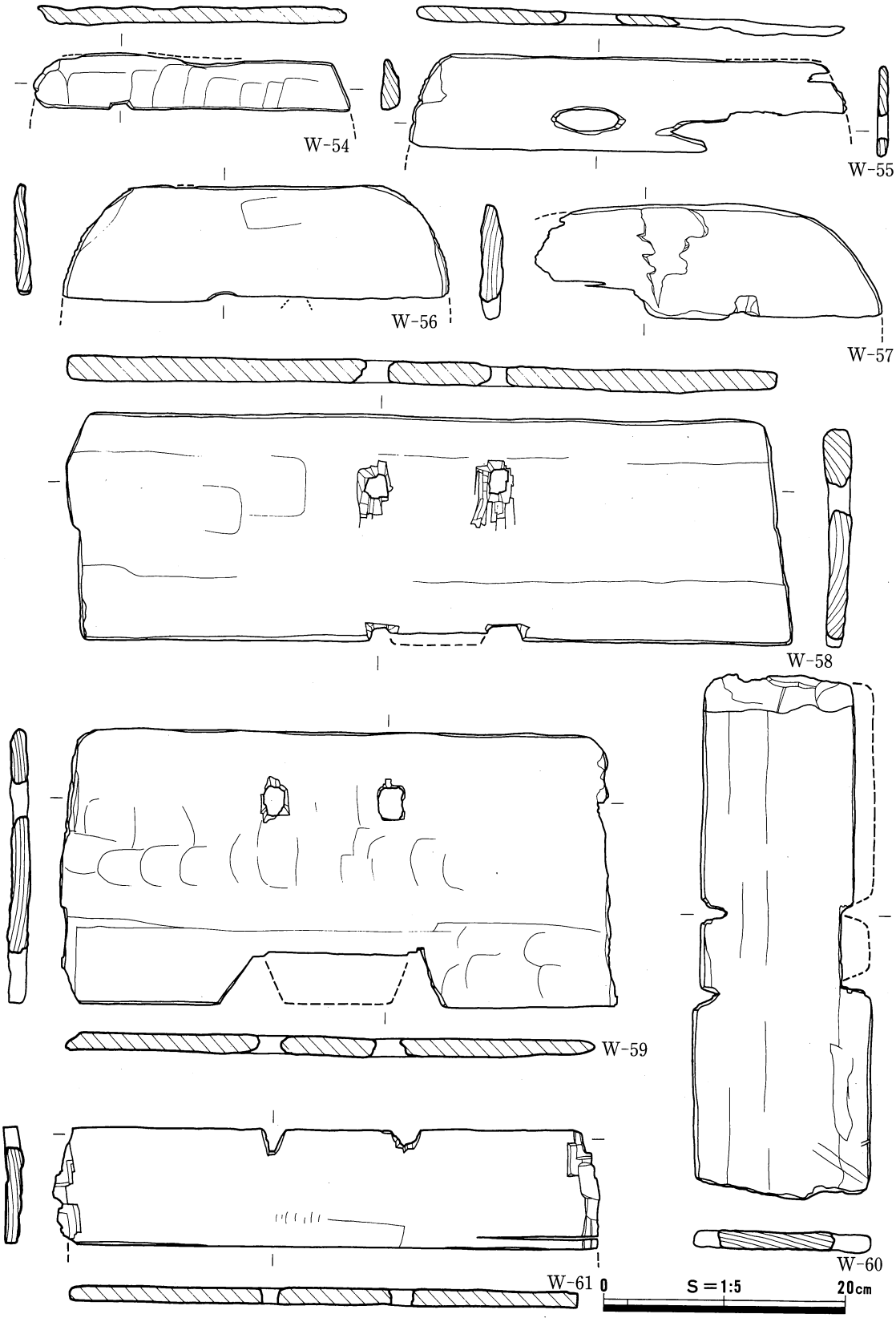
挿図39　1区弥生時代木製品(2)(S＝1/5)



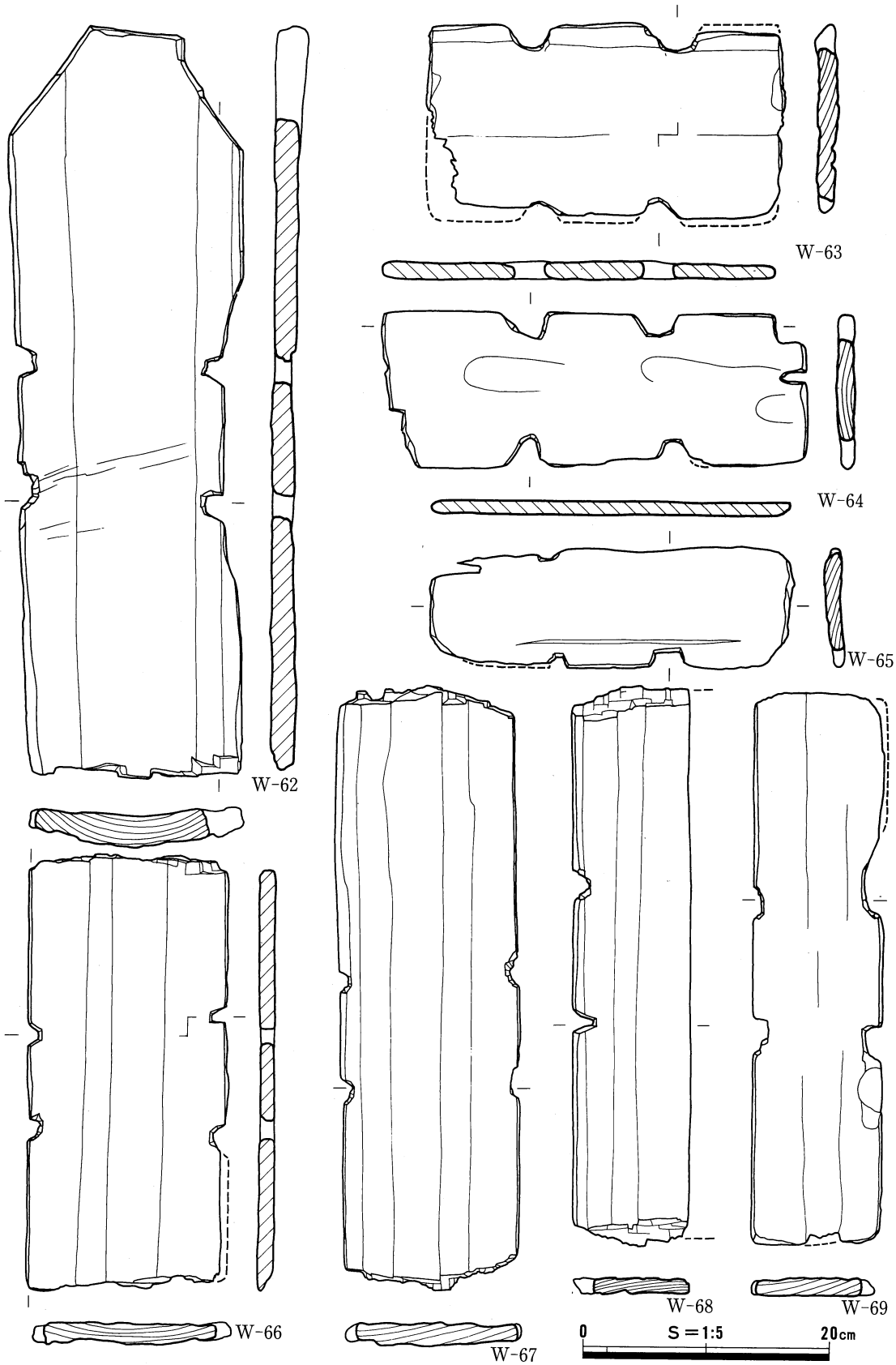
挿図40　2区古墳時代・弥生時代木製品(S＝1/5)



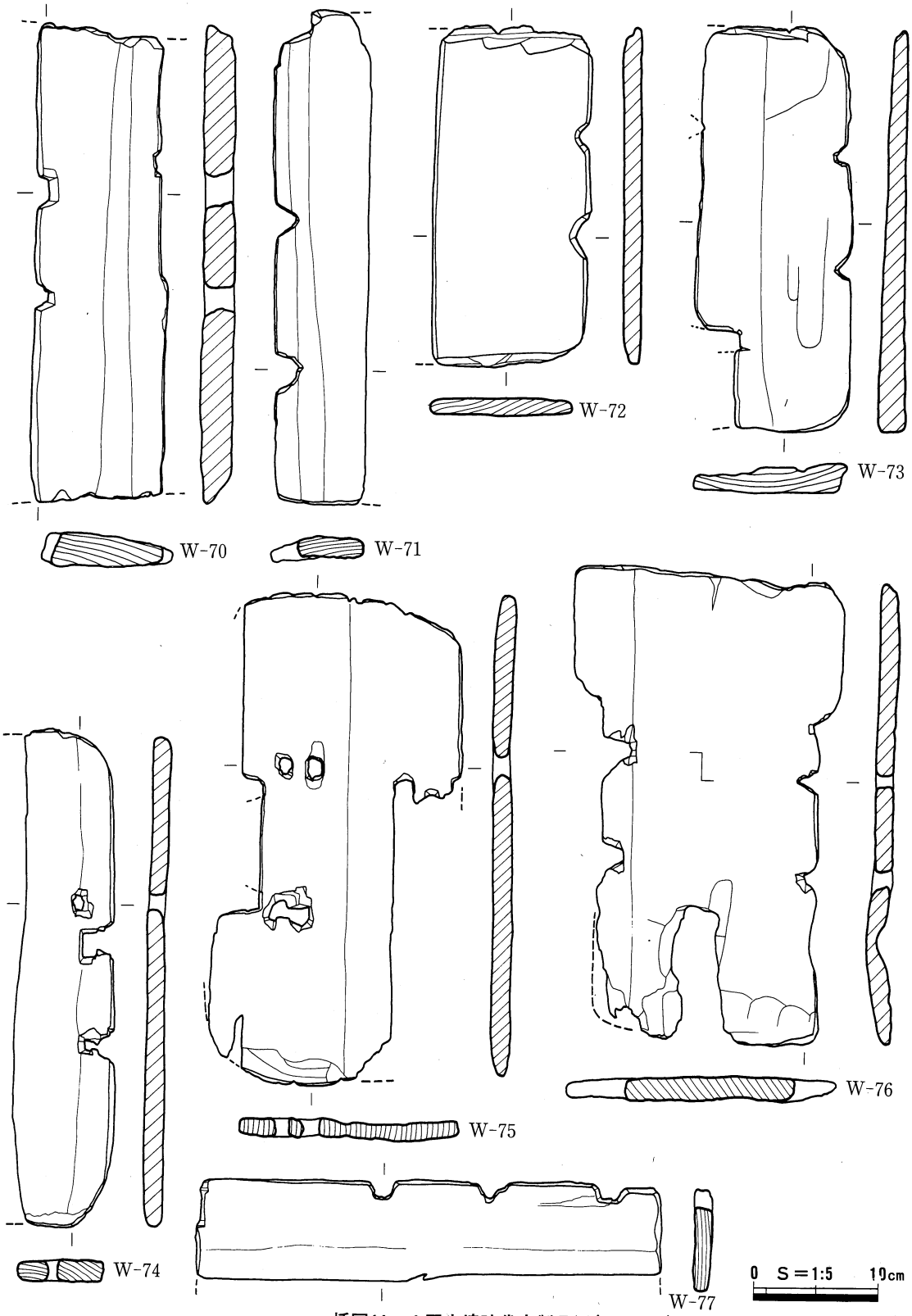
挿図41　4区古墳時代木製品(1)(S＝1/5)



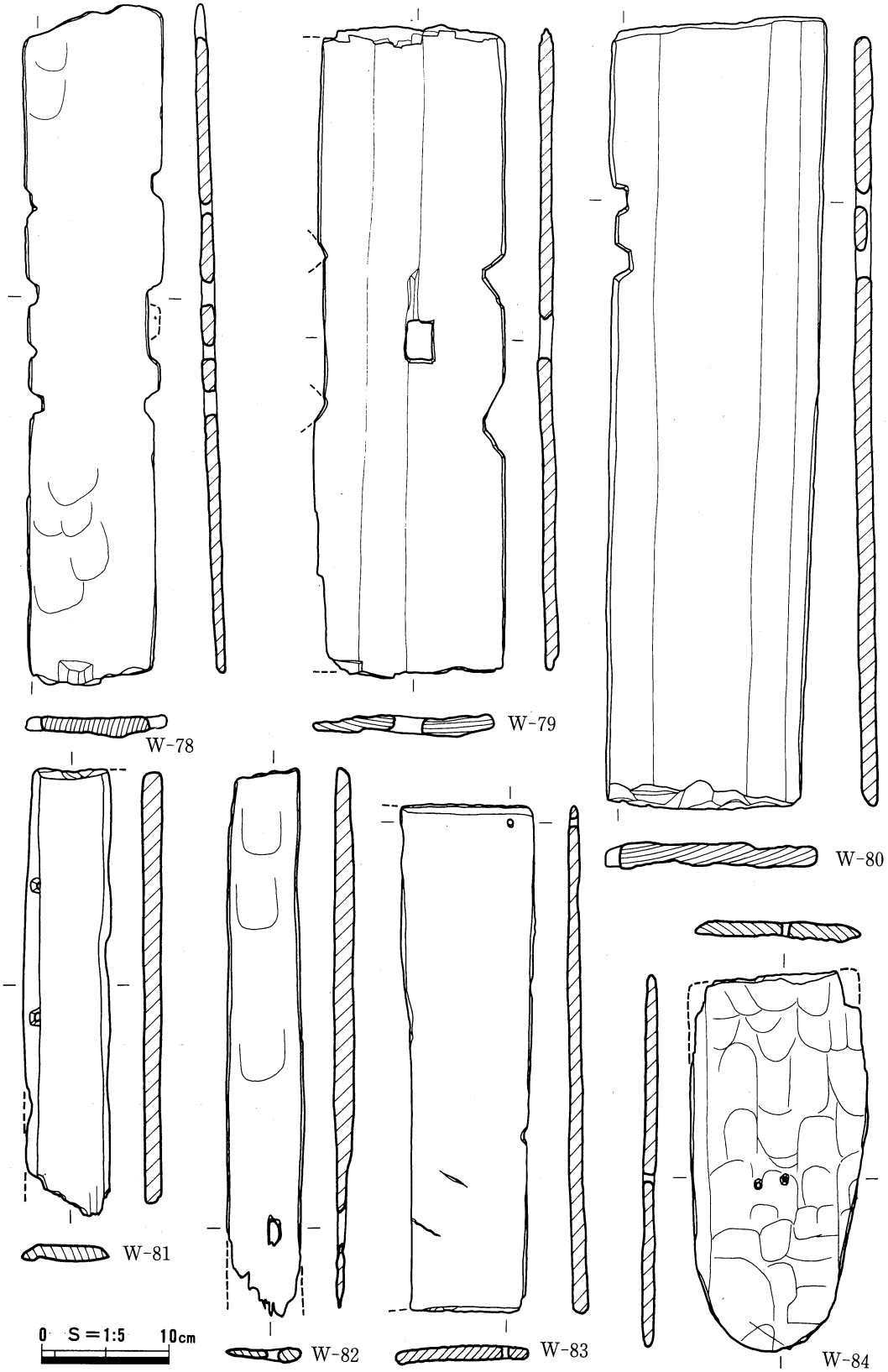
挿図42　4区古墳時代木製品(2)(S＝1/5)



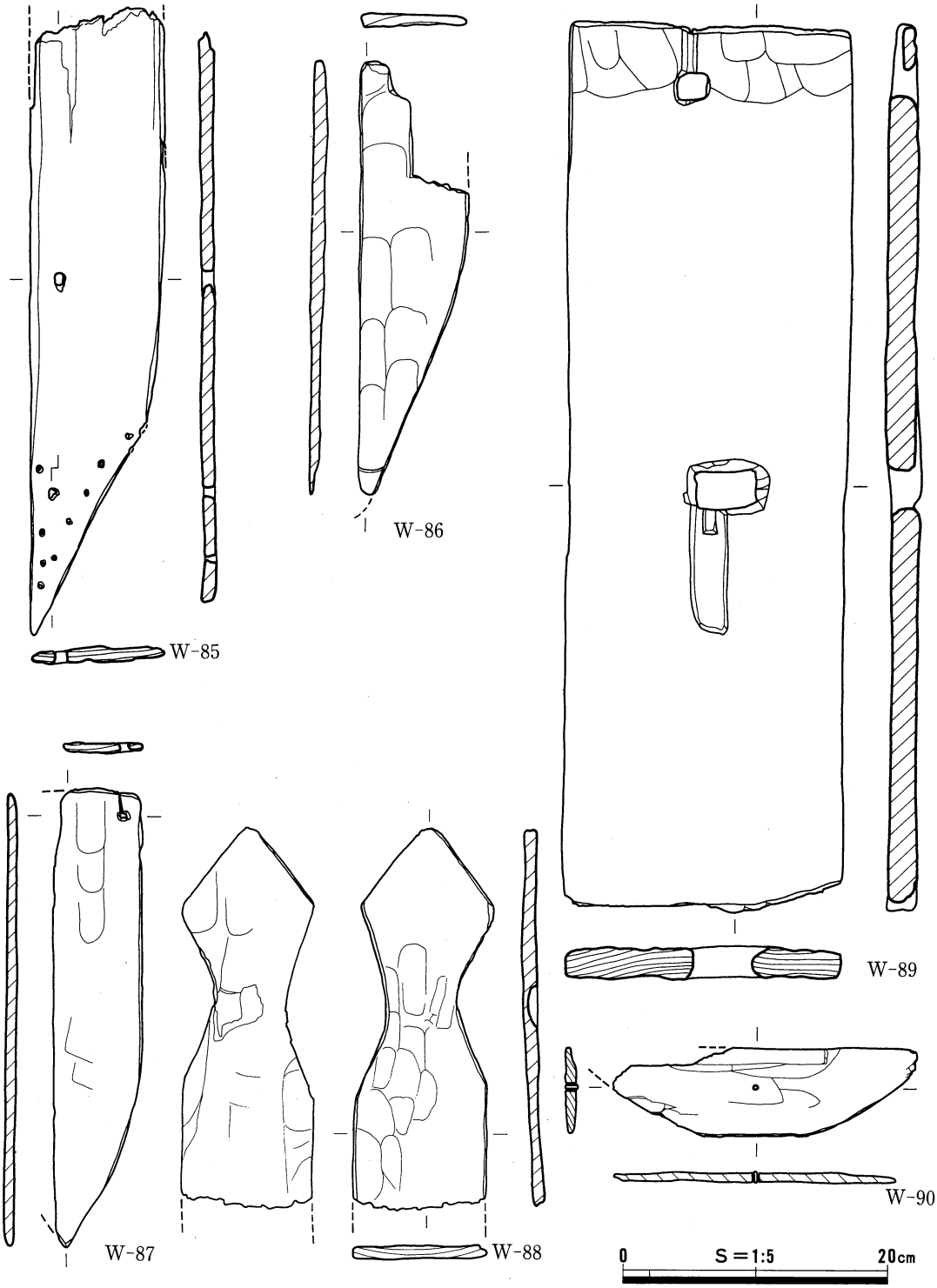
挿図43　4区古墳時代木製品(3)(S＝1/5)



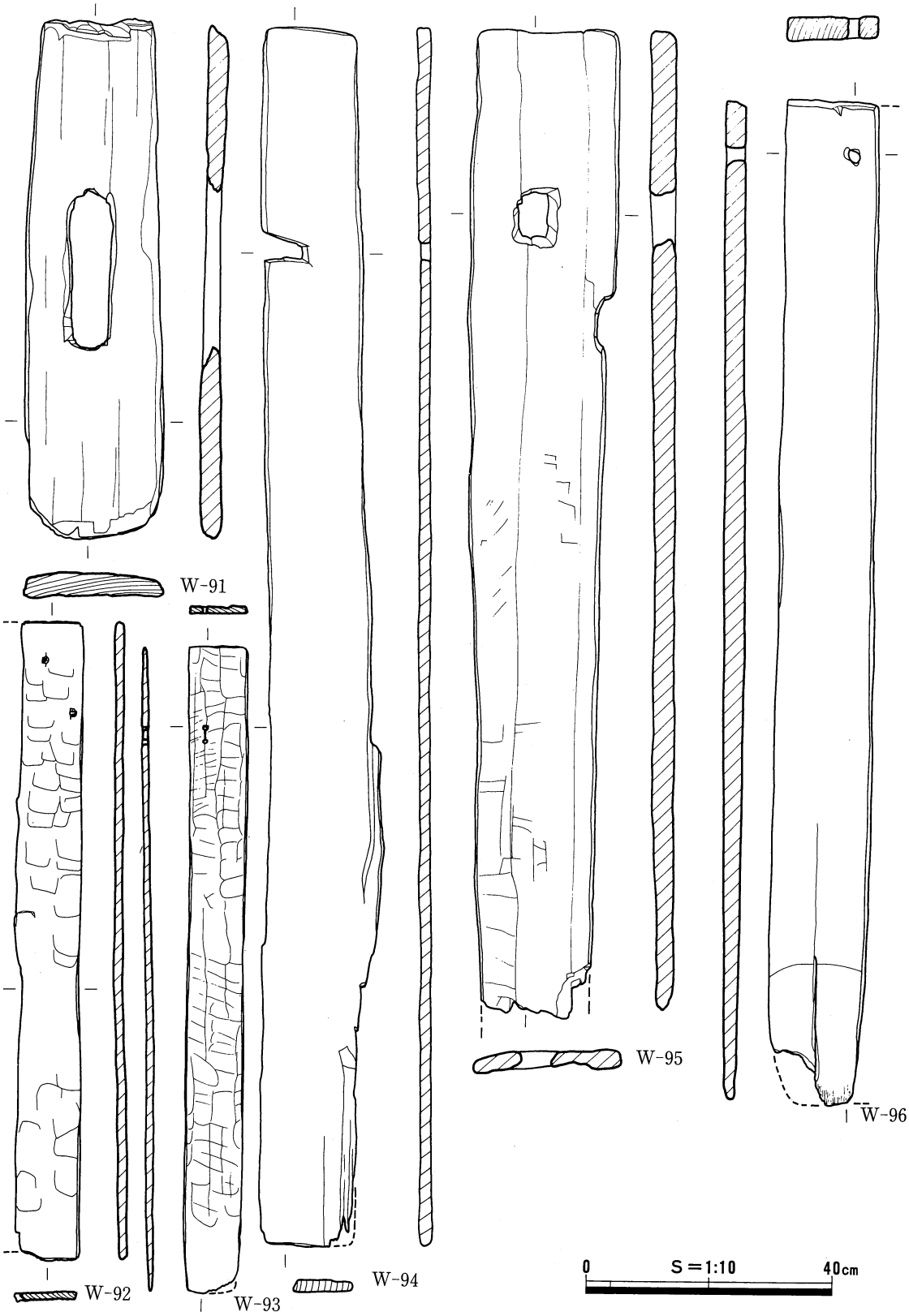
挿図44　4区古墳時代木製品(4)(S＝1/5)



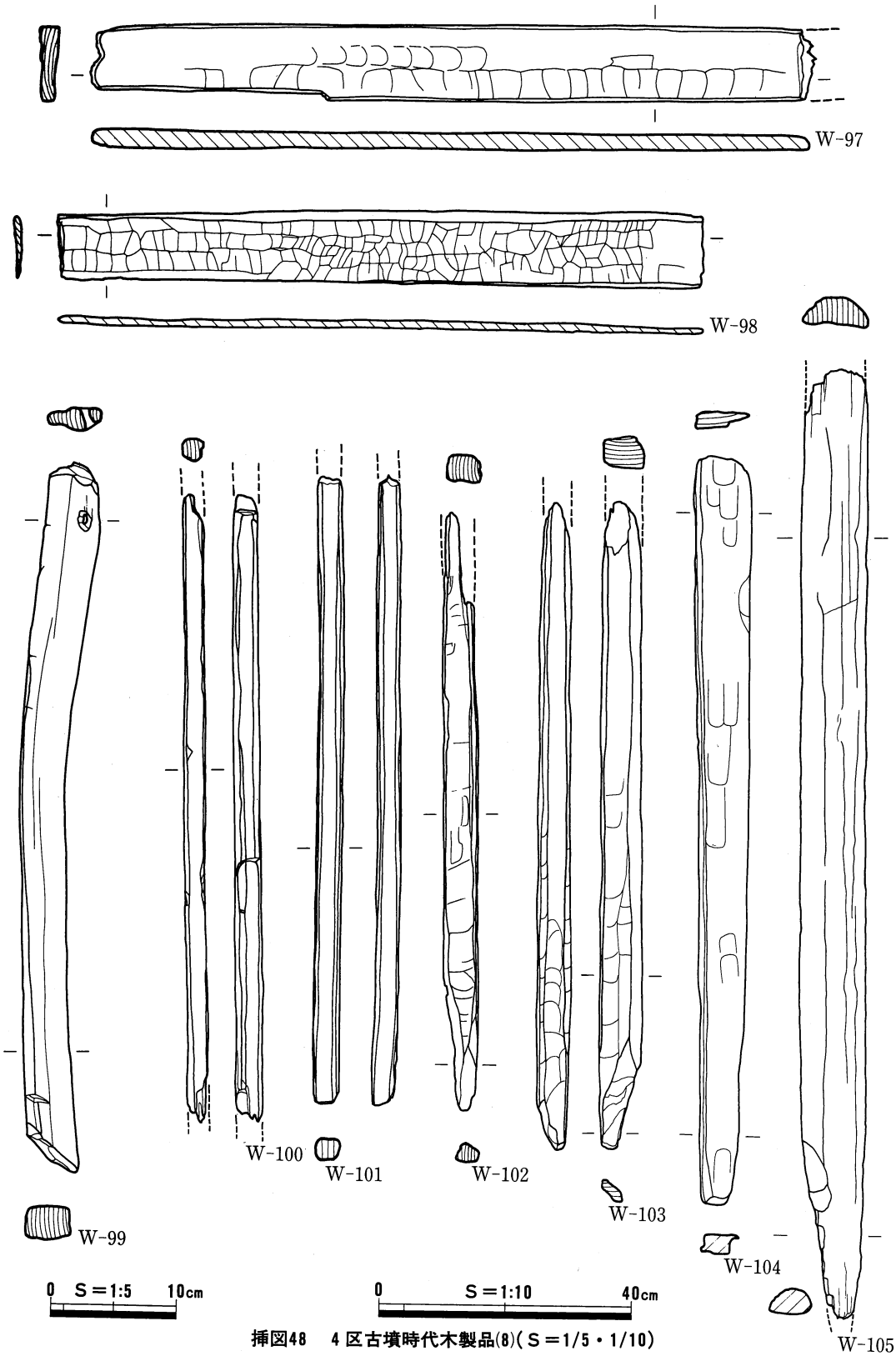
挿図45　4区古墳時代木製品(5)(S＝1/5)



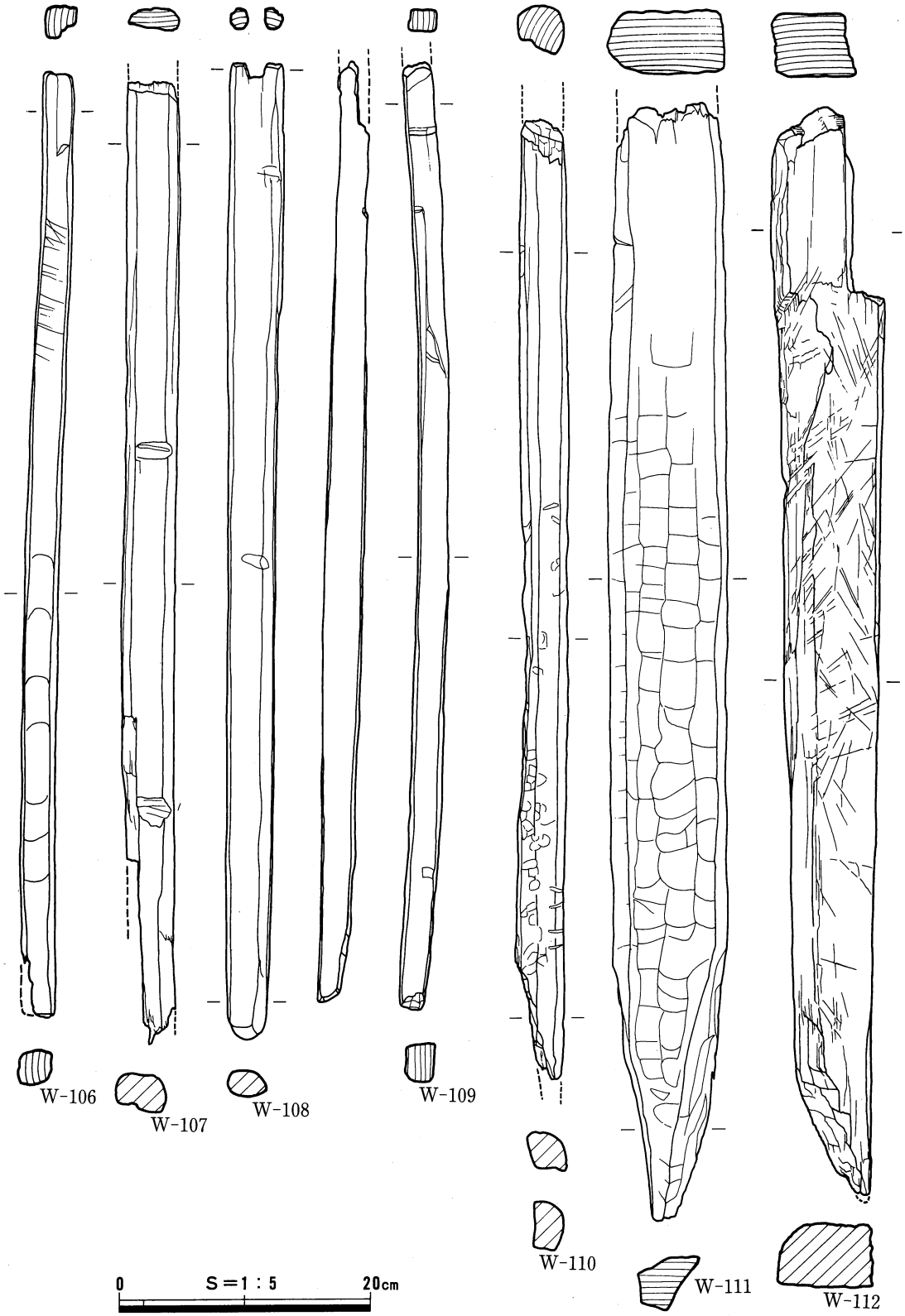
挿図46　4区古墳時代木製品(6)(S＝1/5)



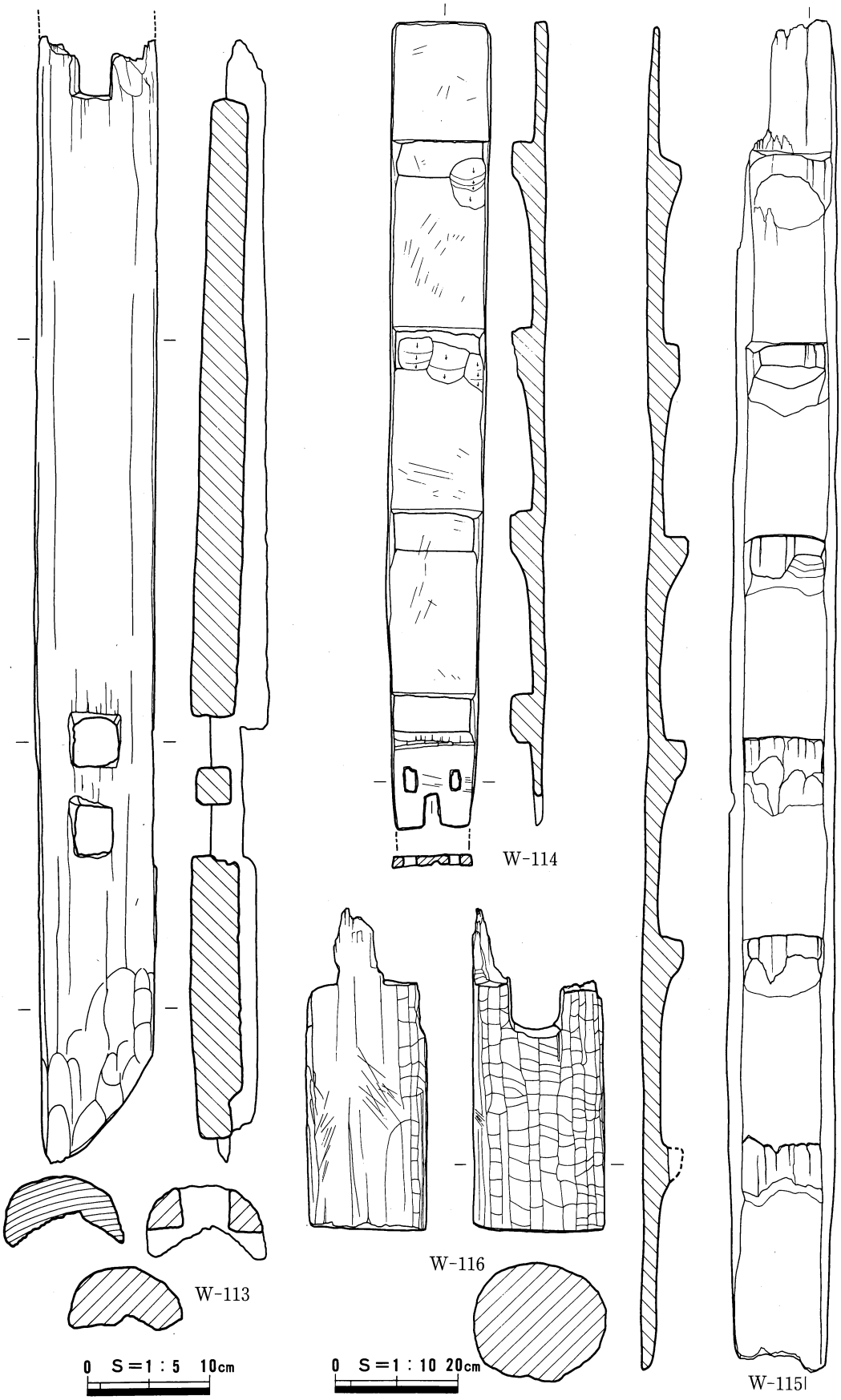
挿図47　4区古墳時代木製品(7)(S＝1/10)



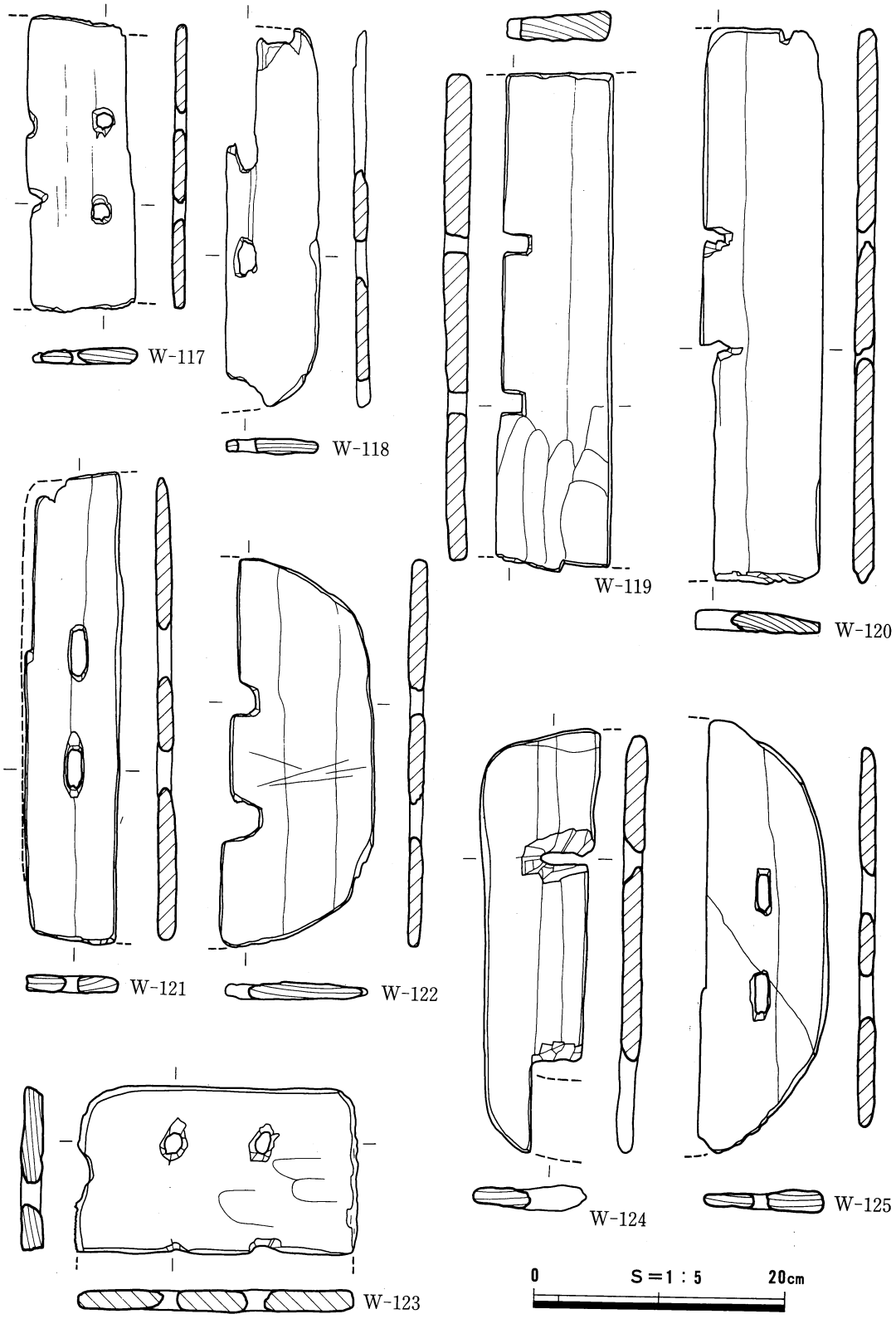
挿図48　4区古墳時代木製品(8)(S＝1/5・1/10)



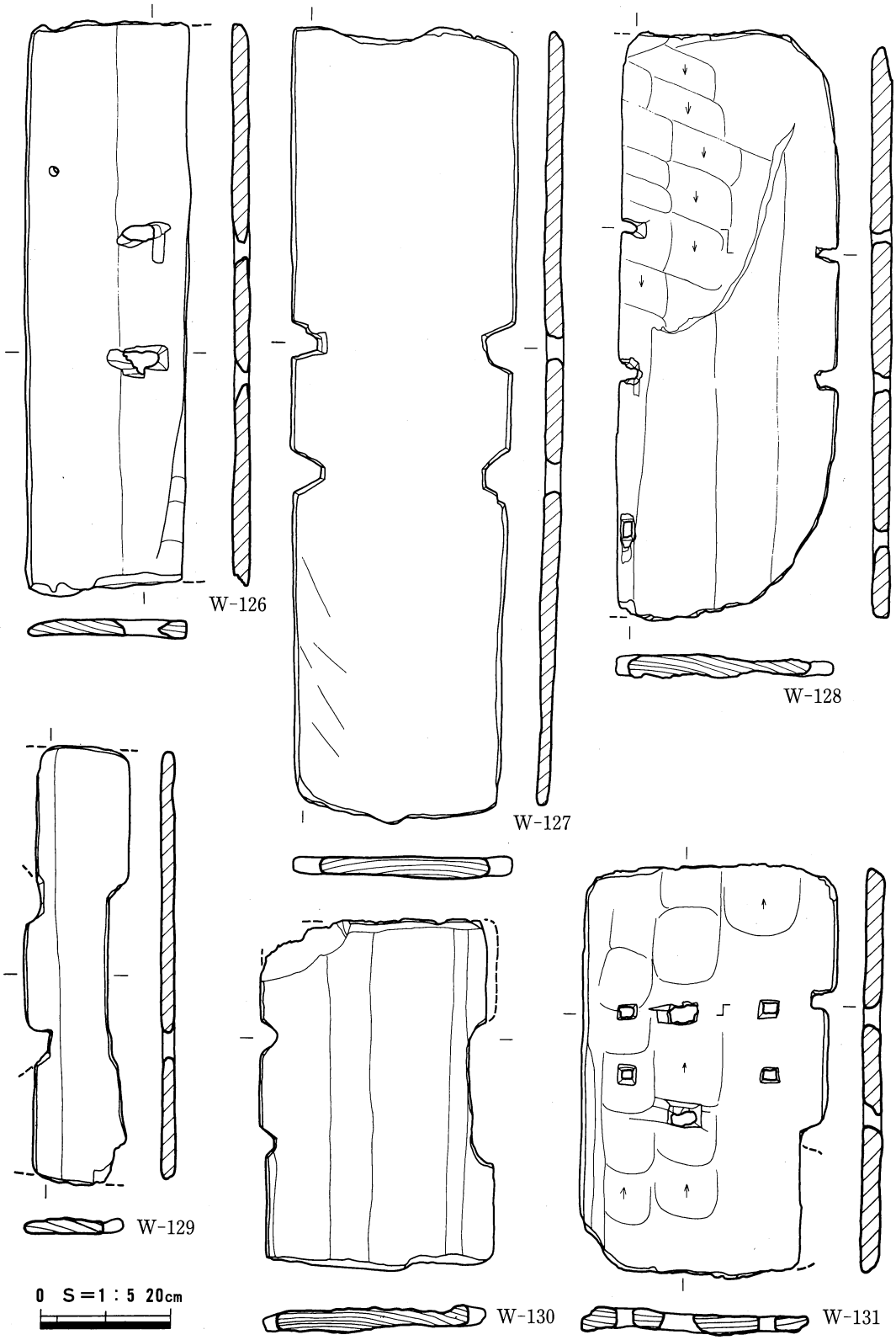
挿図49　4区古墳時代木製品(9)(S＝1/5)



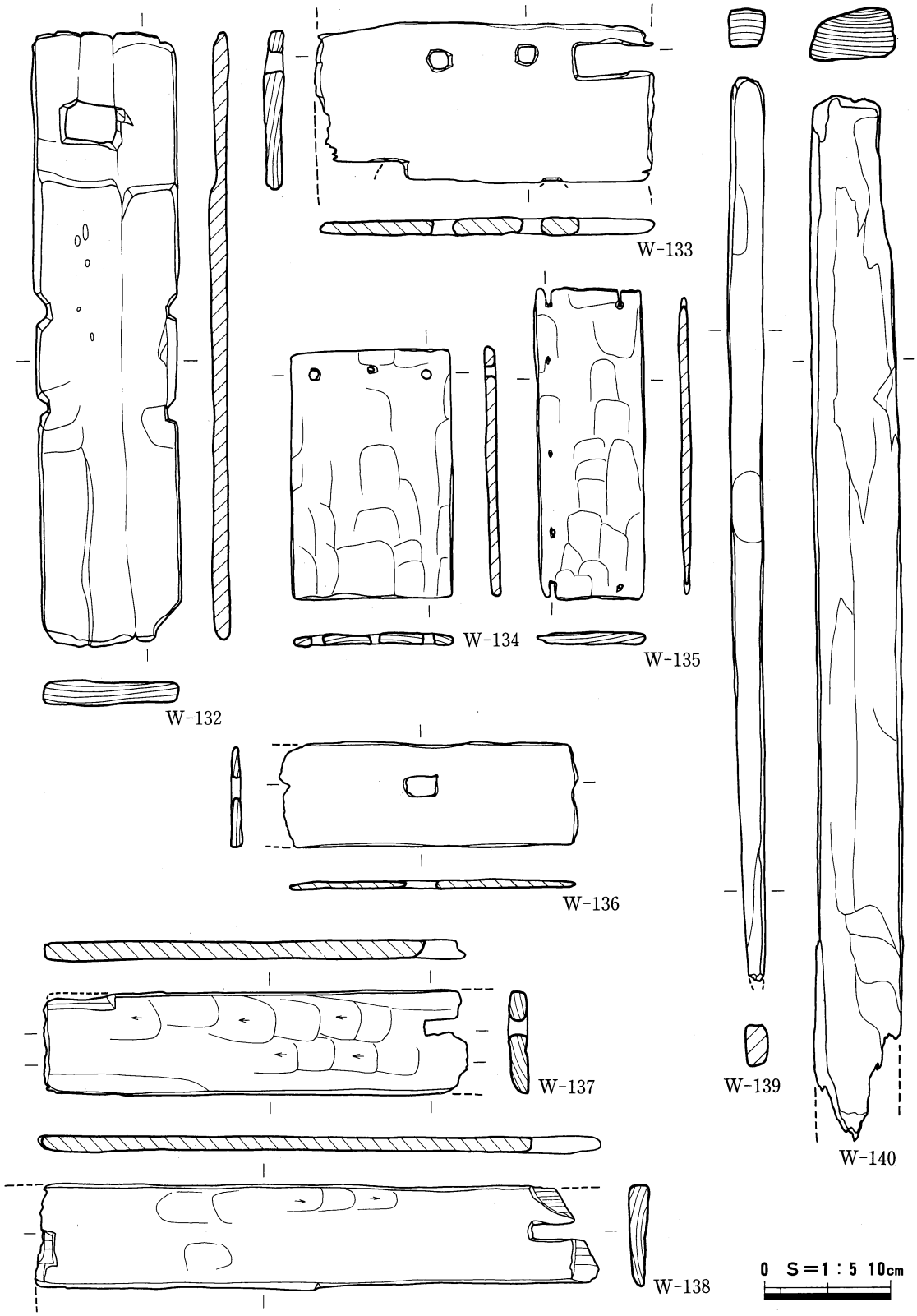
挿図50　4区古墳時代木製品⑽（S＝1/5・1/10）



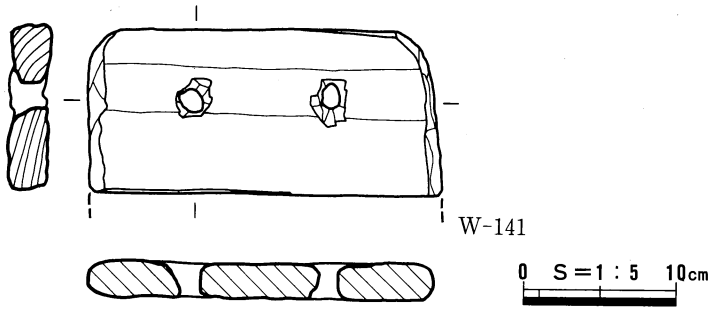
挿図51　4区 SD-05 砂中出土木製品(1)(S＝1/5)



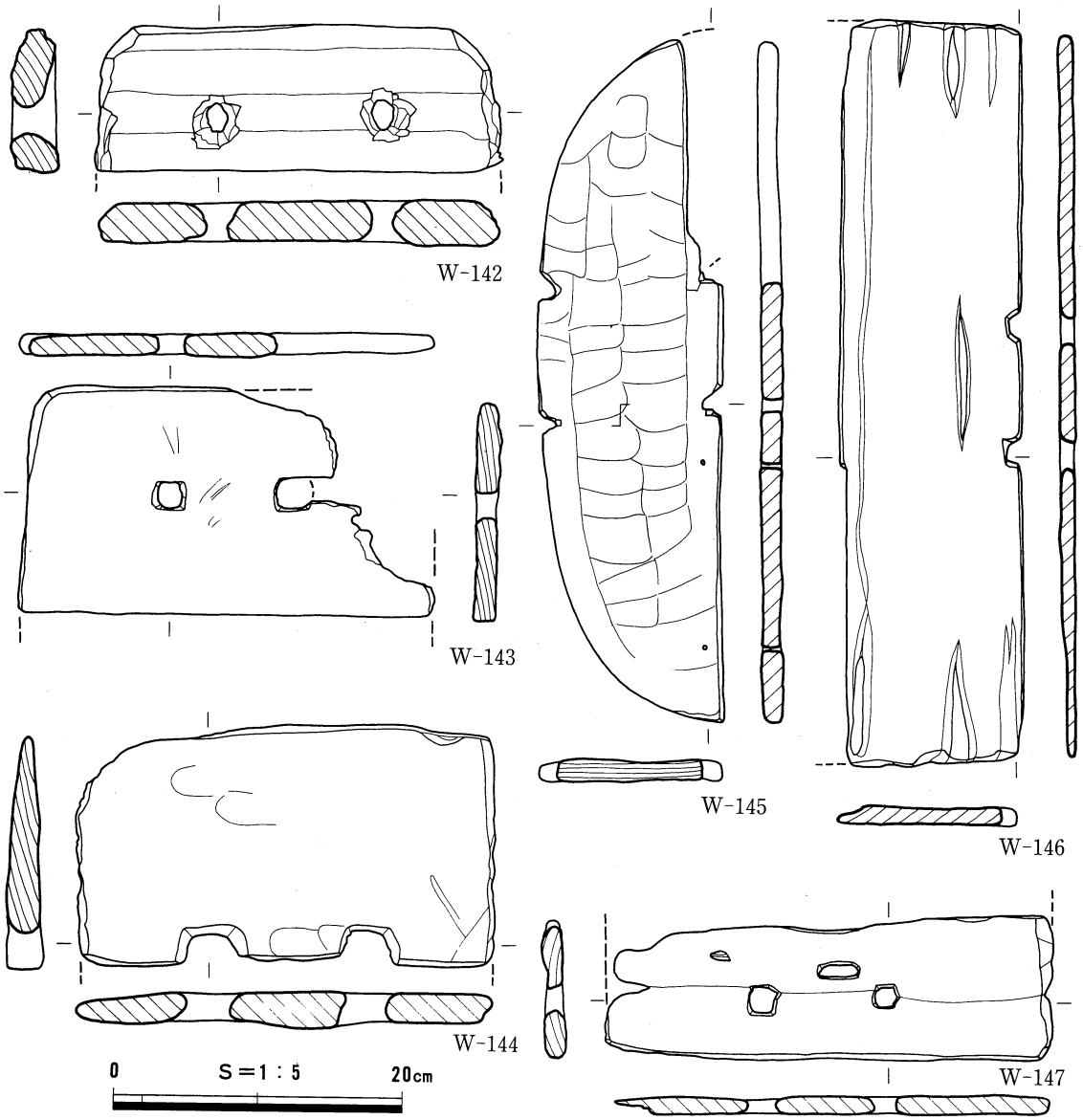
挿図52　4区 SD-05 砂中出土木製品(2)(S＝1/5)



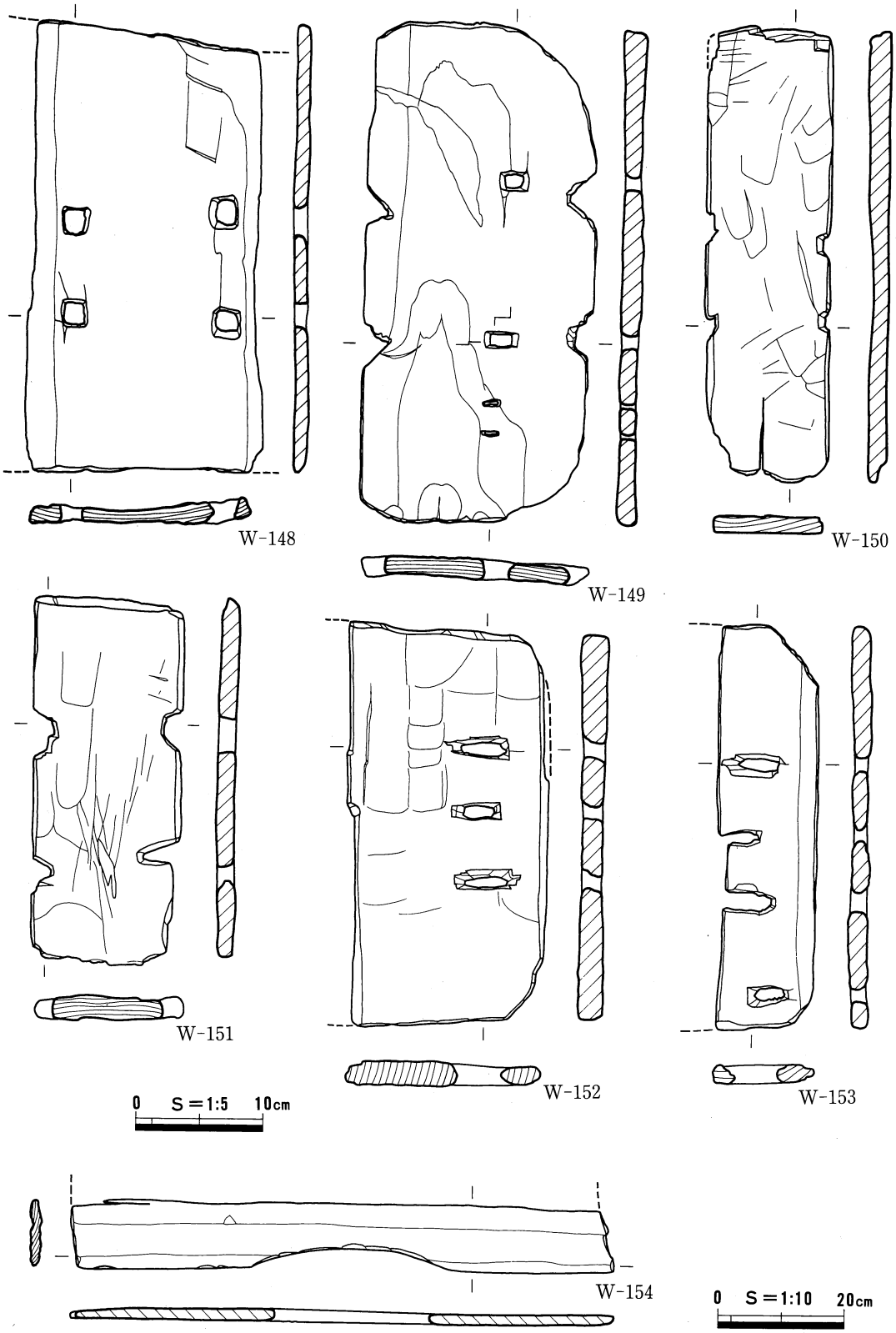
挿図53　4区 SD-05 砂中出土木製品(3)(S=1/5)



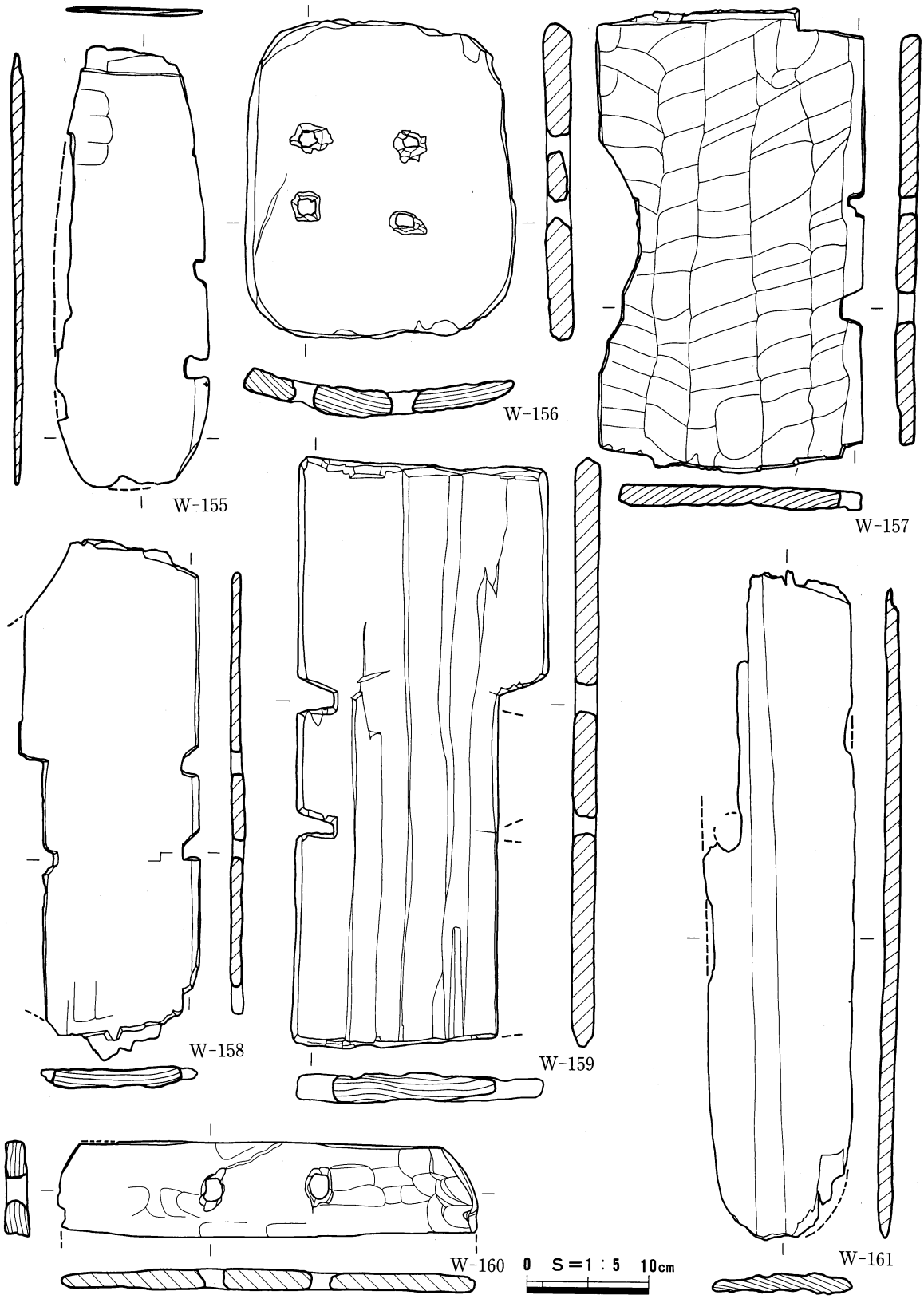
挿図 54　4 区 SD-07 砂中出土木製品（S＝1/5）



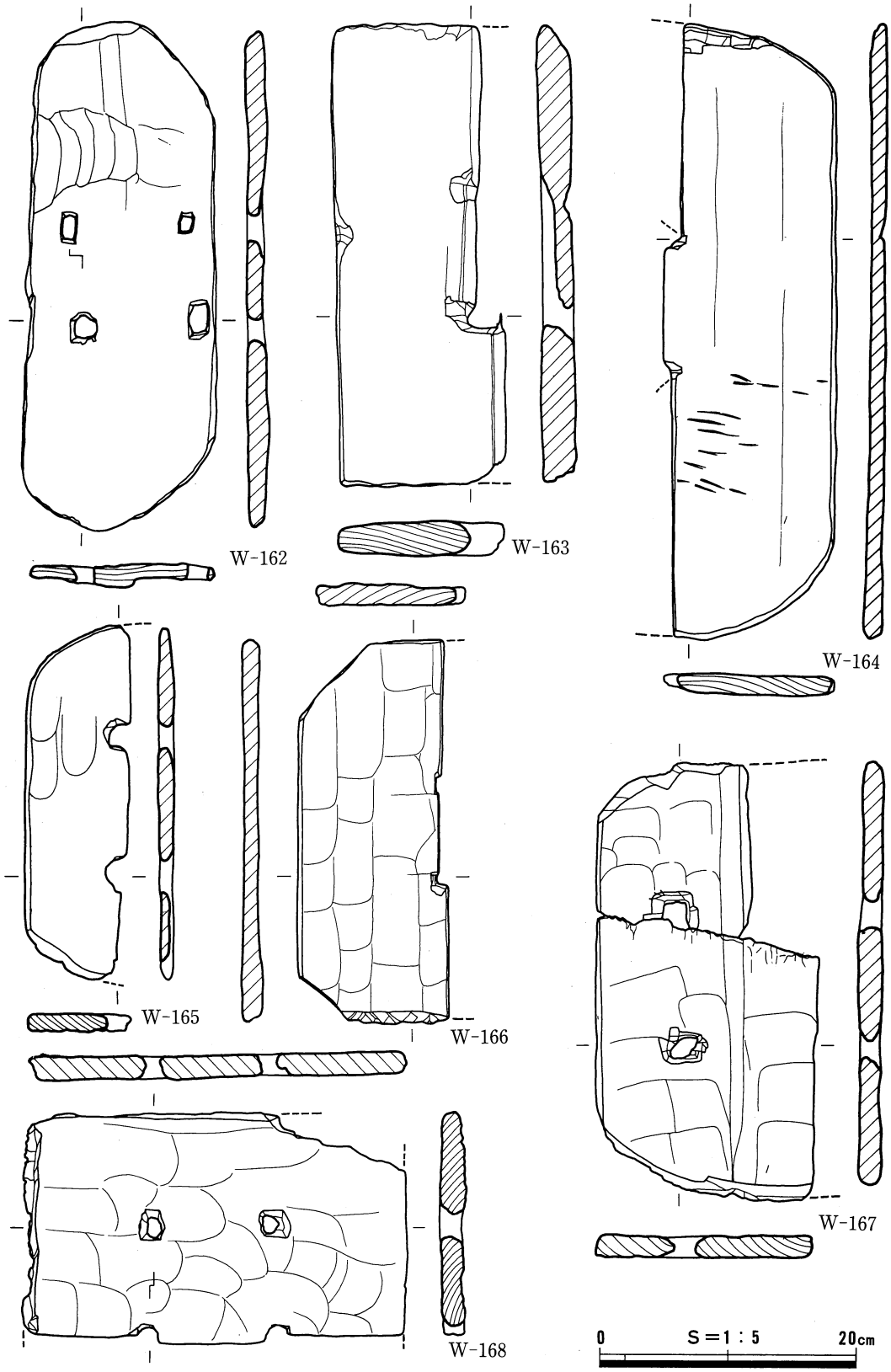
挿図55　4 区弥生時代木製品（S＝1/5）



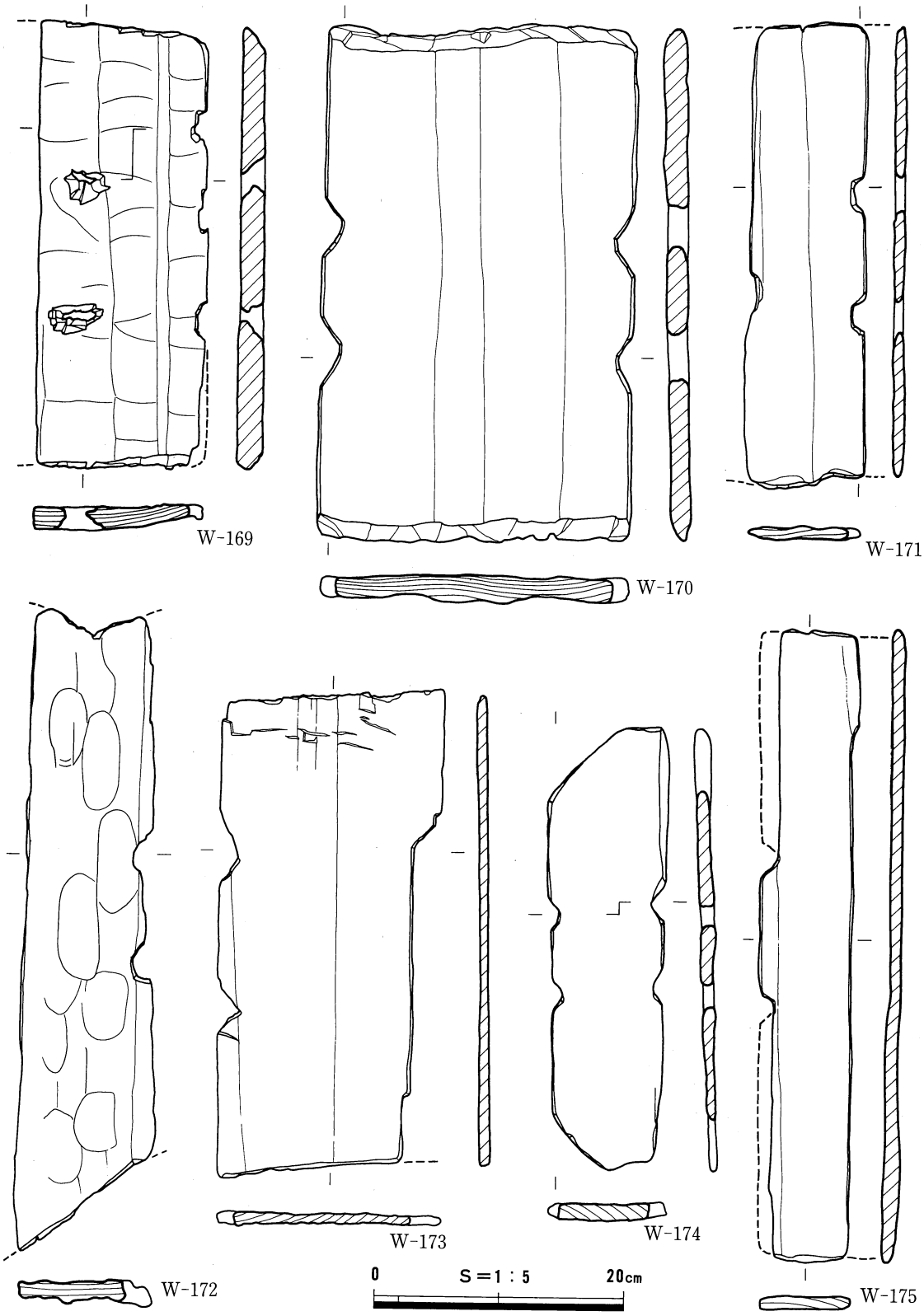
挿図56　5区古墳時代木製品（S＝1/5・1/10）



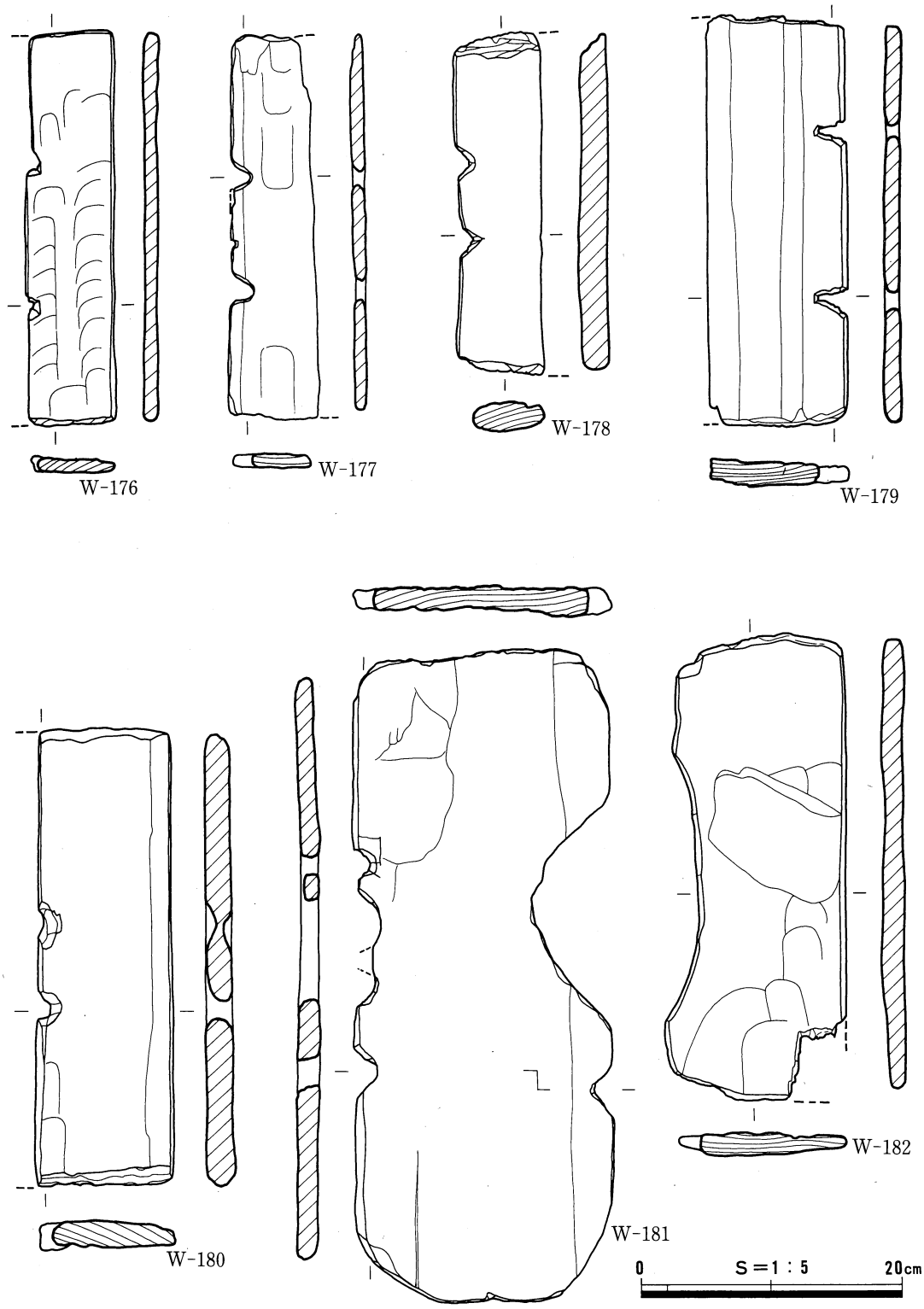
挿図57　5区弥生時代木製品（S＝1/5）



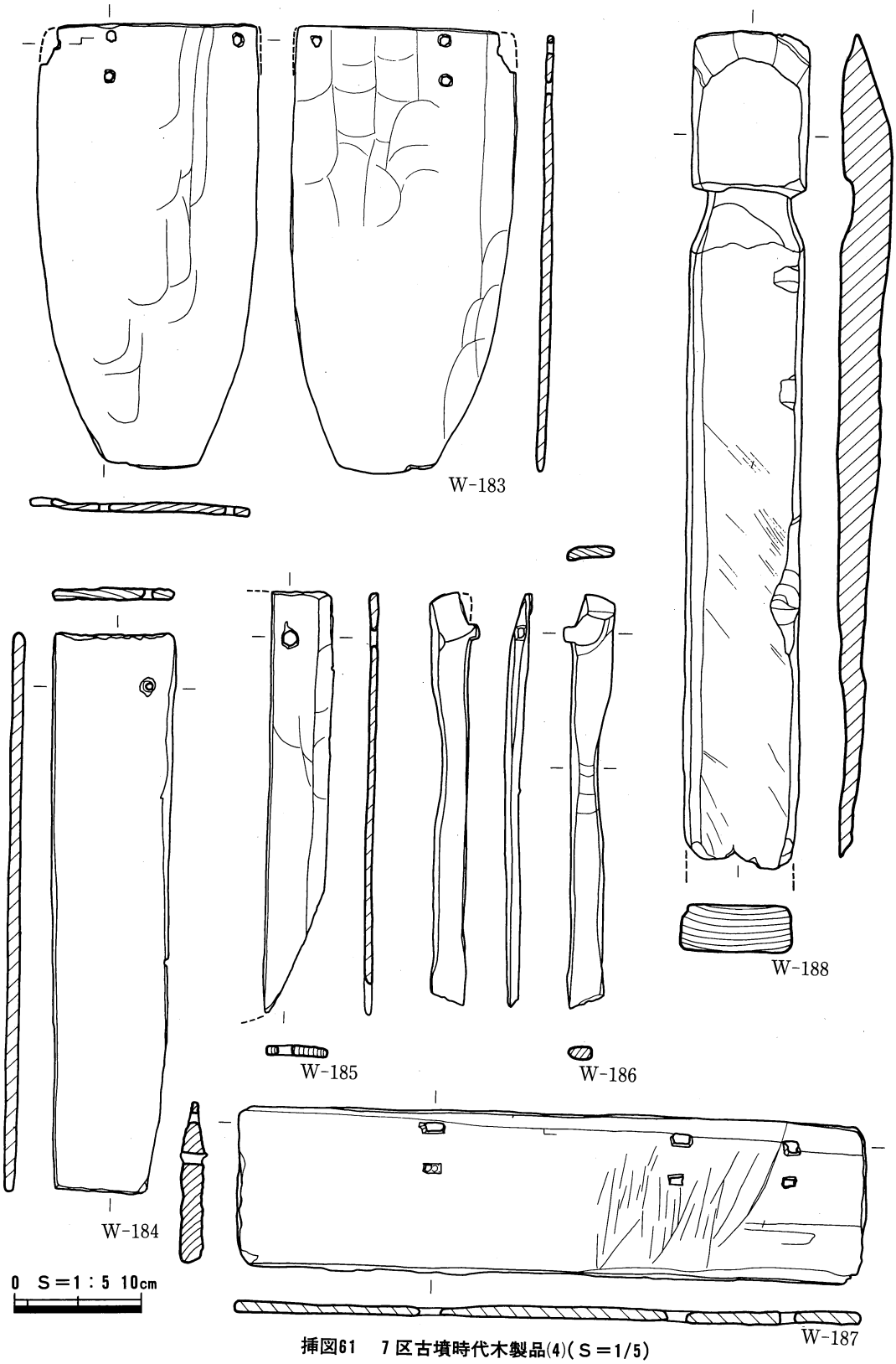
挿図58　7区古墳時代木製品(1)(S＝1/5)



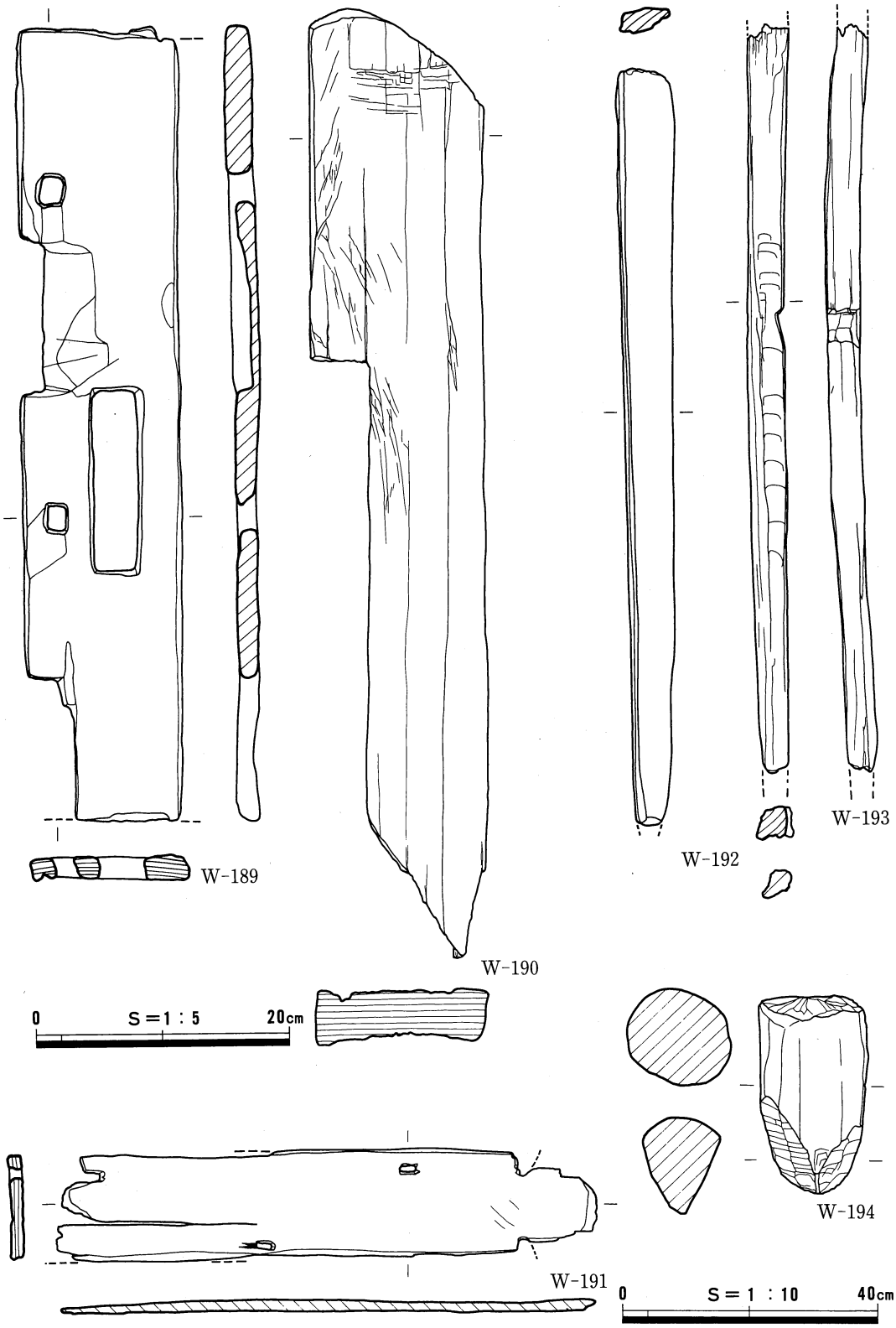
挿図59　7区古墳時代木製品(2)(S＝1/5)



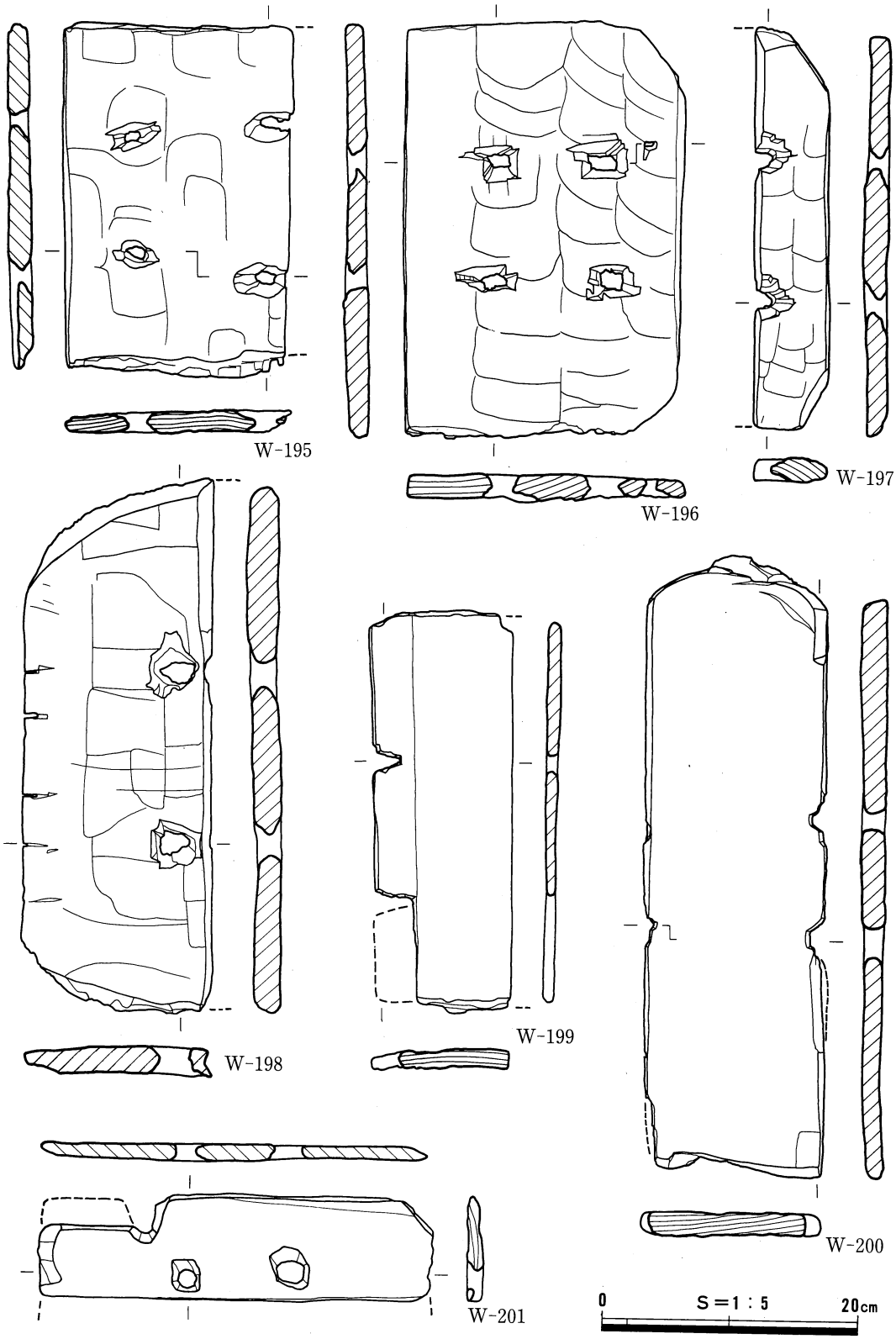
挿図60　7区古墳時代木製品(3)(S＝1/5)



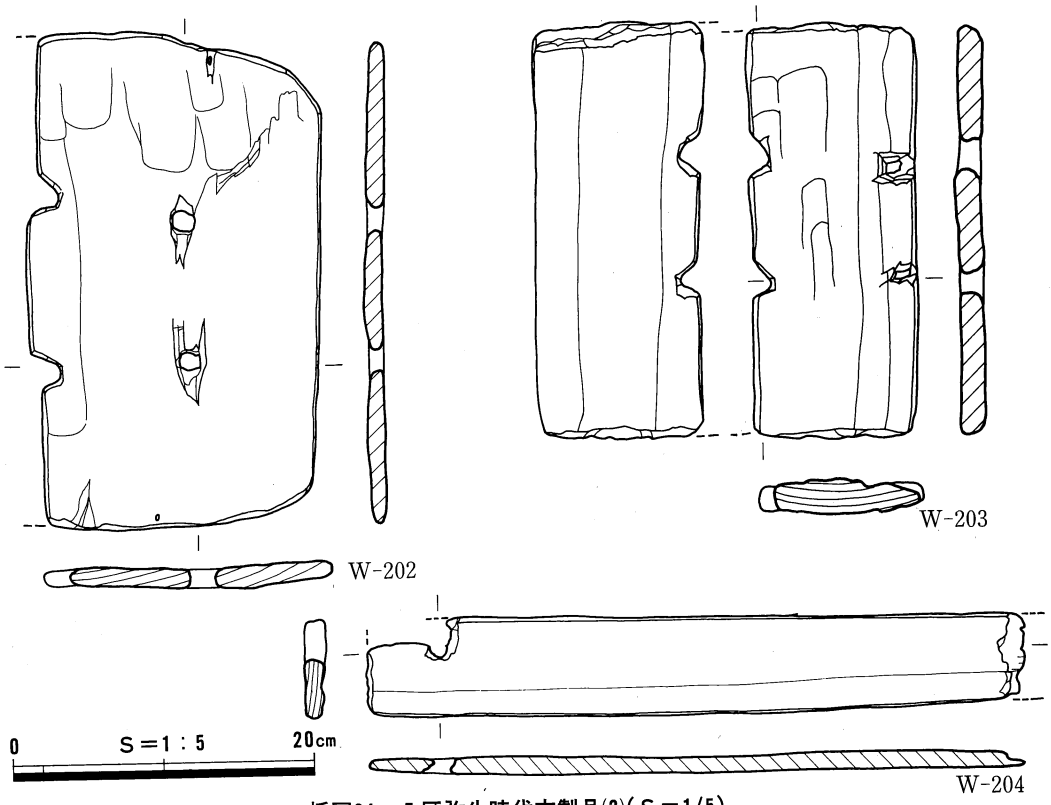
挿図61　7区古墳時代木製品(4)(S＝1/5)



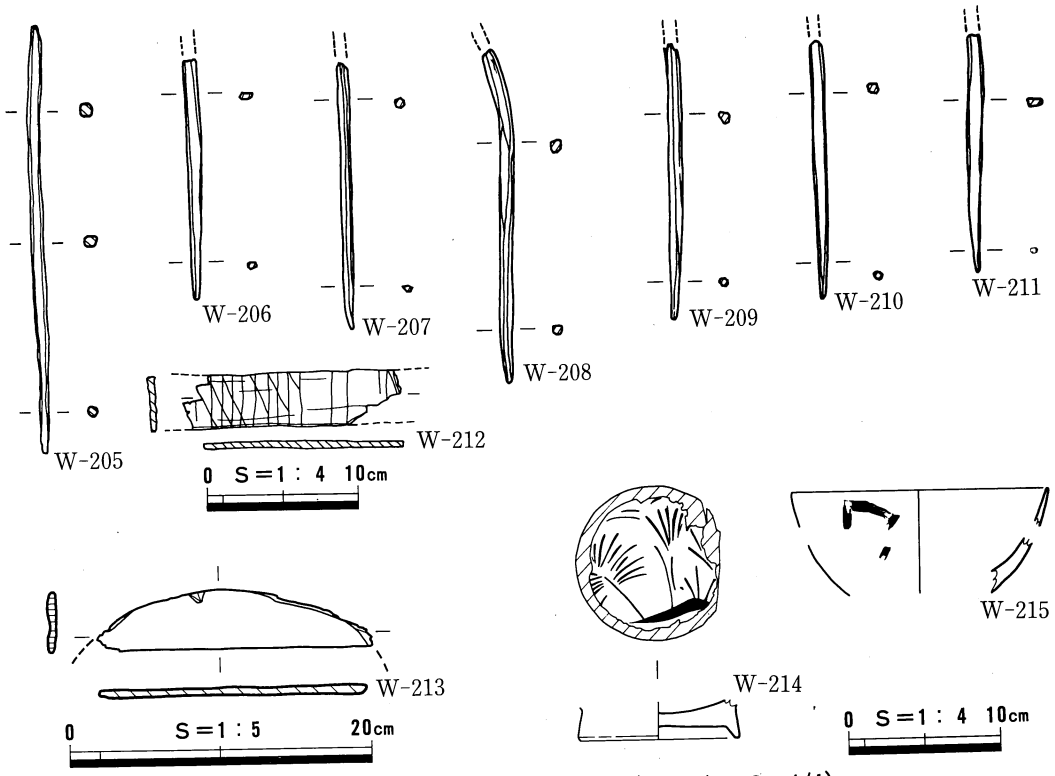
挿図62　7区古墳時代木製品(5)(S＝1/5・S＝1/10)



挿図63　7区弥生時代木製品(1)(S＝1/5)



挿図64　7区弥生時代木製品(2)(S＝1/5)



挿図65　中世層出土木製品(S＝1/5・S＝1/4)